

あ 1-1

あ① 《感》① 驚^{おどろ}いたり、急^{きゆう}に思^{おも}いだしたりしたときに言^いうことば。㊦啊。

哎呀「あ、あぶない、落石^{らくせき}だ//あ、しまった、鍵^{かぎ}を忘^{わす}れた」② 軽^{かる}い応答^{おうとう}や呼^よびかけのとき言^いうことば。㊦啊。哦。「あ、わかりました」

あ 1-2

ああ① 《副》「あのよう(に)」のくだけた言^いい方^{かた}。㊦那么。「ああ高^{たか}くては、買^かえない//ああだこうだ」 ㊦話 →付録「指示語^{しじご}のまとめ」

あ 1-3

ああ① 《感》① 喜^{よろこ}び・悲^{かな}しみ・驚^{おどろ}きなど、感^{かんどう}動したときに言^いうことば。

㊦啊。哎呀。哎呦。「ああ、すばらしい景^け色^{しき}だ//ああ、疲^{つか}れた」② 応答^{おうとう}や、呼^よびかけのとき言^いうことば。㊦啊。唉。「ああ、そうですね」 ㊦類おお

あ 1-4

ああ-いう 《連語》あのような。㊦那种。那样的。「政治家^{せいじか}がああいうこと言^いうのは非^ひ常^{じょう}識^{しき}だ」 ㊦類ああいった. ああした

あ 1-5

アーケード①③ 《名》(arcade) ①半円形^{はんえんけい}の屋根^{やね}をつけた建物^{たてもの}の通路^{つうろ}。㊥拱

廊。连环拱廊。②「①」をつけた商店街^{しょうてんがい}。㊥有圆拱形屋顶的商店街。

あ 1-6

ああ-して① 《連語》「あのようにして」のくだけた言い方。㊥那么着。

「一郎^{いちろう}は、ああして成功^{せいこう}した」 話

あ 1-7

アーチ① 《名》(arch) ①建物^{たてもの}・橋^{はし}などで、上^{うへ}を弓形^{ゆみがた}につくって、下^{した}を空間^{くうかん}に

する構造^{こうぞう}。㊥拱。弧形。弓形结构。②円の弧^{えんこ}。㊥圆弧。

あ 1-8

アート① 《名》(art) 芸術^{げいじゆつ}。美術^{びじゆつ}。㊥艺术。「モダンアート」

あ 1-9

あい① 【愛】《名》①親子^{おやこ}・きょうだい・友達^{ともだち}などを、だいじにしたいと思う

温かい^{あたた}気持ち^{きも}。㊥愛。愛情。友爱。「母^{はは}の便り^{たよ}を読む^よたびに、親^{おや}の愛^{あい}を感じ

る」②男女^{だんじょ}が、たがい^すに好き^{おも}だと思^{きも}う気持ち^あ。㊥愛情。「いつのまにか、愛が

めば 芽生えた」③価値を認めて、大切だと思たいせつう気持おもち。㊤热爱。爱好。「学問がくもんへの

あい
愛」

あ 1-10

あい① 【藍】《名》①濃こい青あおいろ色の染せんりょう料しよくぶつをとる植物。また、とれた染せんりょう料。

㊤蓼藍。靛青。「藍染あいぞめめ」②濃こい青あおいろ色。㊤蓝色。

あ 1-11

あい 【相-】《接頭》①たがいに。㊤相…。互相。「相あいはん反する性せいしつ質//相あいひと等しい」

②一いっしょ緒に。㊤同…。共…。「タクシーに相あいの乗のりする//相あいせき席」③調ちょう子しをととの

えたり、改あらたまった感かんじを出だしたりするために、動どう詞しにつける。㊤附加在动词
之前，调整语调。「あいすみません」

あ 1-12

あいいれな・い①・② 【相いれない】《形》両方りょうほうの気持きもちや、考かんがえ方かたが一致いっちし

ない。㊤互不相容。势不两立。「増税ぞうぜいに關して、大臣かんとは相だいじんいれない意あい見いけんだ」。

あ 1-13

アイエーイーエー⑦ 【IAEA】《名》「International Atomic Energy Agency

こくさいげん しりょく き かん りやく げん しりょく へい わ て き り よう そく しん げん し
〔国際原子力機関〕の略。原子力の平和的利用を促進するとともに、原子

りょく ぐん じ て き り よう ぼう し こくれん き かん
力が軍事的に利用されることを防止する国連の機関。㊦国際原子能机构。

あ 1-14

アイエムエフ㊥ 【 I M F 〕《名》「International Monetary Fund (国際通貨基

きん) 金)」の略。発展途上国への資金援助や、通貨の相場の安定をはかるために

せつりつ こくれん き かん
設立された国連の機関。㊦国際货币基金组织。

あ 1-15

アイエルオー㊥ 【 I L O 〕《名》「International Labor Organization (国際

ろうどう き かん りやく ろうどうしゃ ふく し こうじょう ろうどうじょうけん かいぜん もくてき
労働機関)」の略。労働者の福祉向上、労働条件の改善などを目的とする

こくれん き かん
国連の機関。㊦国際劳工组织。

あ 1-16

アイオーシー㊥ 【 I O C 〕《名》「International Olympic Committee (国際オ

リンピック委員会)」の略。オリンピックを主催する国際組織。開催都市の

せんてい あたら か めいこく しょうにん おこな
選定や新しい加盟国の承認などを行う。㊦国際奥林匹克委员会。国际奥委

会。

あ 1-17

あいかぎ① 【合鍵】《名》正式の鍵とは別の、そのものとそっくりの鍵。

スペアキー。㊦复制的钥匙。备用钥匙。「アパートの合鍵を親に預けておく」

あ 1-18

あいかわらず② 【相変わらず】《副》今までと変わらないようす。㊦仍然。依

旧。「祖母は90歳になりましたが、あいかわらず、元気です」

あ 1-19

あいがん③ 【哀願】《名・自動～する》同情を求めて、願い頼むこと。㊦

哀求。苦苦恳求。「父を助けてくださいと、娘は医者に哀願した」 ㊦類嘆願

あ 1-20

あいきどう④ 【合気道】《名》日本の武道の一種。関節技・当て身などの技を

中心とする護身のための術。㊦合気道。日本武道的一种防身术。

あ 1-21

アイキュー③ 【IQ】《名》「intelligence quotient (知能指数) (ちのうしすう) (りやく) の略。

知能検査 (ちのうけんさ) で得た結果 (え) を、実際の年齢 (じっさいねんれい) で割って 100 をかけたもの。④**智商。智能指数。**

あ 1-22

あいきょう③ 【愛敬”・愛嬌’】《名》①親しみやすいかわいらしさ。④**可爱**

之处。动人之处。「この小犬 (こいぬ) はあいきょうがあつて、みなに好かれて (す) いる」②

人に好かれることば (ひとす) ・態度 (たいど) ・顔つき (かお) につき。④**亲切。好感。**「あいきょうたっぷりの

店員 (てんいん) が客集め (きやくあつ) をしている」△**類愛想**① ③ (「ごあいきょう」 (かたち) の形で) こ

つけいな、または、ほほえましい感じ (かん) を与える (あた) ふるまい。④**令人发笑的言行。**

幽默。「社長 (しゃちょう) の下手 (へた) なカラオケも、ごあいきょう (ひと) の1つだ」

比較 愛嬌 (あいきょう) ・愛想 (あいそ)

2 語とも相手に好感 (かん) を与えることばや態度 (たいど) のこと。あいきょうはもともとその人にそなわ (そ) っていて、自然 (しぜん) に表れるもの。愛想 (あいそ) は相手 (かた) によく思われよう (おもわれよう) と意識 (いしぎ) した行為 (けいゐ) に表れるもの。

◆あいきょうのある子ども (こども) だ/イルカ (イルカ) は賢 (賢) くてあいきょう (あいきょう) もある

◆愛想 (あいそ) よく答 (こた) える/愛想 (あいそ) のいいセールスマン (セールスマン) /愛想 (あいそ) 笑い (笑い)

あ 1-23

あいくるし・い⑤ 【愛くるしい】《形》いかにもかわいらしい。㊦天真可愛。

「2、3歳の子どもは、泣いても、笑っても愛くるしい」名愛くるしさ

あ 1-24

あいご① 【愛護】《名・他動～する》かわいがったり、だいじにしたりして

まも守ること。㊦爱护。保护。「動物や植物を愛護する心^{こころ}を育てる^{そだ}」

あ 1-25

あいこう① 【愛好】《名・他動～する》趣味^{しゅみ}として好き^すであること。㊦爱好。

「モーツァルトのオペラを愛好^{あいこう}している//愛好家^{あいこうか}」

あ 1-26

あいさい① 【愛妻】《名》大切にしている妻^{つま}。また、妻^{つま}を大切に^{たいせつ}すること。

㊦爱妻。心爱的妻子。

あ 1-27

あいさつ① 【挨拶】《名・自動～する》①人^{ひと}と会^あったとき・別^{わか}れるときにす

る動作^{どうさ}や、そのときに言^いうことば。㊦寒暄。应酬话。「午前中^{ごぜんちゆう}に人^{ひと}と会^あった

ら『おはようございます』と挨拶^{あいさつ}する」②儀式^{ぎしき}や会合^{かいごう}のとき、改^{あらた}まって述^のべ

ることば。㊦致词。「来賓^{らいひん}の挨拶^{あいさつ}」 → 付録「挨拶^{あいさつ}のことば」

あ 1-28

アイシー③ 【IC】《名》「integrated circuit(集積回路)の略。半導体の基板に、トランジスター・抵抗・コンデンサーなど回路を埋めこんだ電子回路。㊦集成电路。IC。「ICカード」

あ 1-29

アイシャドー③ 《名》(eye shadow) 目元にアクセントをつけるため、まぶたにぬる化粧品。㊦眼影。

あ 1-30

あいしゅう① 【哀愁】《名》もの悲しい感じ。㊦哀愁。悲哀。「夕暮れの街に哀愁をおびた曲が流れる」 類 哀感. 悲哀

あ 1-31

あいしょう① 【愛称】《名》親しみをこめて呼ぶ名前。㊦爱称。昵称。 類 ニックネーム. あだ名

あ 1-32

あいしょう③ 【相性・合い性】《名》^{だんじょ ゆうじん}男女・友人などの間での、^{あいだ}性格がう

まく合うかどうか。㊥^{えんぶん}缘分。脾气的投合。「^{ようこ}洋子とは^{あいしょう}相性がよくて、^{ねんらい}30年来のつきあいだ」

あ 1-33

あいじょう① 【愛情】《名》①^{ひと}人やものに対する^{たい}温かく、^{あたた}いつくしみ深い^{ぶか きも}気持ち。㊥^{あい}愛。愛之情。「^こわが子に^{あいじょう}愛情をたっぷりそそぐ」②^{いせい}異性を恋いたう^こ気持ち。

ち。㊥^{おな}愛情。「^{せんぱい}同じゼミの先輩に^{あいじょう}愛情をいただくようになった」

あ 1-34

あいじん① 【愛人】《名》^{ひと}人に知られたくない^{れんあい}恋愛の相手。㊥^{れんあい}恋人。情人。

「^{じろう}次郎は^{しんこん}新婚だが、^{あいじん}愛人がいるらしい」

あ 1-35

アイス① 《名》(ice) ①^{こおり}氷。また、^{こおり}氷で^ひ冷やしたもの。㊥^{こおり}氷。冰冻。「ア

イスティー」②「アイスクリーム」「アイスキャンディー」の^{りやく}略。㊥^{こおり}氷激凌。

あ 1-36

あいず① 【合図】《名・自動～する》^{まえ}前もって^{やくそく}約束して^{かた}おいたやり^し方で知ら
せること。また、その^{しんごう}信号・^みサイン・^み身ぶりなど。㊥**信号**。**暗号**。「^{けいかん}警官は、
^{ふえ}笛で^{あいず}合図して^{くるま}車を^と止めた」

あ 1-37

アイスクリーム⑤ 《名》(ice cream) ^{ぎゅうにゅう}牛乳・^{さとう}砂糖・^{たまご}卵などを^{こお}まぜて、^{こお}凍ら
せた^{かし}菓子。㊥**冰激凌**。**雪糕**。

あ 1-38

あい・する③ 【愛する】《他動する》①^{あいて}相手の^{ねが}しあわせを^す願って、^す好きにな
り^あかわいがる。㊥**愛**。**爱恋**。「^{あい}愛する^{ひと}人の^{いのち}ためには、^お命も^す惜しまない」②も
のごとに^{つよ}強く^{こころ}心が^{した}ひかれて^{した}親しむ。㊥**热爱**。**喜爱**。「^{しぜん}自然を^{あい}愛する^{こころ}心を^{そだ}育て
る」△^{あい}愛す ^{にく}対^{きら}憎む. ^{きら}嫌う

あ 1-39

あいせき① 【相席 [合い席]】《名》^{いんしょくてん}飲食店などで、^し知らない^{ひと}人と^{おな}同じ^{せき}席に
つくこと。㊥(和**不認識**的人) **同坐一桌**。 ^{あいきやく}類**相客**

あ 1-40

あいそ③ 【愛想】《名》①人にいい感じを与える態度やことば。あいそう。

㊤親切、和藹（てんいん 的態度、语言）。「このスーパーの店員たちはにこにこしてい

て、愛想がいい」類あいきょう⇒比較欄 ②人に対する好意。㊤好意。好感。

「何度も失敗を繰り返す部下に、愛想がつきる//愛想をつかす」③⇒お愛想

「お愛想を言う」

あ 1-41

アイソトープ④ 《名》(isotope) どういげんそ 同位元素。㊤同位素。「アイソトープ治療」

あ 1-42

あいそわらい④ 【愛想笑い】《名》相手の機嫌を取るための笑い。㊤陪笑脸。

讨好的笑。

あ 1-43

あいだ① 【間】《名》①2つのものにはさまれた空間・時間・平面・部分な

どのへだたり。㊤間隔。中间。…之间。「車の間を、急いで通り抜ける」②

区切られたひと続きの時間。㊤期间。「夏休みの間に運転免許を取る」③人と

人との関係。㊤…之间。「結婚後、夫婦の間はうまくいっている」

あ 1-44

あいだがら ㊦ 【間柄】《名》①^{けつぞく しんせき}血族・^{つづ がら}親戚などの^{つづ がら}続き柄。㊦（**血缘、亲属**）
关系。②^{ひと ひと}人と人との^{かんけい}関係。㊦**交往关系。交情。**

あ 1-45

あいちやく ㊦ 【愛着】《名・自動～する》あるものや人^{ひと す}が好きで、^{はな}離れられ
なく^{おも}思う。また、その^{きも}気持ち。あいじやく。㊦**留恋。依恋难舍。**「^{はじめ}初めての^{きゅうりょう}給料
で^か買った^{とけい}時計だから、^{ふる}古くなっても^{あいちやく}愛着がある」

あ 1-46

あいつ ㊦ 《代名》「あの人」^{ひと}「あれ」のぞんざいな^{い かた}言い方。㊦**那个家伙。那**
小子。他（她）。「あいつの^{かお}顔^みなど見たくない」 ㊦ →付録「^{ふろく しじご}指示語のまとめ」

あ 1-47

あいつ・ぐ ㊦ 【相次ぐ】《自動五》（あいついで）^{つぎ}次から^{つぎ}次と^お起こる。㊦**相**
继发生。连续不断。「^{ことし あき}今年の秋は、^{あいつ}相次いで^{おおがた}大型の^{たいふう}台風におそわれた」 ㊦

あ 1-48

あいづちを-うつ 【あいづちを打つ】相手の話に合わせて、ことばを言う。

㊤随声附和。应和。「話を聞きながら、あいづちを打つ」

あ 1-49

あいて㊤ 【相手】《名》①ものごとを一緒にする、もう一方の人。また、何か

をするときの対象になる人。㊤伙伴。对方。「出発は相手の都合次第だ」②

対抗して争う先方。㊤对手。敌手。「相手は優勝候補だ」

あ 1-50

アイデア㊤① 《名》(idea) 思いつき。考え。アイディア。㊤想法。主意。

构思。「アイデア商品」 類着想

あ 1-51

アイティー㊤ 【IT】《名》「information technology (情報通信技術)」

の略。インターネットなどコンピューターを使って行う。㊤IT。信息技术。

あ 1-52

アイデンティティー③ 《名》(identity) 自己同一性。自分^{じぶん}は自分^{じぶん}であって、

他人^{たにん}とは違う^{ちが}という意識^{いしき}。㊥自我同一性。主体性。

あ 1-53

あいとう① 【哀悼】《名・他動～する》人^{ひと}の死^しを悲しみ^{かな}、なげくこと。㊥哀

悼。吊唁。「つつしんで哀悼^{あいとう}の意^いを表^{ひょう}します」 類^{ついで}追悼

比較 哀悼^{あいとう}・追悼^{ついで}

2語とも人の死を悲しみなげくことだが、哀悼が亡くなったときの行為であるのに対して、追悼は後からその人の生前をしのぶこと。

◆つつしんで哀悼の意をささげます/友の死を深く哀悼する

◆師の追悼論文集を刊行する/亡き友の追悼の会を開く

あ 1-54

アイドル① 《名》(idol) あこがれの的^{まと}にされる人^{ひと}。㊥偶像。被崇拜的对象。

「アイドル歌手^{かしゅ}」 類^{にんきもの}人気者

あ 1-55

あいなかば・する①・② 【相半ばする】《自動する》どちらも同じ^{おな}くらいで

ある。㊥各半。兼半。「新提案^{しんていあん}には、賛成^{さんせい}と反対^{はんたい}が相半ば^{あいなか}している」 書

あ 1-56

あいにく ㊦ 《副・形動》 ちょうどその時、都合の悪いことが起こったよう
す。㊦偏巧。不凑巧。「デパートへ買い物に行ったら、あいにく臨時休業だ
った」

あ 1-57

アイヌ ㊦ 《名》 (アイヌ Aynu) 主として北海道に住む日本の先住民族。㊦阿伊
努族。阿伊努人。主要居住在北海道的日本土著民族。「アイヌ文化//アイヌ語」

あ 1-58

あいのり ㊦ 【相乗り】《名・自動～する》①タクシーなどに一緒に乗ること。
㊦同坐一辆车。同骑一辆车。「タクシーに相乗りする。」②一緒に何かをする
こと。㊦合伙做…。联合进行…。「旅行の計画に相乗りさせてもらう」

あ 1-59

あいぼう ㊦㊧ 【相棒】《名》一緒に仕事をしたり、遊んだりする仲間。㊦伙
伴。搭档。「会社の相棒とスキーに行く」 話

あ 1-60

あいま③① 【合間】《名》^{つづ}続いているものごとが、とぎれた^{じかん}時間。㊦空儿。

空闲时间。「仕事^{しごと}の合間^{あいま}に、メールをチェックする」

あ 1-61

あいまい① 【曖昧】《形動》はっきりしないようす。㊦含糊。模稜。^{だいじん}「大臣の

^{とうべん}答弁はあいまいで、^{せきにな}責任を取るのか^と取らないのか^とわからない//^{あいまいもこ}曖昧模糊/模稜

两可」^{あいまい}名曖昧さ ^{めいかく めいりょう}対明確. 明瞭 ^{ふめいかく ふめいりょう}類不明確. 不明瞭. あやふや

あ 1-62

あいよう① 【愛用】《名・他動～する》^{き い}気に入って、いつも^{つか}使う。㊦愛用。

あ 1-63

あいらし・い④ 【愛らしい】《形》^{ちい}小さい・^{おきな}幼い・^{うつく}美しい^{ひと}人やもの^{こころ}に心を

ひかれるようす。かわいらしい。㊦惹人喜爱的。可爱的。「^{ようじ}幼児の^{あい}愛らしいし

ぐさに、^{こころ}心がなごんだ」^{あい}名愛らしさ ^{かれん}類かわいい. 可憐だ

あ 1-64

アイロン① 《名》(iron) ^{ねつ}熱と^{おも}重みで^{ぬの}布の^のしわを^の伸ばす^{きぐ}器具。㊦熨斗。「ス

チームアイロン/蒸汽熨斗」

あ 1-65

あ・う① 【合う】《自動五》(あつて) ① ^{ふた いじょう}2つ以上 ^{ひと}のものごとが、1つになる。㊥**統一**。合一。「^{ふた がわ あ}2つの川が合^{おお}って、^{なが}大きな流れになる」^{はな}△**対離**れる ②一致する。㊥**一致**。相同。「^{いけん あ}みんなの意見が合^{おお}う」③ ^{おお}大ききなどが^ちちょうどいい。正確である。㊥**合适**。「^{ふく}服のサイズが合^あう//^{けいさん あ}計算が合^あう」④ ^{ちょうわ}調和する。㊥**適合**。协调。「^{かべ いろ}カーテンが、^あ壁の色によく合^あっている」⑤ (動詞の連用形について) ^{おな どうき}同じ動作を^{い あ}たがいに^あにする。㊥**一块儿**…。**互相**…。「^{い あ}言い合^あう//^あほめ合^あう//^{な あ}投げ合^あう」

あ 1-66

あ・う① 【会う】《自動五》(あつて) ① ^{ひと かお あ}人と顔^あを合^あわせる。㊥**遇见**。**碰到**。「^{あさ ひと あ}朝、人と会^いったら『^いおはようござ^{とき}います』と^{とき}言う」② ^{とき}時と^{ばしょ}場所を^き決めて、^{いっしょ}一緒にな^{はなし}って話^{はなし}をする。㊥**见面**。**会见**。「^{ちよくせつ あ}直接^あ会^{そうだん}って相^あ談^{わか}する」△**対別**れる

あ 1-67

あ・う① 【遭う】《自動五》(あつて) ^{おも}思いが^でけないことに出^ああう。㊥**遭遇**。**遇上**。「^{ゆうだち}夕立にあ^{どうなん}う//^あ遇到^あ驟雨//^あ盗難にあ^あう」

あ 1-68

アウト① 《名》(out) ①テニス・バレーボールなどで、球がコート^{たま}の線^{せん}の外^{そと}に出ること。Ⓜ出界。対イン ②野球^{やきゅう}で、その回^{かい}のバッターまたはランナーが、その資格^{しかく}を失^うしなうこと。Ⓜ出局。対セーフ

あ 1-69

アウトプット④ 《名・他動～する》(output) コンピューターが処理^{しょり}した結^{けつ}果^かを取りだすこと。Ⓜ輸出。计算机处理后得出的结果。対インプット

あ 1-70

アウトライン④ 《名》(outline) ①物^{もの}の形^{かたち}の外側^{そとがわ}の線^{せん}。Ⓜ轮廓。外形。類 輪郭^{りんかく} ②論文^{ろんぶん}や文章^{ぶんしょう}などを、大まか^{おお}かにまとめたもの。Ⓜ梗概。提纲。類 概要^{がいよう}。

あらまし

あ 1-71

あえぎあえぎ④ 《副》苦し^{くる}そうに荒^{あら}い呼^こ吸^{きゅう}をするようす。Ⓜ呼^こ吸^{きゅう}呼^こ吸^{きゅう}。「急^{きゅう}な山道^{やまみち}をあえぎあえぎ^{のぼ}登^{のぼ}る」

あ 1-72

あえ・ぐ② 《自動五》(あえいで) ①苦し^{くる}そうに、早く^{はや}呼吸^{こきゅう}する。㊤喘。

气喘吁吁。「あえぎながら坂道^{さかみち}を上^{のぼ}る」 ②うまくいかないで苦し^{くる}む。㊤苦于。

挣扎。「レポートが書^かけなくて、あえいでいる」

あ 1-73

あえて① 《副》①困難^{こんなん}や抵抗^{ていこう}があることを知りながら、自分^しから進^{じぶん}んです

るようす。㊤偏要。敢。「リスクも大き^{おお}いが、あえて新薬^{しんやく}を採^{さい}用^{よう}してみる」 ②

(「あえて～ない」の形^{かたち}で) 特^{とく}に～するほどではない。無理^{むり}に～する必要^{ひつよう}は

ない。㊤并不。用不着。「多数^{たすう}で決^きめたことに、あえて反^{はん}対^{たい}はしない」 △書

あ 1-74

あ・える② 【あえる [和^あえる]】《他動一》野菜^{やさい}や魚介類^{ぎょかいりゅう}などをゆでたもの

に、ごま・酢^す・みそなどの調味料^{ちようみりよう}をまぜて、合^あわせる。㊤拌以两种以上的

調味料。拌。「野菜^{やさい}と魚^{さかな}を味噌^{みそ}であえる」

あ 1-75

あお① I 【青】《名》①色^{いろ}の1つ。澄^すんだ空^{そら}や海^{うみ}のような色^{いろ}。㊤青。藍。碧。

②緑色^{みどりいろ}。㊤青綠色。草色^{わかば}。「若葉^{あおめ}の青^{あお}が目^めにしみる」 ③交通信号^{こうつうしんごう}で、「進^{すす}め」

を意味する色。㊦緑（信号）灯。「信号が青になったら横断する」 ㊧対赤 II

【青-】《接頭》若く未熟だ。㊦年轻的。尚不成熟的。「青くさい//青二才/黄口小儿」

あ 1-76

あおあお㊢ 【青青・青々】《～（と）副・自動～する》非常に青く、また、緑に見えるようす。㊦青翠。绿油油。「夏になると、木々の葉が青々と茂る」

あ 1-77

あお・い㊡ 【青い】《形》①青の色をしている。㊦蓝。蓝色的。「青い海//青く晴れた空」②緑の色をしている。㊦绿色的。青色的。「このトマトは青くてまだ食べられない」③顔色が悪い。㊦苍白的。「青い顔をしているけれど、気分が悪いの？」 △㊧名青. 青さ

【青くなる】恐れや心配のために、顔色が白っぽくなる。㊦脸色一下子变白。

「パスポートをなくしたことに気がついて、青くなった」

あ 1-79

あおいきといき③・④ ⑤ 【青息吐息】《名》生活^{せいかつ}が苦^{くる}しく困^{こま}っている状^{じょうたい}態。

㊦ (愁得) 长吁短叹。无计可施。「農産物^{のうさんぶつ}が売^うれなくて、農家^{のうか}は青息吐息^{あおいきといき}だ」

あ 1-80

あお・ぐ② 【仰ぐ】《他動五》(あおいで) ①顔^{かお}を上^{うへ}に向^むけて高^{たか}い所^{ところ}を見^みる。

㊦仰。抬头看。「満天^{まんてん}の星^{ほし}をあおぐ」 類^{あおむ}仰向^く ②尊敬^{そんけい}する。㊦尊为。推为。

「人生^{じんせい}の師^しとあおぐ」 類^{うやま}敬^う

あ 1-81

あお・ぐ② 【あおぐ〔扇ぐ〕】《他動五》(あおいで) うちわや扇子^{せんす}などで風^{かぜ}

を起^おこす。㊦扇(風)。 「うちわであおいで涼^{すず}む」

あ 1-82

あおくさ・い④ 【青臭い】《形》①青草^{あおくさ}のよう^なにおい^がする。㊦带有青草

味^{あじ}儿。「この野菜^{やさい}ジュースはすこし青^{あお}くさい」 ②未熟^{みじゆく}である。㊦不成熟的。

幼稚^{ちうい}的。「あくまで理想^{りそう}を求^{もと}めると言^いったら、青^{あお}くさいと笑^{わら}われた」 △名^{あおくさ}青臭^さ

あ 1-83

あおざ・める④ 【青ざめる】《自動一》心配・驚き・恐ろしさなどで、顔色が

青白くなる。㊥ (脸色) 苍白。「部屋の鍵をなくして、青ざめた」

あ 1-84

あおじゃしん③ 【青写真】《名》①設計図などの複写に用いる写真の一種。

㊥ 蓝图。草图。「新庁舎の青写真を見せて知事に説明する」②将来の計画。

㊥ 初步计划。草案。「震災復興の青写真を住民とともに描く」

あ 1-85

あおじろ・い④ 【青白い】《形》①青い色が入って白い。㊥青白色的。「青白

い月の光が窓から差しこむ」②顔色が白っぽくて悪い。㊥苍白的。「病気が

治ったばかりで、まだ青白い顔をしている」△名青白さ

あ 1-86

あおしんごう③ 【青信号】《名》交差点などの道路を、進行してよいと知ら

せる信号。実際は緑色。㊥绿色信号灯。绿灯。対赤信号

あ 1-87

あおすじを-たてる 【青筋を立てる】こめかみに青筋が浮き出て見えるほど、

激しく怒る。㊥（气得）青筋暴露，面红耳赤。「盆栽の枝を折られた祖父は、

青筋を立てて怒った」

あ 1-88

あおぞら ㊦ 【青空】《名》①青く晴れわたった空。㊥蓝天。青空。類青天井

②（場所を表す名詞の前について）屋根がないこと。㊥露天。「青空教室//

青空市場」 類屋外. 野外

あ 1-89

あおたがい ㊧ 【青田買い】《名》①収穫量の見当をつけて、イネが実る前

の青い田のうちに米の買い取りの約束をすること。㊥在庄稼收获前预先订购

粮食。対青田売り ②卒業のずっと前に、企業などが学生と採用の約束を

すること。㊥企业在学生毕业之前就定好雇用契约。「優秀な人材を確保する

ために、大企業は青田買いを始めた」 俗 類青田刈り

あ 1-90

あおば① 【青葉】《名》木や草の緑色の葉。特に、初夏のみずみずしい若い葉。
④嫩叶。绿叶。「目には青葉 山ほととぎす 初鰹 (素堂)」 類若葉・新緑

あ 1-91

あおみ③③ 【青み・青味】《名》ある色に加わった青の程度。青い感じ。④
青 (緑) 度。「湖 は青みをおびて、神秘的だ」 類青さ

あ 1-92

あおむ・く③③ 【あおむく [仰'向く]】《自動五》(あおむいて) 上を向く。
④仰。向上仰。「あおむいて一番星を見る」 名あお向き 他動あお向ける 対う
つむく 類仰ぐ

あ 1-93

あお・る② 【あおる [煽'る]】《他動五》(あおって) ①風を起こす。④吹
動。「暖炉の火をあおる」 類あおぐ ②他人を刺激して、何かをするように
させる。④煽動。鼓動。「不安をあおる」 類扇動する。たきつける

あ 1-94

あか② 【垢'】《名》皮膚のあぶらや汗が、ほこりとまじってできる汚れ。

㊦汚垢。油泥。「温泉で旅のあかを流す」

あ 1-95

あか① 【赤】《名》①色の1つ。血や火のような色。㊦紅。紅色。「火が赤く

燃える//赤鉛筆」②「①」のような茶色。㊦紅褐色。「赤い靴//赤毛」③交通

信号で「止まれ」を意味する色。㊦红灯。「信号が赤だから止まる」対青 ④

〔アカ〕共産主義者。㊦赤色分子。「戦時中は、マルクスを読む者はアカと

された」俗 ⑤（「赤の」の形や、他の名詞について）完全な。全くの。

㊦完全。「赤裸」

【赤の他人】まったく関係のない人。㊦毫不相干的人。陌生人。「一郎とぼく

は、顔はよく似ているが赤の他人だ」

あ 1-97

あかあかと③ 【赤赤と・赤々と】《副》^{ひじょう あか み}非常に赤く見えるようす。㊥**红彤彤地。火红。**「^{だんろ ひ あかあか も}暖炉の火が赤々と燃える//^{ゆうひ あかあか にし そら そ}夕日が赤々と西の空を染める」

あ 1-98

あかあかと③ 【明明と・明々と】《副》^{ひじょう あか}非常に明るいようす。㊥**亮堂堂。**
明晃晃。「^{あかあか}明々と^{かがや}シャンデリアが輝く//^{つき あかあか みち て}月が明々と道を照らす」

あ 1-99

あか・い① 【赤い】《形》^{あか いろ}赤の色をしている。㊥**红色的。红的。**「^{ねつ で}熱が出て、
^{かお あか あか はな}顔が赤い//赤いバラの花」名赤. 赤さ

あ 1-100

あが・く② 《自動五》(あがいて) ①^{くる てあし うご}苦しんで手足をやたらに動かす。㊥**(马
等) 用前蹄刨地。**「^{おぼ いぬ ひっし}溺れた犬が、必死にあがいている」②じたばたあせって、
もがく。㊥**挣扎。手脚乱动。**「^{ろんぶんていしゆつまえ こわ}論文提出前にパソコンが壊れて、あがいてい
る」△名あがき

あ 2-1

あかご② 【赤子】《名》生まれて間もない子。赤ん坊。㊦**婴儿**。㊧乳児。乳

の飲み子

【赤子の手をねじる】弱い者をいじめる。きわめてたやすくできる。㊦**轻而易举**。

易举。不費吹灰之力。「小学生チームが相手では、赤子の手をねじるよう

なものだ」㊧**似た表現**赤子の手をひねる

あ 2-3

あかし② 【証】《名》①あることが確かであるという証拠。㊦**证据**。证明。

②無実・潔白であることの証明。㊦**清白的证据**。「血液型が違うのが、事件と

無関係のあかしだ」

あ 2-4

あかじ② 【赤字】《名》収入よりも支出が多いこと。㊦**赤字**。亏空。「家計

が赤字だから、家族旅行は中止だ」㊧**対黒字**

あ 2-5

あかしんごう③ 【赤信号】《名》交差点や踏み切りにあって、「止まれ」と知

らせる信号。㊦**红灯**。停止信号。㊧**対青信号**

あ2-6

あか・す②② 【明かす】《他動五》(あかして) ①夜眠らずに過ごして、朝になる。㊥熬夜。通宵。「夜を明かす//語り明かす」②秘密にしていたり、わからなかったりしたことを、はっきりさせる。㊥揭露。道破。「出生の秘密を明かす//手品の種を明かす」 ㊦対隠す △㊧自動明ける

あ2-7

あかちや・ける④ 【赤茶ける】《自動一》汚れたり日光にさらされたりして、茶色に近い色に変わる。㊥发红。变成红褐色。「赤茶けたノート」

あ2-8

あかちゃん① 【赤ちゃん】《名》①「赤ん坊」を、親しみをこめていう言い方。㊥小宝宝。小娃娃。婴儿。「かわいい赤ちゃんですね」②世間のことをあまり知らない人。㊥不谙世事的人。乳臭未干的小孩子。「弟は、社会人になってもまだ親に頼りきりの、赤ちゃんだ」

あ2-9

あかつき① 【**暁**】《名》①夜明けのころ。㊦拂晓。「**暁**の空」**書** **類**明け方

②待ち望んでいたことが実現する、その時。㊦到…時。…之际。「**当選**の**暁**

には、**減税**を断行します」

あ 2-10

あがったり④ 【**上がった**り】《名》**商売**などがうまくいかないで、どうし

ようもないこと。㊦**算完了**。(买卖等) **垮**掉了。「**大型**スーパーの**開店**で、**小売**

商店は**上**がったりだ」

あ 2-11

アカデミック④ 《**形動**》(academic) **学問**の**方法**が**正統的**で、**学究的**なよ

うす。**学術的**。㊦**学术的**。

あ 2-12

あかぬけ①④ 【**垢**抜け】《名・自動～する》**洗練**されてすっきりしている

こと。㊦**不**土**気**。**文雅**。「**高級**洋品店に勤めて**3**年、すっかりあか**垢**抜けしてき

た」 **自動**垢**垢**抜ける

あ 2-13

あかはじ① 【赤恥】《名》「恥」を強めた言い方。人の前でかくひどい恥。

㊥（当众）出丑。丟大丑。『源氏物語』は清少納言の作と答えて、赤恥をかいた」 類 赤っ恥・大恥

あ 2-14

アカペラ①② 《名》(①a cappella) 楽器の演奏のない合唱の形式。また、その曲。㊥无伴奏合唱。

あ 2-15

あかみ① 【赤身】《名》①牛肉などの脂肪の少ない赤い部分。㊥瘦肉。 対 脂身 ②マグロやカツオなど身の赤い魚。㊥红肉鱼。 対 白身

あ 2-16

あかみ① 【赤み】《名》ある色に加わっている赤の程度。㊥红色。红度。「秋も近づいて、リンゴが赤みをおびてきた」 類 赤さ

【赤みがさす】赤っぽい色になる。㊥现出红色。见红。「人工呼吸をしたら、青白いほおに赤みがさしてきた」

あ 2-18

あからさま① 《形動》はつきり^{おもて}表^だに出さないほうがいいことを言ったり、
 表^{あらわ}したりするようす。㊦**显然**。**露骨**。「給料^{きゅうりょう}が安^{やす}すぎると、社長^{しゃちょう}にあから
 さまに不満^{ふまん}を言^いった」**類**露骨^{ろこつ こうぜん}・公然^{こうぜん}・おおっぴら **参**悪^{わる}い態度^{たいど}をとったり、
 否^ひ定的^{てい}なことを言^いったりするときに使^{つか}う。

あ 2-19

あから・む③ 【赤らむ】《自動五》(あからんで)赤^{あか}くなる。赤^{あか}みがさす。赤^{あか}る
 む。㊦**变红**。**红起来**。「東^{ひがし}の空^{そら}が赤^{あか}らんで、日^ひの出^でが近^{ちか}い」**他動**赤^{あか}らめる

あ 2-20

あかり① 【明かり】《名》①電灯^{でんとう}など、あたりを明^{あか}るく照^てらすもの。㊦**灯**。
 「暗^{くら}い夜道^{よみち}を家^{いえ}の明^あかりをめざして歩^{ある}く//明^あかりをつける」**類**ともしび。
 灯^{とう}火^か ②あたりを明^{あか}るくするもの。㊦**光**。**亮儿**。「月^{つき}の明^あかりを頼^{たよ}りに歩^{ある}く//
 雪^{ゆき}明^あかり」

あ 2-21

あがり① 【上がり】《名》①物の値段や位置、程度などが上がること。㊤**上**
升。涨价。 ㊤自動上がる ㊤対下がり ②できあがること。㊤**完成。做的好坏。**「ラ
ーメン1丁上がり」③すし屋などでお茶のこと。㊤**茶水。**「上がりを1杯くだ
さい」

あ 2-22

あが・る① 【上がる】(あがって) I 《自動五》①低い所から高い所へ移
る。㊤**上。登。升。**「階段を上がる//屋上へ上がる」 ㊤対下りる.下がる ㊤類の
ぼる ②地位・値段・程度などが高くなる。㊤**提高。升高。**「給料が上がる」
㊤対下がる ③水中から出る。㊤(从水中)**上来。出来。**「風呂から上がる」 ㊤対
はい ④いい結果が出る。㊤**取得。收到。**「成果が上がる」 ㊤対下がる ⑤な
くなる。終わる。㊤**完。结束。**「雨が上がる」⑥緊張して頭がぼうっとなる。
㊤(紧张得) **大脑一片空白。愣住。怯场。失掉镇静。**「面接のとき、あがって
声が出なくなった」⑦「訪問する」の謙譲語。㊤**拜访。**「先輩の家へお願いに
上がる」 ㊤類うかがう ⑧家や学校に入る。㊤**上(学)。进来(家中)。**「子ど
もが今年から学校に上がる」⑨ある金額ですむ。㊤**够用。足够。**「クラス会の
会費は5000円であがった」⑩(動詞の連用形について) (1)動作や状態が上に

向かう。㊦…**起来**。「立ち上がる//燃え上がる」(2)すっかり～になる。㊦**完**

全…。「晴れあがる//ふるえあがる」(3)動作が終わる。㊦…**完**。「できあがる

//しあがる」Ⅱ《他動五》「飲む」「食べる」の尊敬語。㊦**喝**。吃。「お昼は何を

あがりましたか」類めあがる △名あがり

あ 2-23

あが・る㊦ 【**挙がる**】《自動五》(あがって) ①名前やことがらが、はっき

りと示される。㊦**举出**。列出。「会長候補にあがる」②犯人が捕まる。㊦**被**

抓到。被**抓住**。「犯人があがる」③手が上のほうへ伸びる。㊦**举起**。举(手)。

「つぎつぎと質問者の手があがった」△他動あげる

あ 2-24

あが・る㊦ 【**揚がる**】《自動五》(あがって) ①揚げものができあがる。㊦

炸好。炸**熟**。「てんぷらが、からっと揚がった」②地上から空中の高い場所

に移る。㊦**升**。放。「花火があがる」③気持ちが高まる。㊦**高涨**。「意気があ

がる」△他動あげる

あ 2-25

あかる・い①③ 【明るい】《形》①光ひかりがたくさんあって、物ものがよく見えるよ
うす。㊥**明**り**亮**り**的**。**亮堂**り**的**。**「電でん気きをつけると、明あかるくなる//窓まどがおおお多くて明あかるい
部へ屋や」②色いろがくすんでいない。㊥**鮮**あか**亮**あお**的**。**「明あかるい青あおのシャツ」③性せい質しつや表ひょう情じょう
が楽たのしそうで、ほがらかである。㊥**开**き**朗**よう**的**。**快活**こ**的**。**「京き子こは明あかるい性せい格かくで、
いたのつも楽たのしそうだ」④隠かくしていることがなく、不ふ正せいがない。㊥**公**こ**正**せい**的**。**公**こ**开**かい**
的**。**「明あかるい政せい治じをめざす」⑤期き待たいがもてるようす。㊥**光**あか**明**め**的**。**有**あか**希**き**望**ぼう**的**。**「明
るい見み通とおし」⑥（「～に明あかるい」の形かたちで）～をよしく知しっている。㊥**熟**じ**悉**し**的**。**
精**しゅう**通**とく**的**。**「中ちゅう国ごくの歴れき史しに明あかるい」 △**名**あか**明**め**る**さ**** **対**くら**暗**あん**い**************

あ 2-26

あかるみ① 【明るみ】《名》①明あかるい所ところ。㊥**光**くわ**亮**りやう**的**ちゆう**方**ほう**。** **対**くら**暗**あん**が**り**** ②世せ間けん
のひと々びとが知しるところ。㊥**公**こ**开**かい**的**こ**方**ほう**。**大お庭しよく广じ众けん之あか下あか。「汚お職しよく事じ件けんはとうとう明
るみに出でた」

あ 2-27

あかんぼう① 【赤ん坊】《名》^う生まれて、^{つきひ}月日があま^こりたっていない子^こども。

あかんぼ。赤^{あか}ちゃん。㊤^{あか}嬰兒。乳^{ぼう}児。「赤^{あか}ん坊^{ぼう}にミル^のクを飲^のませ^る」 類^{あか}赤^ご子。

乳^ち飲^のみ^ご子。乳^に児^{ゆう}じ

あ 2-28

あき① 【空^あき】《名》①空^あいている場^ば所^{しょ}。㊤^あ空^あ（^こ児^こ）。空^あ白^{はく}。「駐^ち車^{ゆう}場^{しゃ}の空^あき

をさ^がす」 類^あす^きま。空^く間^{かん} ②職^し・地^ち位^い・定^{てい}員^{いん}などがふ^さが^つてい^ない^こと。

㊤^あ空^あ缺^{けつ}。空^く位^{いん}（^こ子^こ）。「教^き授^{ょう}のポ^あストに空^あき^がで^きる」 類^あ欠^{けつ}員^{いん}。空^く席^{せき} ③空^あい

てい^じる^{かん}時^じ間^{かん}。㊤^あ空^あ閑^{かん}。工^あ夫^ふ。「空^あき^じ時^{かん}間^{かん}」 類^あ暇^{ひま} 自^あ動^{どう}空^あく

あ 2-29

あき① 【秋^あき】《名》季^き節^{せつ}の1^{ひと}つ。夏^{なつ}と冬^{ふゆ}の^{あい}間^だ。㊤^あ秋^あ天^{てん}。 関^は連^る春^{はる}・夏^{なつ}・一^ふ・冬^{ふゆ}

あ 2-30

あきあき③ 【飽^あき飽^あき】《名・自^あ動^{どう}～する》す^あっか^あり^あ飽^あき^あて^あし^あま^あう^あこ^あと。㊤

厌^あ煩^{はん}。膩^あ煩^{はん}。「つま^あら^あな^あい^あテ^あレ^あビ^あ番^あ組^あに^あき^あき^あす^ある」 類^あう^あん^あざ^あり^あ・げ^あん^あなり^あ

<p>比較 あきあき・うんざり・げんなり 3語ともいやになることだが、あきあき・うんざりは同じことが続いたり、繰り返されたりしていやになるのに対して、げんなりは十分すぎていやになるようす。 ◆社長の話は繰り返しが多く、あきあきする/毎日、納豆であきあきした ◆会長の長いスピーチにうんざりする/雨が続けて、うんざりだ</p>
--

◆宿題が多くてげんなりする/毎日特訓でげんなりだ

あ 2-31

あきす① 【空き巣】《名》^{いえ ひと}家の人がいなくて、^{はい だろぼう}泥棒に入る。④溜门子的。撬
门贼。「^{る す あいだ}留守の間に、^{あ す はい}空き巣に入られた」

あ 2-32

あきたり-ない① 【飽き足りない】《連語》^{まんぞく}満足できない。^あ飽きたらない。

④不满意的。不称心的。「^{しごと あ}仕事に飽きたりなくて、^{てんしよく かんが}転職を考える」類もの
たりない

あ 2-33

あきっぱい・い④ 【飽きっぽい】《形》すぐに^あ飽きてしまう。④没常性。动不

动就厌烦。「^あ飽きっぽい^{せいかく}性格で、^{しごと}仕事をつぎつぎと^か変える」類^あ飽きやすい。移
り^ぎ気だ

あ 2-34

あきばれ① 【秋晴れ】《名》^{あき}秋に、^{てんき とく}天気が特によく^は晴れること。④秋天的晴
天。秋高气爽。

あ 2-35

あきや① 【空き家】《名》^{ひと す}人の住んでいない家。㊥空房。空屋子。

あ 2-36

あきらか② 【明らか】《形動》はっきりしているようす。^{たし}確かなようす。㊥

显然。明显。「^{くるま はいき}車の排気ガスが^{ゆうがい}有害なことは、^{あき}明らかなだ」類明瞭・明確

あ 2-37

あきら・める④ 【諦める】《他動一》^{ねが}願いや^{きぼう}希望していたことが、^{じつげん}実現しそ

うにないと思っ^{おも}て、^{のぞ}望みを^す捨てる。㊥断念头。死心。「^{あし こっせつ}足を骨折して、スキー

^{りょこう}旅行をあきらめる」名諦め類断念する

あ 2-38

あ・きる② 【飽きる】《自動一》①^{おな}同じことが^{つづ}続いて、いやになる。㊥膩烦。

够。「^{まいにち}毎日コンビニの^{べんとう}弁当ばかりで、もう^あ飽きた」名飽き ②（^{どうし}動詞の^{れんようけい}連用形

について）いやになるほど^{じゅうぶん}十分にする。㊥…够。…膩。「^{み あ}見飽きる//^{き あ}聞き飽きる」

あ 2-39

あきれかえ・る④ 【あきれ返る〔呆'れ返る〕】《自動五》(あきれかえって)

「あきれる」を強めた言い方。㊦十分惊讶。惊讶之极。「バッグ1つ買いにパ

リまで行くと聞いて、あきれ返った」 類あきれ果てる

あ2-40

あきれは・てる⑤ 【あきれ果てる〔呆'れ果てる〕】《自動一》あきれてし

まって、後に言うことばがなくなる。㊦惊呆。「ゲームに夢中で食事もしない

とは、あきれ果てた話だ」 類あきれ返る

あ2-41

あき・れる⑥ 【あきれる〔呆'れる〕】《自動一》思ったよりひどいのに驚い

て、ばかばかしくなる。㊦吃惊。惊讶。「アイドルを追って外国まで行くとは、

あきれた話だ」

あ2-42

あく① 【悪】《名》よくないこと。㊦邪。悪。歹。「正義は悪を滅ぼす//悪の

みち道」 対善

あ2-43

あ・く① 【空く】《自動五》(あいて) ①空間くうかんができる。㊥空出かへ あな。「壁かべに穴あなが空いた」②占めていたものがなくなり、使えるつかようになる。㊥腾空とんり。空出とんり。「隣となりの席せきが空いた」③暇ひまな時間じかんができる。㊥空闲じかん。「時間じかんが空く」④用ようがすむ。㊥空出とんり。腾出とんり。「手てが空く」 △名あ空き 他動あ空ける

あ 2-44

あ・く① 【開く】《自動五》(あいて) ①閉しまっていた物ものや、閉とじていた物ものがひらく。㊥开と。打开と。「舞台ぶたいの幕まくが開く//門もんが開く」 対と閉しじる。閉しまる ②業務ぎょうむが始はじまる。㊥开始し。开门と。「銀行ぎんこうは9時じに開く」 対と閉しまる △他動あ開ける

【開いた口くちがふさがらない】あきれてものも言いえない。㊥吓得目瞪口呆。

「借しゃ金つきんしながらパチンコかよに通あうとは、開くちいた口くちがふさがらない」

あ 2-46

あくい① 【悪意】《名》①相あいて手を憎にくみ、害がいを加くわえようとする、悪わるい心こころ。㊥悪意わる。歹意いみ。②悪わるい意味み。悪わるい見方みかた。㊥恶意たにん。邪见しんせつ。「他人たにんの親切しんせつを悪意あくいにとる」 △対ぜんい善意

あ 2-47

あくうん① 【悪運】《名》①運が悪いこと。㊦厄運。倒霉。「悪運が続く」 類

不運 ②悪いことをしても、うまくそのむくいを受けないこと。㊦賊運。做

了坏事而未遭恶报的运气。「悪運が強い」

あ 2-48

アクシデント① 《名》(accident) 予想していなかった事件や事故。㊦事故。

(意外) 事件。「シビアアクシデント/严重事故」

あ 2-49

あくしゅ① 【握手】《名・自動～する》挨拶や親しみを表して、たがいに手

をにぎり合うこと。㊦握手。「握手をかわす」

あ 2-50

あくしゅう① 【悪臭】《名》変な臭い。いやな臭い。㊦恶臭。难闻的气味。

類異臭

比較 あくしゅう いしゅう
悪臭・異臭

2語ともいやなにおいのこと。悪臭はごみや物のくさったにおいなど、原因がわかるものについていうことが多く、異臭はすぐには原因が特定できないものをいう。

◆ごみが腐って悪臭がする/悪臭の発生源/悪臭対策/悪臭防止法

◆近くの工場から異臭がする/地下鉄の車内での異臭騒ぎ

あ 2-51

あくしゅみ③ 【悪趣味】《名・形動》①^{わる しゅみ}悪い趣味。また、趣味の品がないこと。そのようす。㊥^{ひと こま}不良嗜好。^{よろこ}低级趣味。②人を困らせて喜ぶようなくせ。

㊥^い幸灾乐祸。「ベッドにカエルを入れるなんて、まったく^{あくしゅみ}悪趣味だ」

あ 2-52

あくじゅんかん③ 【悪循環】《名・自動～する》^{わる}悪いことが^{わる けっか う}悪い結果を生み、^{けっか かいけつ}その結果を解決するための^{どりょく}努力が、また^{わる けっか う}悪い結果を生むというように、たがいに^{えいきょう}影響しあってますます^{わる}悪くなること。㊥^{ある}恶性循环。「^{きんりょく}歩かないと筋力が^{おとろ きんりょく おとろ}衰え、筋力が衰えると^{ある}歩けなくなるという^{あくじゅんかん}悪循環におちいる」^{こうじゅんかん}㊦好循環

あ 2-53

アクション① 《名》(action) ①^{からだ つか}体を使って^{うご}つくりだす動き。特に、^{とく}はでな俳優の^{はいゆう えんぎ}演技。㊥^{い と}動作。演技。②^{こうどう}意図した行動。㊥^{い と}行动。動作。

あ 2-54

あくせい① 【悪性】《名》たちのよくないこと。㊥悪性。「悪性の風邪//悪性

腫瘍」^{しゅよう} 類^{あくしつ}悪質 対^{りょうせい}良性

あ 2-55

あくせく① 《副・自動～する》^{きもち}気持ちや^{じかん}時間にゆとりがなく、^{いそが}忙しそうにするようす。㊥忙忙碌碌。辛辛苦苦。「借金^{しゃっきん}を返^{かえ}すために、あくせく^{はたら}働く」

あ 2-56

アクセサリー①③ 《名》(accessory) ^み身につけて、^{ふくそう}服装の^{かざ}飾りとする^{ふぞくひん}付属品。

ネックレス・ブローチ・イヤリングなど。㊥装饰用品。類^{そうしんぐ}装身具

あ 2-57

アクセス① 《名・自他動～する》(access) ①どこかへ行くときの^{こうつう}交通の便。

㊥交通。出入。②^{じょうほう}情報に^{せつきん}接近し、^{りよう}利用すること。㊥访问。

あ 2-58

アクセル① 《名》「accelerator (加速ペダル)」の略。足で踏んで、^{そくど}速度を

^{ちようせい}調整する^{じどうしゃ}自動車の^{そうち}装置。㊥加速器。油门儿。「アクセルを踏む」

あ 2-59

あくせんくとう ㊶ 【悪戦苦闘】《名・自動～する》① ^{くる} 苦しい ^{たたか} 戦いをすること。
 ④ **艰苦战斗。苦战恶斗。**「^{せんしゅ} ^{ぞくしゅつ} けがの選手が ^{あくせんくとう} 続出して、^{くる} 悪戦苦闘した」② 苦し
 い ^{たちば} 立場で、^{どりょく} 努力すること。④ **艰苦奋斗。**「^{あくせんくとう} 悪戦苦闘の ^{すえ} 末、^{ろんぶん} 論文を ^か 書きあげた」

あ 2-60

アクセント ㊶ 《名》(accent) ① ^ご 1語の ^{なか} 中で、^{つよ} 強く、^{たか} また、^{はつおん} 高く発音すること。
 また、その ^{ぶぶん} 部分。④ **重音。** ② ^{ふくそう} 服装・^{びじゅつひん} 美術品・^{えんそう} 演奏などで、^{こうか} めだたせて効果
 を ^{たか} 高める ^{もの} 物や ^{ぶぶん} 部分。④ **重点。强调之处。**「^{しろ} 白の ^{ぼうし} 帽子で ^{あくせんくとう} アクセントを ^{よそお} つけた ^{装い} 装い」

あ 2-61

あくたい ㊶㊷ 【悪態】《名》^{わるくち} ひどい悪口。④ **脏话。骂人(的话)。**「^{べんきょう} もっと勉強
 する ^{むすこ} ように ^い 息子に ^{べんきょう} 言ったら、『^{あくだい} ママこそ勉強すれば』と悪態をつかれた」 類

^{にく} ^{ぐち} 憎まれ口

あ 2-62

あくたれ① 【悪たれ】《名・形動》ひどいいたずらをしたり、憎まれ口^{にく ぐち い}を言ったりすること。また、その憎まれ口^{にく ぐち}。そのような人^{ひと}。㊦罵人的話。悪作劇（的孩子）。「あくたれ口^{あく ぐち}をきく」 類^{あくたい わる}悪態. 悪がき

あ 2-63

あくど・い③ 《形》①色^{いろ}などが濃^こくて、いやな感じ^{かん}だ。㊦刺眼的。过于浓艳的。「あくどい色^{いろ かんばん め}の看板^{かんばん}が目ざわりだ」 類^{どぎつい}どぎつい. くどい ②やり方^{かた}がひどくて、たちが悪い^{わる}。㊦恶毒的。过分的。「あくどい商法^{しょうほう}//あくどい手口^{てぐち}」 △
名^{あくどさ}あくどさ 類^{あざとい}あざとい 注^{あくどい}「悪どい」と書^かくのはまちがい。

あ 2-64

あぐ・ねる③① 《自動一》（動詞の連用形^{どうし れんようけい}について）～し続^{つづ}けても、どうにもならず、いやになる。あぐむ。㊦…烦。…膩。「待ちあぐねる^ま//考えあぐねる^{かんが}/想烦了」

あ 2-65

あくび① 《名・自動～する》眠^{ねむ}くなったり疲^{つか}れたりしたとき、自然^{しぜん}に大きな口^{くち}をあ^あけてする深^{ふか}い呼^こ吸^{きゅう}。㊦哈欠。呵欠。

あ 2-66

あくま① 【悪魔】《名》^{ひと あく みち さそ}人を悪の道に誘いこんだり、^{ふ こう}不幸をもたらしたりする魔物。^{まもの}㊥悪魔。「悪魔のしわざ」

あ 2-67

あくまで①② 《副》①^{はじめ}始めたことや^き決めたことを、^{さいご}最後までやり^と遂げる強い意志を^も持っているようす。㊥徹底。…到底。「憲法はあくまで^{まも}守る」②^{ていど}程度がはなはだしいようす。どこまでも。^{ひじょう}非常に。㊥^{ごく}极其。完全。「あくまで^{あお す}青く澄みわたった^{そら}空」^{つよ}㊦強めて「あくまでも」とも言う。

あ 2-68

あくむ① 【悪夢】《名》①^{ふ かい おそ}ひどく不快な^{ゆめ}恐ろしい夢。㊥^{あく む}噩梦。恶梦。「悪夢にうなされる」②^{げんじつ おも}現実とは思えないような、いやなこと。㊥^{おお つ なみ あと}噩梦。「大津波の後^{あく む ひび}は悪夢のような日々だった」

あ 2-69

あぐ・む② 《自動五》(あぐんで) ⇒あぐねる 「^{かんが}考 えあぐむ//^せ攻めあぐむ」

あ 2-70

あくよう① 【悪用】《名・他動～する》^{わる もくてき}悪い目的のために使うこと。④^{つか}濫用。

用于不良目的。「^{けいたいでん わ}携帯電話を^{あくよう}悪用した^{はんざい}犯罪」^{ぜんよう}対善用

あ 2-71

あぐら① 《名》①^{りょうあし まえ く}両足を前に組んで、^{しり たたみ ゆか}尻を畳や床につけてすわる。また、

そのさま。④^{かたち}盤腿坐。②（「あぐらをかく」の形で）^{げんじょう}現状をそのまま受け入れ

るだけで、^きいい気になっていること。④^{きょうじゆ}安于现状。穩坐。「教授は、^{ち い}地位の上

にあぐらをかいて、^{あた}新しい^{けんきゆう}研究は何も^{なに}しない」

あ 2-72

あくらつ① 【悪辣】《形動》^{かた}やり方がひどくて、^{わる}たちが悪いようす。④^{わる}恶毒。

阴险。「^{あくらつ さぎ}悪辣な詐欺だ//^{あくらつ しょうほう}悪辣な商法」

あ 2-73

アクリル①① 《名》(ⓉAcryl)「^{じゆし}アクリル樹脂・^{せんい}アクリル繊維」の略。^{りやく}合成

^{じゆし}樹脂とそれからつくる^{ごうせいせんい}合成繊維の一種。④^{いっしゆ}丙烯。

あ 2-74

あくる① 【明くる】《連体》基準とする年・月・日などが明けて、その次の。

④翌。下。第二。「到着した明くる日から、仕事を始めた//明くる年」

あ 2-75

あけ① 【明け】《名》①夜が明けること。夜明け。④天亮。黎明。「明けの明星」

対暮れ ②ある期間が終わること。④終了。満。「梅雨明け//連休明け」 対入

り △自動明ける

あ 2-76

あげあしを-とる 【揚げ足を取る】相手の失言をとらえて、非難したり、皮

肉を言ったりする。④揭短处。挑毛病。「国会では与党と野党が、たがいに相

手の揚げ足を取り合っている」

あ 2-77

あけがた① 【明け方】《名》夜が終わって、朝になるころ。④黎明。拂晓。

「レポートの完成に明け方までかかった」 対暮れ方 類夜明け。暁

あ 2-78

あげく① 《名》(「～したあげく(に)、そのあげく(に)」の形^{かたち}で)すえ。結果^{けっか}。

㊥結果。最后^{さいご}。「山^{やま}で2時間^{じかん}も道^{みち}に迷^{まよ}ったあげく、救^{きゅう}助^{じょ}を要^{よう}請^{せい}した」

あ 2-79

あげく-の-はて 【あげくの果^{つよ}て】《連語》「あげく」を強^いめた言^{かた}い方。㊥結

果。到^ち頭^{こく}来^{けっ}。「遅^ち刻^{こく}や欠^{けっ}勤^{きん}を繰^くり返^{かえ}して、あげくの果^はてに会^{かい}社^{しゃ}をやめた」

あ 2-80

あげさげ② 【上げ下げ】《名・他動～する》上^あげたり下^さげたりすること。上^あげ

下^おろし。㊥上^あ上^あ下^さ下^さ。起^お落^ち。

あ 2-81

あげぞこ① 【上げ底】《名》みやげものなどの入^いれ物^{もの}の底^{そこ}を高^{たか}くして、分^{ぶん}量^{りょう}

を实际^{じっさい}より多^{おほ}く見^みせているもの。㊥悬^{けん}空^{くう}底^{てい}儿^に。「チョコレートをいっぱいと

喜^{よろこ}んだら、上^あげ底^{ぞこ}だった」

あ 2-82

あけっぱなし① 【開^あけっ放^{はな}し】 I 《名》開^あけたま^まに^にし^してお^おくこ^こと。㊥敞

着^{ちやく}。开^あ着^{ちやく}。「窓^{まど}を開^あけっ放^{はな}しで寝^ねる」他動開^あけっ放^{はな}す II 《形動》隠^{かく}しごとを

しないようす。㊥直率。直心快語。「開けっ放しな性格で、思ったことは何でも言う」 ㊥類開けっ広げ △話

あ 2-83

あけっぴろげ㊦ 【開けっ広げ】《形動》すっかり心を開くようす。㊥直率。

「開けっぴろげな性格で、姉の離婚も、家の借金も全部話してしまう」

あ 2-84

あげつら・う㊧ 《他動五》(あげつらって) ものごとのよしあしについて、

あれこれ議論する。また、小さなことを取り上げて、ことさら問題にする。

㊥议论(是非曲直)。小题大做。「論文の誤字をあげつらう」 ㊥書

あ 2-85

あけはな・す㊨ 【開け放す】《他動五》(あけはなして) 戸や窓などを、い

っぱいにかける。また、開けたままにしておく。㊥大敞大开。全打开。「窓を

あけはなしてお掃除をする」 ㊥名開け放し

あ 2-86

あけぼの① 【曙^{あけぼの}】《名》①夜明^{よあ}けのころ。㊥曙。黎明。「春は曙^{はるあけぼのうつく}が美し

い」類^あ明^{がた}け方^{よあ}。夜明^{あかつき}け。暁②ものごとの始^{はじ}まりのころ。㊥黎明。初^{とう}始^{よう}。「東洋

ぶんめい あけぼの 文明^{ぶんめい}の曙^{あけぼの}」 類^{れい}黎明^{めい}

あ 2-87

あげもの① 【揚げ物】《名》油^{あぶら}で揚^あげた食^{しょく}品^{ひん}の総^{そう}称^{しょう}。てんぷら・フライ・

から揚^あげなど。㊥油炸^{あぶら}食^あ品^{ひん}。

あ 2-88

あ・ける① 【明^あける】《自^{よる}動^{あさ}一》①夜^{よる}から朝^{あさ}になる。㊥天明。天^よ亮^あ。「夜^よが明^あけ

てから出^{しゅ}発^{つぱつ}する」②新^{あた}しい年^{とし}になる。㊥新^{とし}一年^あ至^あ。过^{とし}年^あ。「年^{とし}が明^あけたら、

新^{あた}しい仕^し事^{ごと}を始^{はじ}める」 △^く对^く暮^くれる ③一^い定^{てい}の期^き間^{かん}が過^すぎる。㊥(期^き間^{かん}) 结^す

束^す。期^{きん}満^あ。「任^{にん}期^きが明^あける」 △^あ名^あ明^あけ

あ 2-89

あ・ける① 【開^あける】《他^し動^{もの}一》①閉^しまっていた物^{もの}や、閉^とじていた物^{もの}を開^{もの}く

ようにする。㊥打^ま開^あ。「窓^{まど}を開^あける//ふたを開^あける」 对^と閉^とじる。閉^しめる ②業^ぎ

務^むを始^{はじ}める。㊥开^{まい}業^{にち}。开^じ張^{みせ}。「毎^{まい}日^{にち}、9時^じに店^{みせ}を開^あける」 对^し閉^しめる △^あ自^あ動^あ開^あく

あ2-90

あ・ける① 【空ける】《他動一》①空間をつくる。㊤空出。騰出。「救急車に道を空ける」 ㊦ふさぐ・埋める ②占めていたものをなくして使えるようにする。㊤騰出。空出。「席を空けて人に譲る」 ㊦ふさぐ ③暇な時間をつくる。㊤空出時間。留出工夫。「読書のために、時間を空けておく」 ④用をすます。㊤办完事情。腾出手来。「いつでも手伝えるように手を空けておく」 △
㊦自動空く

あ2-91

あ・げる① I 【上げる】《他動一》①低い場所から、高い場所へ移す。㊤举起。抬起。「荷物を棚の上に上げる//頭を上げる」 ㊦下ろす・下げる ②地位・値段・程度などを高くする。㊤提高。抬高。「社員の給料を上げる」 ㊦下げる ③水中から出す。㊤出水。「ゆでうどんをざるに上げる」 ④いい結果を出す。㊤长进。提高。「腕前を上げる」 ㊦下げる ⑤終える。仕上げる。㊤结束。完成。「工事を約束の期日前に上げる」 ⑥家や学校へ入れる。㊤请入（家中）。送进（学校）。「子どもを大学に上げる」 ⑦食べた物を、吐きだ

す。㊦**嘔吐**。「船に酔って、上げてしまった」類もどす ㊧ある金額ですま

せる。㊦**使够用**。能**应付**。「結婚式の費用を安くあげた」㊨「与える」の丁寧な

言い方。㊦「与える」的**郑重**、**礼貌**的说法。「兄にチョコレートをあげた」類

差し上げる ㊩（動詞の連用形について）(1)すっかり～する。完了する。

㊦**…完**。**…好**。「縫い上げる//書き上げる」(2)相手を高く位置づける言い方。

㊦**对自己的动作的谦虚说法**。「存じ上げる//申し上げる」Ⅱ【あげる】《補助

動》（「～てあげる」の形で）「～てやる」の丁寧な言い方。㊦「～てやる」

的**郑重**或**礼貌**的说法。「教えてあげる//頼んであげる」

あ 2-92

あ・げる㊦ 【**挙げる**】《他動一》①名前やことがらをはっきりと示す。㊦**举**

（例）。**报**（名）。「例をあげて説明する」②手を上のほうへのぼす。㊦**举**。**抬**。

「手をあげて質問する」③出しつくす。㊦**竭尽**。「チームは総力をあげて戦

った」④全体をまとめる。㊦**全**。「国をあげて祝う」⑤執り行う。㊦**举行**。

举办。「結婚式を挙げる」⑥犯人を捕まえる。㊦**逮捕**。**检举**。「懸命な捜査の末

に、犯人をあげた」△自動挙がる

あ 2-93

あ・げる① 【揚げる】《他動一》①熱した油の中に入れて、材料に熱を加える。④油炸。「てんぷらを揚げる」②地上から、空中の高い場所へ移す。④放。悬挂。「花火をあげる//旗をあげる」④対降ろす ③船から陸へ移す。④(从船上)卸货。「船荷をあげる」△名揚げ 自動揚がる

あ 2-94

あご② 【顎】《名》①口の上下にあって、かんだり発声の助けをしたりする器官。④頷。腭。「大笑いをして、あごがはずれた」②下あごの外側の部分。④下頷。下巴。「あごひげ/下巴上的胡须」
 【顎で使う】いばった態度で人を働かせる。④用下巴指使人。「先輩が後輩をあごで使って、後片付けをさせている」
 【顎を出す】疲れきって、もうそれ以上できない。④累得要命。「朝から10時間もある間も歩いて、あごを出した」

あ2-97

あこがれ① 【憧れ】《名》あこがれること。㊥憧憬。向往。「憧れの的/仰慕的对象」
自動^{あこが}憧れる 類^{どうけい}憧憬

あ2-98

あこが・れる① 【憧れる】《自動一》^{じぶん}自分が^{りそ}理想と^{おも}思う^{ひと}人や^{こと}ものごとに、心
がひかれる。㊥憧憬。向往。「宇宙飛行士にあこがれる」
名^{あこが}憧れ 類^{おも}思いこ
がれる

あ2-99

あさ② 【麻】《名》^て手の^{かたち}ひらのような^は形の^{しょくぶつ}葉の^{くき}植物。茎の^{かわ}皮から^{せんい}繊維をと
る。また、その^{せんい}繊維。㊥麻。麻纤维。

あ2-100

あさ① 【朝】《名》^よ夜が^あ明けたとき。また、それから^{ひる}昼までの^{あいだ}間。㊥早晨。
朝。対^{ゆう}夕。晩

あ3-1

あざ② 【痣】《名》^ひ皮膚の^{ひょうめん}表面が、^{あか}赤や^{あお}青になった^{ぶぶん}部分。㊥痣。痞子。「^{ころ}転
で、尻にあざができた」

あ 3-2

あさ・い①② 【浅い】《形》①底^{そこ}や奥^{おく}までの間^{あいだ}が短^{みじか}い。㊥浅^{あさ}。「浅^{あさ}い川^{かわ}を渡^{わた}る//底^{そこ}が浅^{あさ}い箱^{はこ}」②程度^{ていど}や量^{りょう}が少^{すく}ない。㊥轻^{ねむ}。不^{あさ}深^{けいけん}。「眠^{ねむ}りが浅^{あさ}い//経^{けいけん}験^{あさ}が浅^{あさ}い」 △名^{あさ}浅^{あさ}さ 対^{ふか}深^{ふか}い

あ 3-3

あさがお② 【朝顔】《名》夏^{なつ}の朝^{あさ}、白^{しろ}・pink^{ピンク}・紫^{むらさき}などの花^{はな}が咲^さく、つる植物^{しょくぶつ}。㊥牵^{けん}牛^{ぎゅう}花^か。喇^ら叭^ぱ花^か。 数^{すう}1輪^{りん}

あ 3-4

あさがた①② 【朝方】《名》夜^よ明^あけのころ。㊥清^{せい}早^{そう}。清^{せい}晨^{ちん}。 対^{たい}夕^{ゆう}方^{がた}・晚^{ばん}方^{がた}

あ 3-5

あさぐろ・い①④ 【浅黒い】《形》肌^{はだ}の色^{いろ}がすこし黒^{くろ}い。㊥浅^{あさ}黒^{くろ}的^{てき}。「浅^{あさ}黒^{くろ}い顔^{かお}の野^や球^{きゅう}選^{せん}手^{しゅ}」 名^{あさぐろ}浅^{あさ}黒^{くろ}さ

あ 3-6

あざけ・る③ 【嘲る】《他動五》(あざけって) 他^た人^{にん}を見^み下^{くだ}して笑^{わら}う。㊥嘲^{あざ}笑^{せう}。奚^た落^{にん}。「他^た人^{にん}の失^{しつ}敗^{ぱい}をあ^あざ^ざけ^ける」 名^{あざ}嘲^{あざ}り 類^{るい}あ^あざ^ざ笑^{せう}う・嘲^{あざ}笑^{せう}する

あ 3-7

あさごはん③ 【朝ご飯】《名》朝^{あさ}食^たべる食^{しょくじ}事。㊦早饭。早餐。 関連一. 昼^{ひる}ご

飯. 夕^{ゆう}ご飯. 晩^{ばん}ご飯 類 朝^{ちょう}食^{しょく}. 朝飯^{あさはん}

あ 3-8

あさって② 《名》あしたの次^{つぎ}の^ひ日。㊦后天。 類 明^{みょう}後^ご日^{にち}

あ 3-9

あざと・い③ 《形》考^{かんが}えが浅^{あさ}く、や^{かた}り方^{かた}がひどい。㊦小^{せう}聰^{そう}明^{めい}的^{てき}。低^{てい}劣^{りつ}的^{てき}。

「偽^{にせもの}物のブランド品^{ひん}を高^{たか}く売^うるのは、あざとい商^{しょう}売^{ばい}だ」 名 あざとさ 類 あく
どい

あ 3-10

あさねぼう③ 【朝寝坊】《名・自動～する》朝^{あさ}、遅^{おそ}く起^おきること。また、そ

の^{ひと}人。㊦早^{あさ}晨^ね睡^{ぼう}懒^{ぼう}觉^{ぼう}（的^{てき}人^{にん}）。起^{あさ}床^ね晚^{ぼう}（的^{てき}人^{にん}）。「朝^{あさ}寝^ね坊^{ぼう}を^{して}、遅^ち刻^{こく}した」 話

対 早^{はや}起^おき. 朝^{あさ}起^おき 類 朝^{あさ}寝^ね. 寝^ね坊^{ぼう}

あ 3-11

あさはか② 【浅はか】《形動》考^{かんが}えが足^たりないようす。㊦浅^{せん}薄^{ぱく}。肤^が浅^い。「外^{がい}見^{けん}

で結^{けっ}婚^{こん}相^{あい}手^てを選^{えら}んだのは、浅^{あさ}はかだ^{った}」 名 浅^{あさ}はかさ 類 軽^{けい}薄^{はく}. 浅^{せん}薄^{ぱく}

あ 3-12

あさばん① 【朝晩】 I 《名》朝と晩。㊥早晚。「朝晩は涼しい」 II 《副》朝も晩も。いつも。㊥日夜。经常。「朝晩、恋人にメールを送る」 △類朝あさ夕ばん

あ 3-13

あさひ① 【朝日】《名》朝あさのぼる太陽たいよう。また、その光ひかり。㊥朝阳。早晨的阳あさひ光。「朝日あさひがまぶしい」 対ゆうひ夕日

あ 3-14

あさまし・い④ 【浅ましい】《形》考かんがえ方かたや行こう動どうがイヤしくて、見み苦くるしい。㊥卑鄙的。可耻的。「金かねもうけしか考かんがえないとは、浅あさましい人ひとだ」 名あさ浅ましあささ 類あささもし

あ 3-15

あざむ・く③ 【欺く】《他動五》(あざむいて) うそをついてだます。㊥欺。騙しょうひしゃ。「消しょうひしゃ費者ひしゃをあざむいて、偽にせもの物うを売うる」 類いつわ偽いつわる。だます

比較 あざむ 欺あざむく・偽いつわる・騙だます

3語ともうそをつくことだが、あざむく・だますが真実でないことを相手に真実と思わせることであるのに対して、偽るは内容や分量などが真実でないことを表す。

- ◆息子だとあざむいて、金をうばった/敵をあざむく
- ◆天然魚と偽って、養殖魚を売る/身分を偽る
- ◆高齢者をだまして、貯金を下ろさせた/巧みにだます

あ 3-16

あさめしまえ⑤ 【朝飯前】《名》朝ご飯を^{あさ はん た}食べる^{まえ}前にできてしまうほど、簡^{かん}
単^{たん}なこと。Ⓜ**轻而易举**。极其容易。「こんな^{しゆくだい}宿題^{あさめしまえ}は朝飯前だ」

あ 3-17

あざやか② 【鮮やか】《形動》①色や形^{いろ かたち}などが美^{うつく}しく、はっきりしている
ようす。Ⓜ**鲜明**。**鲜艳**。「雨上がりは、庭木^{にわき}の^{みどり}緑も鮮やかだ」②やり方^{かた}が見事^{みごと}
で、すぐれているようす。Ⓜ**巧妙**。**优美**。「難局^{なんきよく}を鮮やかに^{あざ}乗りきる//鮮や
かな^{えんぎ}演技」 △**名**鮮やかさ

あ 3-18

あさゆう① 【朝夕】 I 《名》朝^{あさ}と夕方^{ゆうがた}。Ⓜ**早晚**。「朝夕は冷えこむ」 II 《副》
朝^{あさ}も夕方^{ゆうがた}も。いつも。Ⓜ**日夜**。**常常**。「朝夕、留^{あさゆう}学^{りゅうがく}中^{ちゅう}の娘^{むすめ}の無^ぶ事^じを祈^{いの}る」 △
類朝^{あさ}晩^{ばん}

あ 3-19

あさ・る②② 【あさる〔漁る〕】《他動五》(あさって) ①ほしい物^{もの}や必要^{ひつよう}な
物^{もの}を、手^てに入れようとしてさがしまわる。Ⓜ**寻求**。**物色**。「^{としょかん}図書館^{しりょう}で資料^{しりょう}を
あさる」②動物^{どうぶつ}がえさをさがす。Ⓜ(動物) **寻找食物**。**觅食**。「クマがえさを

あさって、^{さと}里^でに出てくる」③（動詞の連用形について）その動作を^{どうさ}あちこち
です。㊤到处…。^{こつとうひん}四处…。「^か骨董品^を買^いあさる//^よ読^みあさる」

あ 3-20

あざわら・う㊤ 【あざ笑う（^嘲笑う）】《自他動五》（あざわらって）^{あいて}相手を
^み見^さ下^げて、^い意^じ悪^くわら^う。㊤嘲笑。^た他人^{にん}の^{しん}身^{たい}体^の障^{しょう}害^{がい}を^ああ^ざ笑^うの
は^げ下^{ひん}品^だ」^名あ^ざ笑^い ^類あ^ざけ^ち嘲^る。嘲^ち笑^しする

あ 3-21

あし㊤ 【足】《名》①人間や動物の^{にんげん}体^の下^の部分^{ぶぶん}。㊤腿。「^{ある}歩^きす^ぎて^{あし}足^が
^{いた}痛^い//^{あし}ゾ^ウは^{あし}足^が太^い」^数1^い本^{ぼん} ②^{あし}足^く首^びから^{さき}先^の部分^{ぶぶん}。㊤脚。「^{くつ}靴^が小^ちさ^く
て^{あし}足^に合^あわ^ない」③^{ある}歩^くこ^と。歩^ほ調^{ちょう}。㊤歩^あ伐^は。脚^{あし}歩^{はや}。「^{あし}足^の速^{はや}い^{ひと}人^に、^お追^こい^こ越^こ
さ^れた」④^い行^いつ^たり^き来^きたり^する^こと。㊤去^こ。来^き。来^き往^{わう}。「^{そつぎょう}卒^ご業^ご後^ご、^{がっこう}学^が校^{こう}へ^{あし}は^{あし}足^が
^{とお}が^と遠^との^いい^てい^る」⑤^{こうつう}交^{しゅ}通^{だん}の^{しゅ}手^{だん}段^{だん}。㊤交^{でん}通^{しや}工^じ具^こ。「^{でんしゃ}電^じ車^この^じ事^ご故^ごで、^{つうきん}通^{あし}勤^みの^{あし}足^が乱^{みだ}
れ^た//^{あし}足^の便^{べん}が^いい^い」

.....「足」の慣用表現.....

【^{あし}足^ちが^ち地^ちにつ^く】^{ある}あ^るこ^とを^やら^うと^いう^き気^も持^もち^が、^{けんじつ}堅^{あん}実^{てい}で^あ安^ん定^{てい}し^てい^る。

㊤踏^ぐ踏^{たい}実^{てき}。脚^{あし}踏^ち実^ち地^ち。「^{けいかく}具^け体^い的^{てき}で、^{あし}足^ちが^ち地^ちにつ^{いた}計^{けい}画^{かく}が^いい^い」

【足が速い】①食べ物などがくさりやすい。㊥容易腐烂。「足が速い魚だから、すぐ料理する」②売れ行きがいい。㊥销路。畅销。「評判のいい商品は、足が速くてすぐに売り切れる」

【足が棒になる】歩きまわって疲れて、それ以上足が動かなくなる。㊥累得走不动。累得腿脚僵直。「マラソンで20キロ走ったら、足が棒になった」

【足の踏み場もない】足を入れる場もないほど、散らかっているようす。㊥连下脚的都没有。无立锥之地。「部屋に本や新聞が散らばって、足の踏み場もない」

【足を洗う】悪い仲間・仕事などからすっきり離れる。㊥洗手不干。改邪归正。「暴走族から足を洗って、まじめな会社員になった」似た表現足を抜く

【足を引っ張る】他人の順調な進行・昇進・成功などを、陰でじゃまする。㊥扯后腿。暗中阻碍别人。「同僚に足を引っ張られて、昇進が遅れた」

.....

あ 3-28

あし② 【脚】《名》①ひざから足首までの部分。㊥脚。「脚が長くて格好がいいモデル」②物の下にあって、物を支える部分。㊥腿儿。「テーブルの脚」

△数1本

あ 3-29

あじ① 【味】《名》①飲食物が舌にふれたときの、甘い・辛い・苦いなどの感じ。㊤味道。味儿。「みそ汁の味がちょうどいい//薄めの味」②経験してわかった、そのものの感じ。㊤滋味。味道。「優勝の味をかみしめる//初恋の味」③そのものだけの持つおもしろみ。㊤趣味。妙处。「父の歌は、渋い声で味がある」

【味もそっけもない】おもしろみがすこしもない。つまらない。㊤十分乏味。

极其无趣。「味もそっけもない祝辞」

【味をしめる】一度うまうまいった、そのよさが忘れられないで、次にも同じことを期待する。㊤尝到了甜头。「宝くじで3等が当たったのに味をしめて、また10枚買った」

あ-

アジア① 《名》(Asia) 六大州の1つ。ユーラシア大陸のヨーロッパの東に続く広大な地域。ウラル山脈や黒海より東の地域と周辺の島々からなる。日本はアジアの東のはしに位置する。㊤亚洲。亚细亚。

あ 3-32

あしあと③ 【足跡】《名》①人^{ひと}や動物^{どうぶつ}が歩^{ある}いた後^{あと}に残^{のこ}る足^{あし}の形^{かたち}や、はきも

の跡^{あと}。㊥足迹。脚印。雪^{ゆき}の上^{うえ}の足跡^{あしあと}をたどる②人^{ひと}が通^{とお}った道筋^{みちすじ}。㊥踪迹。

「犯人^{はんじん}の足跡^{あしあと}を追^おう」 ㊥類足取り^{あしど}

あ 3-33

あしおと④③ 【足音】《名》①歩^{ある}くとき立^たてる足^{あし}の音^{おと}。㊥脚步声。夜中^{よなか}に、

足音^{あしおと}をしのばせて家^{いえ}に入^{はい}る②近^{ちか}づいてくる気配^{けはい}。㊥靠近的迹象。雪^{ゆき}どけ水^{みず}

に春^{はる}の足音^{あしおと}を聞^きく」

あ 3-34

あしかけ① 【足掛け】《名》期^き間^{かん}を数^{かぞ}えるとき、1年^{ねん}・1月^{ひとつき}・1日^{いち}に満^みたない

始^{はじ}めと終^おわりの端数^{はすう}を1として計^{けい}算^{さん}する数^{かぞ}え方^{かた}。㊥前后大约。就^{しゅう}職^{しょく}して足

かけ5年^{ねん}だ」 ㊥对満丸^{まんまる}

あ 3-35

あしかせ① 【足かせ】《名》①昔^{むかし}、罪人^{ざいにん}の足^{あし}にはめて、自由^{じゆう}を拘束^{こうそく}した刑罰^{けいばつ}

の道具^{どうぐ}。㊥脚镣。㊥手かせ②自由^{じゆう}に行動^{こうどう}できないようにしぼるもの。㊥累

贅。牵累。「関税^{かんぜい}が足かせ^{あし}になって貿易^{ぼうえき}の自由化^{じゆうか}が進^{すす}まない」 △書

あ 3-36

あしからず③ 《副》相手の希望どおりにならなくて、申し訳ないという気持ちを表すときに言うことば。㊥**请原谅。请勿见怪。**「クラス会には出席できません。あしからずお許してください」

あ 3-37

あじけな・い④ 【味気ない】《形》おもしろみや、味わいがなくて、つまらない。あじきない。㊥**乏味的。无聊的。**「家と職場を往復するだけの毎日は、あじけない」名味気なさ

あ 3-38

アシスタント② 《名》(assistant) 仕事や研究などを手伝う人。助手。㊥**助手。助理。**

あ 3-39

あした③ 《名》きょうの次の日。㊥**明天。**「あしたは晴れるよ//また、あしたね」話類明日. あす

あ 3-40

あしだい① 【足代】《名》乗り物に乗るときの費用。㊥**车费。交通费。**「足代を節約するために、歩いて通学する」類交通费. 車代

あ 3-41

あじつけ① 【味付け】《名・他動～する》^{りょうり}料理に^{あじ}味をつけること。また、
つけられた^{あじ}味。㊤調味。加佐料。「^{かんさいふう}関西風の^{あじつ}味付けの^{りょうり}料理屋」類^{ちょうみ}調味

あ 3-42

あしでまとい④ 【足手まとい】《名》そばにいて、^{しごと}仕事をする^{ひと}人のじゃまに
なること。また、その^{ひと}人。㊤累贅。碍手碍脚（^{ひと}的人）。「^こ子どもが^{あしで}足手まとい
になって、^{かじ}家事がはかどらない」

あ 3-43

あしどり①④ 【足取り】《名》①^{あし}足の^{はこ}運び方。^{かた}歩き方。㊤^{あしど}脚步。步伐。「足取り
も^{かる}軽く^{やま}山を^お下りる」②^{ある}歩いた^{みちすじ}道筋。㊤^{はん}行踪。踪迹。「^{はん}犯人の^{あしど}足取りを^お追う」類

^{あしあと}
足跡

あ 3-44

あじな① 【味な】《連体》^き気がきいている。㊤^{ちこく}巧妙的。有^{おお}意思的。「^{ちこく}遅刻の^{おお}多
い^{さぶろう}三郎に^{とけい}時計とは、^{あじ}味な^{たんじょうび}誕生日プレゼントだ」

あ 3-45

あしなみ① 【足並み】《名》①一緒に歩くときの、歩く速さのそろい具合。

④脚步。步伐。「行進の足並みがそろろう」②行動を一緒にする人の、気持ちの

一致の具合。④步調。「役者の足並みがそろって、いい舞台だ」△類歩調

あ 3-46

あしならし③ 【足ならし〔足馴らし〕】《名・自動～する》①登山や運動前

に、足をならす運動をすること。④锻炼腿力(脚力)。「足ならしに公園を1周

する」△類足固め ②病気の後などの歩く練習。④(作为康复的)行走练习。

「退院する前に、病院の庭で足ならしする」③準備として、やってみること。

④准备。准备行动。「ダンスの足ならしをして、本番に臨む」

あ 3-47

あしば③ 【足場】《名》①歩く場所。④走路的な地方。脚下。「その足場は

くずれていて危険だ」②高い場所で仕事をするときに、足を置く所。④搭脚

处。「屋根を修理するために足場を組む」△類足掛かり ③ものごとの基礎。

④基础。立足点。「新しい職場で足場をかためる」④交通の便。④交通之便。

「足場のいい所に事務所を開く」

あ 3-48

あしづみ③④ 【足踏み】《名・自動～する》①同じ場所^{おな ばしよ}で、左右の足^{さゆう あし}をかわる^{あ さ}がわる^{あ さ}上げ下げすること。㊥踏歩。「廊下^{ろうか}で足踏み^{あしづ}して待つ^ま」②ものごとが進展^{しんてん}しないで、止^とまっていること。㊥停滞不前^{ふつきゆう さぎょう}。「復旧作業^{ふっきゆう さぎょう}は、資材^{しざい}の不足^{ふそく}で足踏み^{あしづ}している」 類停滞^{ていたい}

あ 3-49

あしもと③ 【足元】《名》①歩^{ある}いたり立^たったりしている足^{あし}のあたり。㊥脚下。「足元^{あしもと}に注意^{ちゆうい}する//足元^{あしもと}が暗^{くら}い」②歩^{ある}くときの足^{あし}のようす。㊥脚步。步伐。「酒^{さけ}に酔^よって、足元^{あしもと}がふらついている」

【足元^{あしもと}にも及^{およ}ばない】相手^{あいて}がたいへんすぐれていて、とてもかなわない。㊥望尘莫及。「英語^{えいご}では劉^{りゅう}さんの足元^{あしもと}にもおよばない」

【足元^{あしもと}を見る】相手^{あいて}の弱^{よわ}みにつけこむ。㊥乘人之危。抓住别人的弱点。「借金^{しゃっきん}に困^{こま}って家^{いえ}を売^うるとい^う客^{きやく}の足元^{あしもと}を見て、不動産屋^{ふどうさん}は大幅^{おおはば}に値切^{ねぎ}ってきた」

あ 3-52

あしら・う③ 《他動五》(あしらって)①相手^{あいて}を軽^{かる}くみて、いいかげん^{たいおう}に対応^{たいおう}する。㊥应付。随便对付。「冷^{つめ}たくあしらう//鼻^{はな}であしらう/嗤^{はな}之以鼻」②あ

る物に、他の物をそえて置く。㊤**配上。配合。**「肉料理に野菜をあしらう」△

名あしらい

あ 3-53

あじわい㊤ 【味わい】《名》①飲食物を口に入れたときに感じる深い味。

㊤**味。味道。**「よく煮込んだ、味わいのあるシチュー」類風味 ②ものごと

の何とも言えない深いおもしろみ。㊤**情趣。妙处。**「年数をへて味わいのある

旅館」類風情 △他動味わう

あ 3-54

あじわ・う㊤㊤ 【味わう】《他動五》（あじわって）①飲食物のいい味を、

舌で感じとる。㊤**品尝。**「1杯のコーヒーを、ゆっくり味わう」②ものごとの

深い趣を感じとる。㊤**玩味。鉴赏。**「展覧会で、ゴッホの絵を存分に味わっ

た」③喜びや悲しみを経験する。㊤**体験。体味。**「結婚して、家族のよさを味

わっている」△名味わい

あ 3-55

あす㊤ 【明日】《名》①きょうの次の日。㊤**明日。明天。**「あすは晴れでし

ょう」類あした. 明日 ②近い将来。㊤**(近期的) 将来。**「あすの社会は、

青少年にかかっている」

あ 3-56

あずか・る③ 【預かる】《他動五》(あずかって) ①人^{ひと}から頼^{たの}まれたものを、
 大切に^{たいせつ}守^{まも}る。㊥(代人)保管。收存。「孫^{まご}を預^{あず}かって面倒^{めんどう}をみる//貴重^{きちょうひん}品^{あず}を預
 かる」②ものごと^{しより}の処理^{まか}を任^{せき}されて、責任^{せきにん}を持^もってする。㊥担任。负责。「会社^{かいしゃ}
 の経^{けい}理^りを預^{あず}かる」 △名預^{あず}かり

あ 3-57

あず・ける③ 【預ける】《他動一》①大切^{たいせつ}なものを、人^{ひと}に渡^{わた}して守^{まも}ってもら
 う。㊥寄存。寄放。「フロントに部^へ屋^やの鍵^{かぎ}を預^{あず}ける//銀行^{ぎんこう}にお金^{かね}を預^{あず}ける」②
 ものごと^{しより}の処理^{まか}を任^{まか}せる。㊥委托。托付。「会^{かい}の会^{かい}計^{けい}を副^{ふく}会^{かい}長^{ちやう}に預^{あず}ける」

あ 3-58

あせ① 【汗】《名》暑^{あつ}いとき・緊^{きん}張^{ちやう}したとき・高^{こう}熱^{ねつ}のときなどに皮^ひ膚^ふから出^で
 る水^{すい}分^{ぶん}。㊥汗。汗水。「炎^{えん}天^{てん}下^かを歩^{ある}いて、汗^{あせ}をびっしりかいた//汗^{あせ}を流^{なが}す」

あ 3-59

アセアン①② 【ASEAN】《名》「Association of Southeast Asian Nations
 (東南^{とうなん}ア^{しよ}ジ^{こく}ア^{れん}ゴ^う)」の略。1967年に、タイ・フィリピン・マレーシア・
 シンガポール・インドネシアの5か^{こく}国^{こく}がつくった。現在^{げんざい}はそれに、ブルネイ・

ベトナム・ミャンマー・ラオス・カンボジアがくわ加わっている。㊥**东南亚国家
联盟。东盟。**

あ 3-60

アセスメント ㊦ 《名》(assessment) ひょうか さてい 評価。査定。㊥**评价。评估。**「かんきょう環境ア
セスメント/**环境影响评估**」

あ 3-61

あせたく ㊧ 【汗たく】《名・形動》びっしょりあせ汗をかいていること。また、
そのようす。㊥**浑身是汗。大汗淋漓。**「えんてん か はたら炎天下で働いて汗たくになった」

あ 3-62

あせば・む ㊨ 【汗ばむ】《自動五》(あせばんで) あせ汗がにじみ出でる。㊥**冒汗。**
微微出汗。「がつ3月なのによく晴れて、あせ汗ばむほどのようき陽気だ」

あ 3-63

あせまみれ ㊩ 【汗まみれ】《名・形動》おお あせ多く汗をかいて、からだ かお体や顔がびしょ
びしょにぬれていること。また、そのようす。㊥**汗流浹背。**「ひ こ引っ越しの荷物
はこ運びで、あせ汗まみれになった」 類汗たく

あ 3-64

あせも③ 《名》汗をかいたために皮膚にできる小さな湿疹。㊥痒子。「首筋にあせもができてかゆい」

あ 3-65

あせ・る② 【焦る】《自動五》(あせって)早くしなければならないと思っ
て、いらいらする。㊥焦躁。着急。「電車の故障で、学校に遅れそうになっ
てあせった」 類はやる

あ 3-66

あ・せる②④ 【あせる〔褪'せる〕】《自動一》もとの色が薄くなる。㊥褪色。
掉色。「日に焼けて、カーテンの色があせてきた」 類はげる. 薄れる

あ 3-67

あぜん① 【あ然〔唾'然〕】《～と副・～たる連体》非常に驚いたり、あき
れたりしてことばが出ないようす。㊥目瞪口呆。「すし屋の勘定書を見て、
あまりの高さにあぜんとした」 類呆然

あ 3-68

あそこ④ 《代名》①話し手からも相手からも、すこし離れた所をさす。㊥
那儿。那里。「車はあそこに止めた」②自分も相手も知っている、例の場所。
㊥老地方。「また、あそこで待ち合わせよう」 △→付録「指示語のまとめ」

あ 3-69

あそび① 【遊び】《名》①遊ぶこと。㊦玩耍。游戏。「遊び仲間//砂遊び」

②機械の連結部分がきっちり合わないで、ゆとりがあること。㊦游隙。「ハン

ドルにすこし遊びがほしい」③気持ちやものごとにゆとりがあること。㊦放

松。余裕。「遊び心」 △自動遊ぶ

あ 3-70

あそぶ① 【遊ぶ】《自動五》(あそんで)①好きなことをして、楽しい時間

を過ごす。㊦玩(耍)。游戏。「子どもたちが公園で遊んでいる//野球をして

遊ぶ」②仕事を持たないで、ぶらぶらする。㊦闲着。闲呆着。「定年退職後、

遊んで暮らしている」③設備・土地・金などが活用されないでいる。㊦闲置。

「仕事が減って、工場の機械が遊んでいる」④酒・異性との交遊・かけごと

などに夢中になる。㊦游荡。酒色享乐。「遊ぶ金がほしくて、泥棒をした」

⑤(「～に遊ぶ」の形で)離れた土地へ行って、観光や勉強をする。㊦游览。

游学。「留学生としてドイツに遊ぶ」 書 △名遊び

あ 3-71

あたい① 【価】《名》商品の値段。代金。㊦价。价钱。「商品に価をつける」 書

あ 3-72

あたい① 【値】《名・自動～する》価値。値打ち。㊦价值。「この本は一読するだけの値がある」

あ 3-73

あたい・する① 【値する】《自動する》（「～に値する」の形で）それをするだけの値打ちがある。㊦值得。价钱相当于……。㊦賞賛に値する快挙

あ 3-74

あた・える① 【与える】《他動一》①相手に渡して、その人のものにする。㊦给。给予。「子どもに菓子を与える」 類やる 対うばう ②相手に課題などを割り当てる。㊦布置。分配。「学生に課題を与える」 ③受けさせる。㊦使蒙受。使…受。「被害を与える// 注意を与える」 ④相手が、何かができるような状態にする。㊦提供。「発言の機会を与える」

あ 3-75

あたたかも① 《副》①形・性質・状態などがちょうどそのようだ。㊥宛如。

恰似。「花びらが、あたたかも雪のごとく散る」 類さながら ②時期や時刻が
ちょうどその時だ。㊥正值。正是。「時あたたかもバラの最盛期で、庭には芳香
がただよっている」 △書

あ 3-76

あたし① 《代名》「わたし」のくだけた言い方。㊥我。「それ、あたしの本よ」

あ 3-77

あたたか③② 【暖か】《形動》①暖かいようす。㊥暖和。温暖。「このあたりは、あたたかな気候で過ごしやすい」 ②金がたくさんあるようす。㊥富足。充裕。「ボーナスが出たばかりで、懐が暖かだ」

あ 3-78

あたたか③② 【温か】《形動》①温かいようす。㊥暖和。热乎乎。「温かなスープが飲みたい」 ②愛情が十分にあるようす。㊥温暖。温馨。「温かな家庭で育つ」

あ 3-79

あたたか・い④ 【暖かい】《形》①暑くも寒くもなくちょうどいい。④不冷不热的。暖和的。「この部屋は日当たりがよくて暖かい」②金がたくさんあるようす。④富裕的。富足的。「給料日で懐が暖かい」△名暖かさ. 暖かみ 対寒い

あ 3-80

あたたか・い④ 【温かい】《形》①物の温度が熱くも冷たくもなくちょうどいい。④不凉不热的。温的。「料理が温かいうちにどうぞ」②心がやさしくて、思いやりがある。④温暖的。热情的。「子どもの成長を温かく見守る」△名温かさ. 温かみ 対冷たい

あ 3-81

あたたま・る④ 【暖まる】《自動五》(あたたまって)熱が加わって、暖かいと感じるようになる。④暖和(起来)。「暖房が入って、部屋が暖まった」他動暖める 対冷える

あ 3-82

あたたま・る④ 【温まる】《自動五》(あたたまって)①熱が加わって、ほどよい温度になる。④暖和(起来)。热(起来)。「温泉に入ると、体が温ま

る」②満たされた、なごやかな気持ちになる。㊥（心里感到）温暖。「心が温

まる」△他動 ^{あたた}温める 対 ^ひ冷える 類ぬるむ.ぬくまる

あ 3-83

あたた・める④ 【暖める】《他動一》^{ねつ}熱を^{くわ}加えて、^{あたた}暖かいと^{かん}感じるように

する。㊥温。热。「ストーブをつけて、^{へや}部屋を^{あたた}暖める」対 ^ひ冷やす

あ 3-84

あたた・める④ 【温める】《他動一》①^{ねつ}熱を^{くわ}加えて、ほどよい^{おんど}温度にする。

㊥热…。温…。「スープを^{あたた}温める/热汤//^ひ冷えた^て手を^{あたた}温める」対 ^ひ冷やす ②

^{こうひょう}公表しないで、^て手もとにおいておく。㊥放在手边不予公开。不拿出来。「長い^{なが}

^{あいだあたた}間 ^{あたた}温めていた^{けいかく}計画を、^{じっこう}実行に移す」③^た絶えていた^{こうさい}交際を、もとにもどす。

㊥恢复（旧交）。「^{きゅうこう}旧交を^{あたた}温める」

あ 3-85

あだな① 【あだ名】《名》^{ほんみょう}本名とは別に、その人の^{べつ}特徴を^{ひと}とらえて、つけ

た名。㊥外号。绰号。「^{しろ}白い^{せんせい}ひげの先生に、ヤギと^なあだ名をつけた」類ニッ

^{あいしょう}クネーム. 愛称

あ 3-86

あたふた① 《～（と）副・自動～する》非常に急ぎ、あわてて行動するよ
うす。㊥慌忙。慌慌张张。「急に雨が降りだして、あたふた駅に駆けこんだ」

あ 3-87

アダプター② 《名》(adapter) 機械・器具に付属品を取りつけるもの。㊥
接合器。

あ 3-88

あたま③② 【頭】《名》①動物の体のいちばん上や前にあって、目・口・鼻・
みみ ぶぶん ぼうし あたま さ のう はたら
耳などがある部分。㊥頭。脑袋。「帽子をとって、頭を下げる」②脳の働き。

かんが かんが あたま かみ かみがた あたま しろ
考え。㊥腦子。头脑。「頭がいい」③髪。髮型。㊥头发。「頭が白くなる」

さいしょ こうじ らいげつ あたま はじ もの うえ ぶぶん
④最初。㊥开头。「工事は来月の頭から始める」⑤物の上の部分。㊥头部。

あたま そしき だんたい うえ た もの いいん
顶端。「くぎの頭をたたく」⑥組織や団体の上に立つ者。㊥首領。头目。「委員

かい あたま にんずう にん あたま た
会の頭になる」⑦人数。㊥人。人数。「10人では頭が足りない」⑧うわまえ。

㊥抽頭。回扣。「親会社が利益の頭をはねる」

.....「頭」の慣用表現.....

【頭が上がらない】相手の力に圧倒されたり、相手から恩を受けたりした

ため、対等にふるまえない。㊥抬不起头来。「失業したとき助けてくれた田

なか あたま あ
中さんには、頭が上がらない」

【頭が痛い】^{あたま いた}①頭痛がする。^{ず つう}㊥^{か ぜ}头疼。「風邪をひいて、^{あたま いた}頭が痛い」^{かいけつ}②解決が

むずかしい^{もんだい}問題などで、^{なや}悩んだり^{しんぱい}心配したりする。㊥^{しやつきん}头疼。伤脑筋。「借金

の返済に^{へんさい あたま いた}頭が痛い」似た表現^{あたま いた}頭を痛める

【頭が切れる】^{あたま き}ものの^{かんが}考え方が^{かた}鋭くて、^{すうど}判断などが^{はんだん}すばやい。㊥^{あたま}头脑敏锐。

「教授は^{きょうじゆ あたま き}頭が切れる人で、^{ろんぶん}論文の^{かち}価値を^{みぬ}すぐ見抜いてしまう」

【頭が下がる】^{あたま さ}偉いと^{えら}感心する。㊥^{かんしん}佩服。钦佩。「^{にん ち しょう}認知症の^{ははおや}母親を^{ねん}8年もや

さしく^{かいご}介護している^{みちこ}道子には、^{あたま さ}頭が下がる」

【頭に来る】^{あたま く}①^{ひじょう}非常に^{はら た}腹が立って、^{あたま}かっとなる。㊥^{あたま}气得发昏。「^{まえ}みんなの前

でばかに^{あたま き}されて、^{びょうき}頭に^{さけ よ}来た」②^{あたま}病気や^{あたま}酒の^{あたま}酔いが頭に^{あたま}まわる。㊥^{あたま}(生病)

^{あたま}神志不清。(酒)^{あたま}上頭。「^{あたま}病気が頭に^{げんどう}来て、^{あたま}言動がおかしくなった」

【頭を抱える】^{あたま かか}心配や^{しんぱい}悩みが^{なや}あって、^{あたま}どうしたら^{あたま}いいかわからず、^{ひじょう}非常に^{こま}困

る。㊥^{あたま}不知如何是好。为难。「^{せいと}生徒が^{もんだい}つぎつぎに^お問題を^{あたま}起こして、^{あたま}校長は頭

をかかえている」

【頭をしぼる】^{あたま}いろいろ^{くしん}苦心して、^{かんが}考え、^{くふう}工夫する。㊥^{あたま}费心思。「^{あたま}チームを

^{あたま}強く^{あたま}するために、^{あたま}みんなで^{あたま}頭をしぼった」似た表現^{あたま}知恵をしぼる

【頭を冷やす】^{あたま ひ}興奮した^{こうふん}気持ちを、^{きも}冷静にする。㊥^{あたま}(使头脑)冷静下来。「^{きゆうけい}休憩

して^{あたま ひ}頭を冷やしてから、^{とうろん}討論を^{つづ}続けよう」

.....

あ 3-97

あたまうち① 【頭打ち】《名》ものごとが限界に達して、それ以上のびない状態になること。④**达到顶点。涨到极限。**「需要が減って、生産量が頭打ちになった」

あ 3-98

あたまきん① 【頭金】《名》契約のとき払う、全体の代金のうち、一部分のお金。④**首付款。定金。**「500万円の頭金を払って、マンションを買った」

あ 3-99

あたまごし① 【頭越し】《名》①他人の頭の上を越して、何かの動作をすること。④**隔着人头。**②**当然相談すべき人をさしおいて、事を進めること。**
④**越级。跨级。**「提案者の頭越しに、案の検討が行われた」

あ 3-100

あたまでっかち④ 【頭でっかち】《名・形動》①体の他の部分に比べて、頭が大きいこと。また、そのような人・ようす。④**大头。脑袋大。**②**理論や知識ばかりが先立って、行動がともなわないこと。**また、そのような人・ようす。
④**光说不练。**「現実離れの理論ばかり主張する、頭でっかちな学者だ」

あ 4-1

あたまわり① 【頭割り】《名》^{きんぴん だ}金品を出させたり、^{ぶんばい}分配したりするとき、また、^{しごと はいぶん}仕事の配分をしたりするとき、^{ぜんいん びやうどう}全員に平等に割り当てること。④（按人数）均摊。均分。「宴会の費用を頭割りにする」^{きんとう わ}類均等割り。割り勘

あ 4-2

あたらし・い④ 【新しい】《形》^{いま}今までのものと^{ちが}違って、^{はじ}初めてのものだ。④的。「新しい家//新しい発想」^{あた}△^{あた}名新しさ^{ふる}対古い

あ 4-3

あたらす-さわらす 【当たらず障らず】《連語》^{ぐあい わる}具合の悪いことが^お起こらないように、^{たいど}あいまいな態度をとること。④不痛不痒。态度不明朗。「社長に遠慮して、^あ当たらず^{さわ}障らずの^{いけん い}意見を言う」

あ 4-4

あたら-ない 【当たらない】《連語》（「～に〔は〕^{かたち}あたらない」の形で）～する^{ひつよう}必要はない。何も～^{なに}することではない。④不必。用不着。「謝るにはあたら-ない//^{おどろ}驚くにはあたらない」

あ 4-5

あたり I ㊦【あたり】《名》①当^あたること。命^{めい}中^{ちゆう}。㊦命中。中（^あ獎、^あ彩）。

「^ああたりくじ」^{たい}対はずれ ②当^あたること。ぶつかること。㊦打中。命^{めい}中。「^あ鋭

い^ああたりの^だ打球」③見^{けん}当。㊦^あ頭^{かん}緒。着^あ落。「^あ犯人の^ああたりが^あついた」④^あ催し・

^{こう}興^{ぎよう}行などが^{せい}成功^{こう}すること。㊦（^あ活動、^あ演出等^あ獲得）^あ成功。「^ああたりを^あねらう

//^お大^ああたり」⑤^{ひと}人に^{せつ}接^{たい}する^{たい}態^ど度。㊦^あ待^あ人。对^あ待。「^ああたりが^あやわらかい^{てん}店^{いん}員」

⑥^つ釣^ありで、^さ魚^{かな}が^あえさに^く食^あいつくこと。また、それが^あさ^あおや^あ手に^あ伝^あわる^あ感^あじ。

㊦（^あ釣^あ魚^あ時）^あ碰^あ钩。咬^あ钩。「^ああたりを^あ感^あじて、^あ釣^あり^あ糸^あを^あ引^あき^あ上^あげ^あた」II【-^あ当

り】《^あ接^あ尾》それぞれについて。㊦^あ平^あ均。每。「1^あキ^あロ^あ当^あたり^あ700^あ円^あの^あ米」

あ 4-6

あたり I ㊦【^あ辺^あり】《^あ名》ある^あ場^あ所^あに^あ近^あい^あ範^あ圍。近^あ所。㊦^あ附^あ近。周^あ围。「こ

の^ああ^あたりは^あ静^あかな^あ住^あ宅^あ街^あだ」II【-^あ辺^あり】《^あ接^あ尾》①ある^あもの・^あ場^あ所・^あ時^あ間^あな

どに^あ近^あい^あ範^あ圍。㊦^あ一^あ帯。左^あ右。「^あ来^あ週^ああ^あたり、^あ台^あ風^あが^あ来^あそ^あう^あだ」②た^あと^あえ^あば

～^あな^あど。㊦（^あ挙^あ例）^あ什^あ么^あ的。之^あ类^あ的。「^あ係^あ長^ああ^あたり^あに^あ聞^あいて^あも^あわ^あか^あら^あな^あい^あだ

ろ^あう」

あ 4-7

あたりさわり ㊦【^あ当^あたり^あ障^あり】《^あ名》^あ他^あに^あ悪^あい^あ影^あ響^あを^あ与^あえる^あこと^あが^あら。㊦

^あ妨^あ碍。触^あ犯。「^あ当^あたり^あ障^ありの^あな^あい^あ話」^あ類^あ差^あし^あ障^あり

あ 4-8

あたりちら・す⑤ 【当たり散らす】《自動五》(あたりちらして) 不愉快や不
満の気持ちを、関係のない人やものに対して、やたらにぶつける。㊥发脾气。

拿人撒气。「学校でしかられて、弟に当たり散らす」 類八つ当たりする

あ 4-9

あたりまえ① 【当たり前】《名・形動》①だれが考えても、そうであるこ
と。また、そのようす。㊥自然。当然。「夏だから、暑いのはあたりまえだ」

類当然 ②ふつうであること。また、そのようす。㊥普通。正常。「あたりま
えの人間にはまねができない努力をした」 類並み. 通常

あ 4-10

あた・る① 【当たる】《自動五》(あたって) ①動いてきた物が、何かに勢い
よく接触する。ぶつかる。㊥碰上。撞上。「飛んできた石が、頭に当たった」

②思ったとおりの所に行く。㊥中。命中。「矢が的に当たる」 対はずれる ③

光・熱・風雨などを受ける。㊥照。晒。烤。「ストーブに当たる//日が当た
る」④よくないことが身におよぶ。㊥遭。挨。「罰が当たる」⑤予測したとお

りになる。㊥猜中。「予想が当たる」 対はずれる ⑥催しや企画などが成功

する。㊥（活動、计划等）成功。「事業じぎょうが当あたる」㊦賞品しょうひんなどのもらえるく

じを引く。㊧中獎。中彩。「宝たからくじで、10万円まんえん当あたった」㊨対はずれる ㊩指名しめい

を受ける。㊪被叫到。「さっきの授業じゅぎょうで2回かい当あたった」㊫判断はんだんなどに合う。㊬

正确。符合实情。「道子みちこの行こう動どうに對たいして、その非難ひなんは当あたらない」㊭物ものや体からだに

何なにかがさわって、痛いたみを感じかんじたり、傷きずができたりする。㊮碰到、接触到（的

地方感到疼或留下瑕疵）「傷きずのところに、ベルトが当あたって痛いたい」㊯引ひき受け

て仕事しごとをする。㊰接受（工作）。担任。「重じゅう要ような任にんに当あたる」㊱物ものに接せつして、

調しらべたり確たしかめたりする。㊲调查。核じ實じょ。「辞書じしょに当あたって、意い味みを調しらべる」

㊳ようすをさぐる。㊴打听。探ほん詢き。「本ほん氣きかどうか、先せん方ぽうに当あたってみる」㊵

て手てごわい相あ手いてに對たい抗こうする。㊶对抗。抵し挡あい。「きょうの試し合あいは、強きょう敵てきに当あたっ

て苦く戦せんした」㊷関かん係けいのない人ひとに對たいして、怒いかりをぶつぶけたり、ひどい態たい度どをと

ったりする。㊸迁か怒ちよう。撒し氣ごと。「課か長ちようは仕し事ごとがうままくいいかないと、部ぶ下かに当あ

る」㊹該がい当とうする。相そう当とうする。㊺相いち当ろう于。位だい于。後こう輩はいに当あたる」

㊻そういうことになる。㊼等ちよく于。算せつ是。「直ちよく接せつ会あってお礼れいを言いわないと、失しつ礼れい

に当あたる」㊽体からだに害がいとなるものが入はいって、病びよう氣きになる。㊾中ちゆう毒どく。「くさくった

魚さかなに当あたって、中ちゆう毒どくを起おこした」㊿（「～に当あたって」の形かたちで）そのとき

に際して。㊦…**的时候**。「帰国に当たり、心から感謝の意を表したい」 △

名**あたり** 他動**あ**てる

【**当たって砕けろ**】成功するか失敗するかわからないけれど、とにかく**思い**きりやってみろ。㊦**不管三七二十一，姑且试一试看。**

あ 4-12

あちこち**㊦㊧** 《代名》⇒あちらこちら「**留**学の方法について、あちこちに**と**あ**あ**問**い**合**わ**せ**た**」

あ 4-13

あちら**㊦** 《代名》①自分からも相手からも**離**れている場所・方向、また、そこにある物をさすことば。㊦**那儿。那里。那边**。「東京駅はあちらです」②自分と相手のどちら側でもない人をさすことば。㊦**那位。他（她）**。「あちら様」 **類**あのかた せんぼう 方. 先方 △→付録「指示語のまとめ」 **参**くだけた言い方は「あっち」。

あ 4-14

あちらこちら**㊦㊧** 《代名》いろいろな場所や方面を表す。あちこち。㊦**到处。四处**。「逃げた犬を、あちらこちらさがしまわった」 **類**ほうぼう

あ 4-15

あつ① 《感》^{おどろ}驚いたり、^{かんだう}感動したり、^{きゆう}急に^き気がついたときなどに出す声。

㊥啊。呀。哎呀。「あつ、^{さいふ}財布がない」

【あつという間に】^ま非常に^{ひじょう}短い^{みじか}時間^{じかん}に。㊥^{ひこうき}眨眼間。一眨眼的工夫。「飛行機は、あつという間に見えなくなった」

【あつと言わせる】^い相手を^{あいて}非常に^{ひじょう}感心^{かんしん}させる。㊥^せ令人吃惊。叫人吓一跳。「世界をあつと言わせる大発見」

あ 4-18

あつ・い① 【厚い】《形》① ^{おもて}表から^{うら}裏までの^{あいだ}間^{おお}が大きい。㊥^{にく}厚的。「肉を厚く切る//^{あつ}厚い^{かべ}壁」^{あつ}名厚さ.^{あつ}厚み^{うす}対薄い ② ^き気持ちが^{ふか}深い。㊥^{きおん}深厚的。^あ深摯的。「厚い友情//^{あつ}厚く^{ゆうじょう}お礼^あ申し上げます」

あ 4-19

あつ・い② 【暑い】《形》^{からだ}体が^ふ不愉快^{ゆかい}に^{かん}感じるほど^{きおん}気温^{たか}が高い。㊥^{あつ}炎熱的。「暑くて^{あつ}眠^{ねむ}れない」^{あつ}名暑さ^{さむ}対寒^{すず}い.涼しい

あ 4-20

あつ・い② 【熱い】《形》①さわれないぐらい温度が高い。㊥燙的。热的。

「風呂の湯が熱くて、入れない」②気持ちが高まって、燃えるようだ。㊥火
热的。热血沸腾的。「胸が熱くなる」△名熱さ 対冷たい

あ 4-21

あつか① 【悪化】《名・自動～する》状態が悪くなること。㊥恶化。变坏。

「父の病状が悪化した」 対好転

あ 4-22

あつかい① 【扱い】《名》①人の相手をする事。㊥接待。应对。「客の扱

いが上手な店員」 他動扱う ②(人を表す名詞の後について) その状態に

ある人として接することを表す。㊥(作为…) 对待。看待。「子ども扱い//

びょうにんあつか
病人扱い」

あ 4-23

あつか・う①③ 【扱う】《他動五》(あつかって) ①手で物を使ったり、操作

したりする。㊥使用。操作。「ガラスの食器を丁寧に扱う」②処理する。㊥

処理。「18歳以上は、大人として扱う」③取り上げて問題にする。㊥提出…

問題。以…为主题。「大震災を扱ったテレビ番組」④対応する。㊥对待。接

待。「客^{きやく}を丁寧^{ていねい}に扱^{あつか}う」⑤ある物を業務^{もの ぎょうむ}の対象^{たいしょう}とする。㊥管。办理。「事務^{じむ}

用品^{ようひん}は2階^{かい}で扱^{あつか}っている」 △名^{あつか}扱^{あつか}い

あ 4-24

あつかまし・い⑤ 【厚かましい】《形》^は恥ずかしいと思^{おも}う気持^{きも}ちや、遠慮^{えんりよ}す

る気持^{きも}ちがまったくない。㊥厚颜无耻^{はじ}的。厚着脸皮^あ。「初^{はじ}めて会^あった人^{ひと}に借^{しゃ}金^{きん}

を頼^{たの}むとは、あつかましいやつだ」 名^{あつ}厚かまし^{あつ}さ 類^{あつ}ずうずうしい

あ 4-25

あっかん① 【压卷】《名》^{ぜんたい}全体^{なか}の中^もで、最^ももすぐれている部分^{ぶぶん}。㊥压卷之

作。精华部分。「映^{えい}画^がの雄大^{ゆうだい}な滝^{たき}の場^ば面^{めん}は压卷^{あっかん}だっ

あ 4-26

あつぎ① 【厚着】《名・自動～する》^{ふく}服^{かさ}をたくさん重^{かさ}ねて着^きること。㊥穿得

厚。「風邪^{かぜ}をひかないように、^{あつぎ}厚着^{あつぎ}する」 対^{うすぎ}薄着

あ 4-27

あつくるし・い⑤ 【暑苦しい】《形》^{あつ}暑^{あつ}くて、^{いきぐる}息苦^{いきぐる}しいようだ。また、その

よう^みに見^みえる。㊥热得难受^{まど}。闷热^し的。「窓^{まど}を閉^しめき^しっている^しので、暑^{あつくる}苦^{あつくる}しい」

名^{あつくる}暑^{あつくる}苦^{あつくる}し^{あつくる}さ

あ 4-28

あっけな・い④ 《形》^{おも}思っていたより^{かんたん}簡単で、ものたりない。㊥**轻易的。**

没有尽兴的。「^{たい}10対1で、あっけなく^ま負けた」名あっけなさ

あ 4-29

あっけに-とられる 【あっけに取られる】^{おも}思いがけないことで、ひどく^{おどろ}驚く。

㊥**吓呆。惊愕。**「^{どうどう}堂々と^{しょうひん}商品を^{まんび}万引きする^{しんし}紳士を見て、あっけに^と取られた」

あ 4-30

あっさり③ I 《~ (と) 副・自動~する》^{ひと}人の^{せいかく}性格、また、^{あじ}味や^{いろ}色がしつ

こくなく、^{たんぱく}淡泊なようす。㊥**清淡的。淡泊的。**「ものごとにこだわらない、あ

っさりとした^{せいかく}性格//^{うすあじ}薄味のあっさりした^{りょうり}料理」類さっぱり II 《~ (と) 副》

^{かんたん}簡単なようす。㊥**简单。轻松。**「^{しょうぶ}勝負はあっさり^き決まった」

あ 4-31

あっし① 【**压死**】《名・自動~する》^お押しつぶされて^し死ぬこと。㊥**压死。**「^{たお}倒

れた^{たてもの}建物の^{したじ}下敷きになって、^{あっし}压死した」

あ 4-32

あっしゆく④ 【圧縮】《名・他動～する》①物や^{もの}気^き体^{たい}に^{あつりょく}圧^{くわ}力^{ちぢ}を加えて縮めること。④^{あつしゆく}圧^{ふくろ}縮。「ふとんを圧縮して袋にしまおう」^{あつさく}類^{ぶんしょう}圧^{みじか}搾 ②文章を短くすること。④^{げんこう}縮^{はんぶん}短。圧縮。「原稿を半分に圧縮して新聞に載せる」③^ひかかる^ひ費
^{よう}用^{すく}を少なくしたり、^{ちい}コンピューターの^{ちい}ファイルの^{ちい}サイズを小さくしたりすること。^{とうけつ}凍^{たいりょう}結。④^{あつしゆく}圧^{おく}縮。「大量の資料を圧縮して送る」

あ 4-33

あっせん④ 【斡旋】《名・他動～する》^{りょうほう}両^{あいだ}方^{はい}の間^{はい}に入^{はい}って、うま^{はい}く^{はい}い^{はい}く
^とよう^もに^も取^もり^も持^もつ^もこ^もと。④^{しゅうしょく}斡^{しゅうしょく}旋。介^{しゅうせん}紹。「就^{しゅうせん}職^{ちゅうかい}をあっせんする」^{しゅうせん}類^{ちゅうかい}周^{ちゅうかい}旋。仲^{ちゅうかい}介

比較 ^{あっせん}斡^{ちゅうかい}旋・仲^{なかだ}介・仲^{なかだ}立ち

3語とも2つの立場の間に立って話をまとめること。あっせんは、個人同士だけでなく、多数の間に立つ場合もいうが、仲介は1対1の間に立って、事務的に仕事として間に立つことをいう。仲立ちは、両者の間に立って世話する以外にも、商品などの売買の世話もする。

- ◆あっせんによって、労使交渉はまとまった/あっせん機関
- ◆売り手と買い手の間を仲介する/仲介手数料
- ◆知人に仲立ちしてもらって良質の不動産を購入できた/結婚の仲立ち

あ 4-34

あったか・い④ 《形》^{あたた}「暖^{あたた}かい」「温^いかい」の^{かた}く^{かた}だ^{かた}け^{かた}た^{かた}言^{かた}い^{かた}方^{かた}。④「暖^かか
^{りょうり}い」「温^{りょうり}かい」的^た口^た語^た説^た法^た。「料^た理^たがあ^たった^たか^たい^たう^たち^たに、^た食^たべ^たよ^たう」^な名^なあ^なっ^なた^なか^なさ

あ 4-35

あっち③ 《代名》「あちら」のくだけた言い方。㊥「あちら」的随便说法。

「うるさいから、あっちへ行きなさい」→付録「指示語のまとめ」

あ 4-36

あづち-ももやま-じだい①・⑤ 【安土桃山時代】《名》織田信長、豊臣秀吉が

政権をにぎっていた 1568年からの約30年間で、日本の近世社会の基礎が築か

れた時代。文化的には城の建築とその内部に描かれた絵に傑作が多く、また茶

道が完成された。㊥安土桃山时代。自 1568 年开始，在织田信长、丰臣秀吉掌握政权的约 30 余年间。

あ 4-37

あつで④ 【厚手】《名》紙・布・陶器などが厚いこと。㊥厚。厚的（东西）。

「寒い日は、厚手のコートを着て出かける」 対 薄手

あ 4-38

あつとう④ 【压倒】《名・他動～する》非常にすぐれた力で、相手に打ち

勝つこと。㊥压倒。胜过。「気力で相手チームを圧倒した」

あ 4-39

あつとうてき ㊦ 【圧倒的】《形動》 ^{ちから かず} 力や数などが、^{ほか くら おお} 他と比べて ^さ 大きな差が

あるようす。㊦ **圧倒性的。絶対性的。**「^{あに あつとうてき ちから} 兄は圧倒的な力で、^{おとうと か} 弟に勝った//^{あつ} 圧

^{とうてき た すう} 倒的多数」

あ 4-40

あっぱく ㊦ 【压迫】《名・他動～する》 ① ^{つよ お} 強く押しつけること。㊦ **紧压。**「^{おほ} 溺

^{ひと むね あっぱく} れた人の胸を^{じんこう こきゅう} 压迫して、人工呼吸 ^{けんりよく せいりよく} をする」 ② 権力や勢力などで^お 押さえつけ

ること。㊦ **压迫。**「^{たいこく ぐん じりよく} 大国が軍事力で、^{しゅうへん くに あっぱく} 周辺の国を^{い あつ よくあつ} 压迫する」 ㊦ **威压. 抑压** ③

^お 押さえつけて、^{き ぼ ちい} 規模を小さくさせる。㊦ **压迫。**「^{じゅうぜい} 重税が、^{こくみんせいかつ あっぱく} 国民生活を^お 压迫する」

あ 4-41

アップ ㊦ (up) I 《名・自他動～する》 ^あ 上がること。^あ 上げること。㊦ **提升。**

提高。「^{レベルアップ} レベルアップ」 ㊦ **対ダウン** II 《名》 ① ^{うし なが かも け うえ} 後ろの長い髪 ^う の毛を上 ^ま でまと

^{かみがた} めた髪形。㊦ **盘头。**「^ゆ アップに^{しやしん えいが} 結う」 ② ^{かお} 写真や映画などで、^{もの とく} 顔やある物を^{とく} 特

^{おお} 大きく ^{うつ} 写すこと。㊦ **特写。**「^{クローズアップ} クローズアップ」

あ 4-42

あっぷあっぷ ㊦ ㊦ 《～(と) 副・自動～する》 ① ^{おほ} 溺れそうになり、^{くる} 苦しん

でいるようす。㊦ **呛得透不过气。**「^{かわ お} 川に落ちて、あっぷあっぷする」 ② ^{せいかつ} 生活に

くる 苦し^くみ、^ひ非^{じょう}常^こに困^こっているようす。㊥喘^ち不^ふ過^{くわ}気。十分^{じゅう}窘^{きゆう}困^{こん}。「失^{しつ}業^{ぎやう}して生^{せい}活^{かつ}があっふあっふだ」 話

あ 4-43

あつま・る ㊦ 【集^あまる】《自^じ動^{どう}五^ご》(あつま^つて) ①多^おく^おの^ひ人^と・物^{もの}などが、1^{いっ}か^い所^{じょ}に寄^よる。㊥集^じ聚^{じゆ}。汇^い合^{ごう}。「人^{にん}気^き歌^か手^{しゅ}の^こコ^んサ^ート^とに^あ人^{ひと}が^あ集^あまる」 ②集^じ中^{ちゆう}す^ずる。㊥集^じ中^{ちゆう}。「震^{しん}災^{さい}で親^{おや}を^こなく^こした^こ子^こに、同^{どう}情^{じやう}が^あ集^あまる」 △名^あ集^あまり 他^あ動^あ集^あめる

あ 4-44

あつ・める ㊦ 【集^あめる】《他^た動^{どう}一^{いち}》 ①多^おく^おの^ひ人^と・物^{もの}などを1^{いっ}か^い所^{じょ}に寄^よせる。㊥招^{しやう}集^{じつ}。收^{しゆ}集^{じつ}。「趣^{しゆ}味^みは切^き手^てを^あ集^あめる^{こと}だ」 ②関^{かん}心^{しん}を^ひ引^ひき^つけ^るる。㊥吸^あ引^{いん}。「注^{ちゆう}目^{もく}を^あ集^あめる」 △自^あ動^あ集^あまる

あ 4-45

あつりよく ㊦ 【压^あ力^{りき}】《名^な》 ①物^{もの}を^お押^おさ^えつ^ける^ち力^{ちから}。㊥压^あ力^{りき}。「大^{たい}気^きの^あ压^あ力^{りき}」 ②人^{ひと}や^だん^だん^だい^い、^いけ^んん^んなど^じを^じ、^じ自^じ分^{ぶん}に^ちし^ちた^ちが^ちわ^ちせ^ちよ^ちう^ちと^ちす^ちる^ち力^{ちから}。㊥压^あ力^{りき}。制^{せい}服^{ふく}力^{りき}。「政^{せい}府^ふが^あ压^あ力^{りき}を^あか^あけ^あて^あ、^{ぎん}ぎん^{こう}に^{しゅ}しゅ^つし^し ^あつ^あり^あよ^あく^あだ^あん^あたい^あ // 压^あ力^{りき}団^{だん}体^{たい} / 压^あ力^{りき}集^{じつ}団^{だん}。」 △ブ^あレ^あッ^あシ^あャ^あー

あ 4-46

あつれき① 【軋'轆'】《名》^{なか わる}仲が悪くなって、^{あらし あ}争い合うこと。㊥不和。摩

擦。「^{しゃ がっぺい}2社が合併した^{あと}後、^{しゃない}社内にあつれきが^{しょう}生じた」書 類不和. ^{かくしつ}確執 参 車輪

がきしるという^{い み}意味から。

あ 4-47

あて① 【当て】《名》①^{もくてき め あ}目的。目当て。㊥目的。目标。「^あ当てもなく^{ある}歩きま

わる」②^{たよ}頼り。㊥^{おや えんじょ あ}依靠。「^{しょうらい み こ}親の援助を当てにする」③^{しょうらい}将来の見込み。㊥希望。

^{なんびょう}指望。「^{かいふく あ}難病で、回復の当てがない」

あ 4-48

あて 【-宛て】《接尾》①^{はいぶん}配分すること。割り当てること。㊥^{わ あ}毎。平均。「ビ

ールを^{ひとり}1人あて^{ほんようい}2本用意する」類あたり ②^{ひと ばしょ}人・場所などを^{おく さき とど}送り先・届け先と

すること。㊥^{にゅうがくがんしょ だいがく}寄給…。^{ゆうそう}发到…。「^{にゅうがくがんしょ}入学願書を^{だいがく}大学あてに^{ゆうそう}郵送する」

あ 4-49

あてが・う③① 【宛てがう】《他動五》(あてがって) ①^{あた がわ てきとう}与える側が^{あた}適当だ

と思うものを、^{おも}相手に^{あいて}与える。㊥^{あた}分配。分派。「^{しんにゅうしゃいん}新入社員に^{しごと}仕事をあてがう」

②^{もの た もの}ある物に^あ他の物を、^あぴったり合うように^あつける。㊥^あ贴在…上。^あ靠在…上。「^{よわ}弱

った^き木に^そ添え^ぎ木をあてがう」

あ 4-50

あてこすり① 【当てこすり】《名》ほかの話はなしに関係かんけいづけて、遠とおまわしに悪口わるくちや皮肉ひにくを言うこと。また、そのことば。④諷刺。讥讽。「魚料理さかなりょうりがなかなか出てこないので、『海へ釣りに行ったの?』と当てこすりを言った」自動あてこする 類あてつけ

あ 4-51

あてさき① 【宛先】《名》手紙てがみや荷物にもつなどの届とどけ先さき。④收信人（收件人）的姓名地址。「正確せいかくに宛先あてさきを書かく」

あ 4-52

あてじ① 【当て字】《名》漢字かんじの意味いみに関係かんけいなく、その音おんや訓くんを使つかってことばを書かき表あらわすこと。また、その文字もじ。「印度いんど」「目出度めでたい」のような書かき方かた。④音译字。假借字。対せいじ

あ 4-53

あてつ・ける④ 【当てつける】《他動一》①直接ちよくせつかんけい関係かんけいのないことを聞きかせたりして、相手あいてを非難ひなんする気持きもちを表あらわす。④含沙射影。指桑骂槐。「パパはやさしいねと、厳きびしい母ははに当あてつけて言う」類あてこする ②男女だんじょの仲なかのい

いことを見せつける。㊥炫耀。显示。「新婚の2人に当てつけられて、早々に部屋を出た」 △名当てつけ

あ 4-54

あてど-(も) -なく 【当てど(も)なく】《連語》どこへ行くという目的もなく。㊥没有目标。「海辺を、当てどなく歩いた」

あ 4-55

あてな㊦ 【宛名】《名》手紙や書類に書く相手の名前、また、住所と名前。

㊥(受信人) 姓名住址。「楷書で宛名を書く」

あ 4-56

あてはずれ㊧ 【当て外れ】《名》期待や予想がはずれること。㊥落空。没有想到。「ボーナスが減って、あてはずれだった」

あ 4-57

あてはま・る㊨ 【当てはまる】《自動五》(あてはまっ)ものごとに、ぴったり合う。㊥符合。适合。「チャンは、パソコンと英語と中国語ができる人、という条件にちょうどあてはまる」 他動当てはめる

あ 4-58

あては・める④ 【当てはめる】《他動一》ものごとに、うまく合うようにする。㊥適用。按照。「規則にあてはめて処理する」 ㊦自動あてはまる ㊧類適用する

あ 4-59

あでやか② 《形動》人の注目を集めるような、はなやかできれいなようす。㊥艳丽。「あでやかな和服姿//あでやかに装う」 ㊦名あでやかさ

あ 4-60

あ・てる① 【当てる】《他動一》①物を動かして、他の物に勢いよくふれるようにする。ぶつける。㊥击。打。撞。「投球を、うまくバットに当てた」②命中させる。㊥射中。命中。「矢を的に当てる」③光・雨・風などにふれる。㊥（让阳光、风雨等）晒。淋。吹。「洗濯物を日に当てて乾かす」④物やからだの一部を、他の物にふれさせる。㊥貼上。放上。「胸に手を当てて、よく考える」⑤くじ引きなどで、賞を得る。㊥中奖。「宝くじで1等を当てた」⑥予測を的中させる。㊥猜中。中彩。「先生の年齢を当てた」⑦大きな利益を得る。㊥赚。获利。「株で当てて、もうかった」⑧指名する。㊥叫。点名。「先生は、生徒を当てて読ませた」⑨（動詞の連用形について）求めていたものを得

る。㊥**得到**。……**到**。「さがし^あ当てる//温泉^{おんせん}を掘り^ほ当てる」⑩（「あてられる」

の形^{かたち}で）夫婦^{ふうふ}・恋人^{こいびと}の仲^{なか}の良^よさを見^みせつけられる。㊥**看到别人家夫妻、恋人**

亲昵的样子，感到困扰。「新婚^{しんこん}の友達^{ともだち}にあてられる」△**自動**当たる

あ 4-61

あ・てる㊦ **【充てる】**《他動一》ある物^{もの}を、何^{なに}かに使^{つか}う。㊥**用作…。充当**。

「ボーナス^{しゃっきんへんさい}を借^か金返^{かへ}済^{さい}にあてる」**類**充^{じゅう}当^{とう}する

あ 4-62

あ・てる㊦ **【宛てる】**《他動一》手紙^{てがみ}や荷物^{にもつ}の届^{とど}け先^{さき}を、ある人^{ひと}・場^ば所^{しょ}にす

る。㊥**给…。寄给**。「母^{はは}にあてて手紙^{てがみ}を^か書^かく」

あ 4-63

あと㊦ **【跡】**《名》①何^{なに}かが通^{とお}った所^{ところ}に^{のこ}残^{のこ}るしるし。㊥**痕迹**。印^{いん}痕^{こん}。「雪^{ゆき}の

上^{うへ}に靴^{くつ}の跡^{あと}がある」②あること^{おこな}が行^{おこな}われたり、存在^{そんざい}したりしたことを示^{しめ}す証^{しょう}

拠^こ。㊥**遗迹**。迹^{いし}象^{しょう}。「昔^{むかし}の城^{しろ}の跡^{あと}//努力^{どりよく}の跡^{あと}が^み見える」③相^{そう}続^{ぞく}する家^か業^{ぎょう}・

地^ち位^い・身^み分^{ぶん}。㊥**家业**。「父^{ちち}の跡^{あと}をついで、農^{のう}業^{ぎょう}を^する」

あ 4-64

あと① I 【後】《名》①背中のほう。後ろ。㊤**背后**。后面。「父の後からつ

いて歩く」**対前** ②ある時点より遅いとき。以後。㊤**以后**。回头。「宿題は

後です」**対先** ③残った部分。㊤**其余**。余下的。「後は部下に任せる」④連続

するもので、次にくるもの。㊤**之后**。后面。下一…。「時候の挨拶の後に、用件

を書く」**対前** ⑤ものごとの終わりに近い部分。後ろ。㊤**后面**。「渡辺さん

の名前は名簿の後のほうにある」**対前** **類**末尾 ⑥子孫。㊤**后代**。后人。「山

田家は、子どもがなくて後が絶えた」⑦後継者。㊤**后任**。「営業部長の後が

決まった」⑧死後。㊤**死后**。身后。「両親が急死して、後に子どもだけ残さ

れた」II 【あと】《副》まだ余地があることを表す。㊤**还有**。「あと5分で終わ

る」III 【あと】《接続》「それから」の新しい言い方。㊤**然后**。还有。「日曜日は

部屋の掃除をした。あと、買い物に行った」

【後は野となれ山となれ】今さえよければ、後はどうなってもかまわない。

㊤**只顾眼前不管将来**。

【後を追う・跡を追う】①追いかけて、ついて行く。㊤**随后追赶**。「小さい子ども

が、母親の後を追う」②死んだ人をして、すぐ続いて死ぬ。㊤**随后**

去世。「亡き妻の後を追って死ぬ」

【後を引く】①食べ物・飲み物がおいしくて、いつまでも続いてほしい感じになる。㊥（食物、飲料等）満嘴留香。「ピーナツは後を引いて、食べ始めるとやめられない」②ものごとの影響が後に残る。㊥久久不散。「大地震の恐怖感が、ずっと後を引いている」 似た表現 尾を引く

あ 4-68

あとあじ ㊥㊥ 【後味】《名》①食べたり飲んだりした後、口の中に残る味。㊥口中余味。 類 後口 ②何かが終わった後に残る感じ。㊥余味。 事后回味。「相手のミスで勝った試合は、後味が悪い」

あ 4-69

あとおし ㊥ 【後押し】《名・他動～する》①後ろから押すこと。また、その人。㊥从后面推（的人）。「子どもが自転車で坂を上るのを、後押しする」②力を貸すこと。また、その人。㊥帮助。 后援。「銀行の後押しで、起業することができた」 類 後援. 助力

あ 4-70

あとがき ㊥ 【後書き】《名》本・論文・手紙などの終わりに書きそえる文章。㊥后记。 附笔。「後書きに、執筆の経緯を書く」 対 前書き 類 後記

あ 4-71

あとかたづけ③ 【後片付け・跡片付け】《名・自動～する》^{なに}何かした^{あと}後を、
きちんと^{せいり}整理すること。㊥（事後）**收拾。整理。**「^{しょくじ}食事がすんで、^{あとかたづ}後片付け
をする」^{あとしまつ}類後始末

あ 4-72

あとくされ① 【後腐れ】《名》ものごとが^お終わった^{あと}後まで、^{もんだい}問題が^{のこ}残ること。
㊥**事後（留下）的纠纷。拖泥带水。**「^{あとくさ}後腐れがないように、^{ざいさん}財産と^こ子どものこ
とを^{かいけつ}解決して^{りこん}離婚した」

あ 4-73

あとくち①② 【後口】《名》①^の飲んだり^た食べたりした^{あと}後に^{くち}口に^{のこ}残る^{あじ}味や^{かん}感じ。
^{あとあじ}後味。㊥**口中余味。**「このスープは^{あとくち}後口がさっぱりしている」②ものごとをし
^{あと}た後に^{のこ}残る^{きぶん}気分。後味。㊥**有味。后味。**「^{ともだち}友達と^{わか}けんか^{あとかち}別れをして、^{わる}後口が悪
い」③^{あと}後に^{つづ}続くもの。㊥**后任者。**「^{かいちょう}会長にやめられたら、^{あとくち}後口がない」^対

^{せんくち}先口

あ 4-74

あどけな・い④ 《形》子どもなどのようすが、無邪気むじゃきでかわいい。㊥天真

无邪ようじ。「幼児ねがおのあどけない寝顔わら//あどけなく笑う」 ㊦名あどけなさ

あ 4-75

あとさき①② 【後先】《名》①時間じかんや位置いちの前まえと後あと。㊥前後。「VIPの車くるまの後先

を警備けいびする」②順序じゅんじょ。㊥先后。順序。「後先あとさきを考かんがえて仕事しごとの手順てじゆんを決きめる」

③順序じゅんじょが逆ぎやくになること。㊥前後颠倒そぼ。「祖母はなしの話あとさきはいつも後先になるので、
ついていくのがたいへんだ」

あ 4-76

あとしまつ③ 【後始末・跡始末】《名・自動～する》①ものごとが終おわった

後あとの整理せいり。㊥(事後)收拾かいしよくご。清理のこ。「会食もの後あとしまつ、残り物あとの後始末あとをする」 ㊦類あとかた後片

づけ ②後あとに残のこった問題もんだいの処理しより。㊥善后处理とうさん。「倒産かいしゃした会社あとしまつの後始末はしに走り
まわる」

あ 4-77

あとずさり③ 【後ずさり】《名・自動～する》前まえを向むいたまま、後うしろへ下さが

っていくこと。㊥(面向前方)往后退おお。「大いぬきな犬みを見て、子こどもは後あとずさり
した」

あ 4-78

あとつぎ②③ 【跡継ぎ・後継ぎ】《名》①家の跡をつぐこと。また、その人。

跡取り。㊦后嗣。继承人。「子どもが生まれて跡継ぎができた」類相続人。世継

ぎ ②仕事・学問・芸術などで、師匠や前任者の後をつぐこと。また、そ

の人。㊦继承(人)。接班(人)。「芸のすぐれた洋子を、師匠の後継ぎに指名

する」類後継

あ 4-79

あととり② 【跡取り】《名》家の跡をつぐこと。また、その人。跡継ぎ。㊦

后嗣。继承人。「跡取りがないので、廃業する」類相続人。世継ぎ

あ 4-80

アドバイス③① 《名・自動～する》(advice)助言。忠告。㊦劝告。建议。

あ 4-81

あとばらい③ 【後払い】《名・他動～する》品物を先に受け取って、代金は

後で払うこと。㊦后付款。赊购。「代金は、商品が届いてからの後払いでい

い」対先払い。前払い

あ 4-82

アドバルーン④ 《名》(和製英語 ad+balloon) 広告をつけて空にあげる気球。㊥广告气球。

あ 4-83

あとまわし③ 【後回し】《名》(じゅんばん か あと) 順番を変えて後にすること。㊥推迟。往后推。「テレビを見たいので、宿題は後回しにする」

あ 4-84

アトラクション③④ 《名》(attraction) 客を集めるために、おもな催し物に付け加えて演ずるもの。㊥加演节目。

あ 4-85

アトランダム③ 《形動》(at random) 無作為に抽出するようす。㊥任意。随机。

あ 4-86

アドリブ① 《名》(ad lib) 演技者や演奏者が、台本や楽譜にないせりふ・演技・演奏などを、即興で入れること。また、そのせりふ・演奏など。㊥即兴演奏。临时穿插的台词。

あ 4-87

アドレス① 《名》(address) ①宛名。住所。㊤住址。「アドレス帳」②コンピュータで、ホームページのURLや電子メールの宛先。㊤地址。「メールアドレス」

あ 4-88

あな② 【穴】《名》①くぼんだ所。㊤(凹下、陷下的)坑。孔。「穴を掘って、木を植える//鼻の穴」②反対側まで突き抜けている部分。㊤(打通的)

眼。洞。「針の穴に、糸を通す」③必要な人員が欠けたところ。㊤空缺。「病氣

の選手の穴を、新入部員が埋める」④金銭の欠損。㊤亏损。亏空。「買い物し

すぎて、家計に穴があいた」⑤人に知られていない、いい場所や利益が得ら

れることがら。㊤(不为人知的)好门路。「穴場/(一般人不知道的)好地方」

⑥競馬などで、番狂わせで配当の大きい勝負。㊤(赛马等)出人意外中大彩。

「競馬で穴を当てた」

【穴があったら入りたい】身を隠したいくらい恥ずかしい気持ちだ。㊤恨不

得找个地洞钻进去。「授業中いびきをかいて眠ってしまった。穴があった

ら入りたい」

【穴のあくほど見つめる】人の顔などを、じっと見つめる。㊥目不转睛。町

着看。「祖母は、新聞に載った中国残留孤児の写真を、穴のあくほど見つめた」

【穴をあける】①金を使いこんで、損を出す。㊥使…亏空。「浪費して、家計に

穴をあけた」②ものごとの進行に支障をきたす。㊥妨碍。影响。「主役が

急病で入院して、舞台に穴をあけた」

あ 4-92

あなうめ ㊥㊦ 【穴埋め】《名・自他動～する》①穴を埋めること。㊥填坑。

把坑填埋平。「陥没した道路の穴埋めをする」②お金の損失や、ものごとの足

りないところを補うこと。㊥填补亏空。补缺。填补空白。「新聞記事の穴埋め

に写真を載せる」

あ 4-93

アナウンサー ㊦ 《名》(announcer) ①テレビやラジオで、ニュースの報道・

司会・実況放送などをする人を職業とする人。㊥播音员。(电台、电视)

主播。②劇場・競技場・駅などで、放送をする係。㊥广播员。

あ 4-94

アナウンス②③ 《名・自動～する》(announce) マイクをとお通してニュースや連れん絡事項などを放送ほうそうすること。㊥广播。

あ 4-95

あながち① 《副》(後あとに否定ひていの語ごがきて) はっきりだんてい断定するのを控ひかえているようす。必かならずしも～ない。㊥未必。不见得。「学力がくりょくの低下ていかは、あながち学校がっこうの責任せきにんとは言えない」

あ 4-96

アナクロニズム⑤ 《名》(anachronism) 時代じだい錯誤さくご。時代じだい遅れ。㊥不合时代潮流。落后于时代。

あ 4-97

あなた② 《代名》同等以下どうとうい 以下の相手あいてを指さす、軽かるい尊敬語そんけいご。㊥你。您。「あなたも一緒いっしょに行きませんか」 類きみ君。お前まえ。おたく

あ 4-98

あなど・る③ 【侮る】《他動五》(あなどって) 相手あいてを軽かるく見みて、ばかにする。㊥轻视。小瞧。「相手チームは1年生だとあなどっていたら、負まけてしまった」 名あなど侮り 類み見くびる。見下みくだす。軽んかるじる。なめる

あ 4-99

アナログ① 《名》(analog) 数値を連続的に変化する量で示すこと。また、そのもの。㊦(電子表等) 模拟指针式的。模拟。「アナログ時計/指针式钟表」
対デジタル

あ 4-100

あに① 【兄】《名》①年上の男のきょうだい。㊦哥哥。「兄はわたしより3歳上だ」②妻・夫の兄。姉の夫。義兄。㊦大舅子。大伯子。姐夫。「姉が結婚して、新しい兄ができた」 △対弟・姉

あ 5-1

あにき① 【兄貴】《名》①「兄」を親しんで呼ぶ言い方。㊦(爱称)哥。「兄貴の辞書を借りてきた」 対姉貴 ②職人・やくざなどの間で、年上の男や勢力のある男。㊦大哥。老大。「組の兄貴の命令にはしたがう」

あ 5-2

アニマル① 《名》(animal) ①動物。㊦動物。②1つのことだけに熱中する人を軽蔑した言い方。㊦動物。「エコノミックアニマル」

あ 5-3

アニメ①① 《名》「animation (アニメーション)」の略。絵や人形などを、すこしずつ動かしたり形を変えたりして撮影し、画面が動いているように見せる映画。㊤动画片。

あ5-4

あね① 【姉】《名》①年上の女のきょうだい。㊤姐姐。「姉のお古のセーターを着る」②妻・夫の姉。兄の妻。義姉。㊤大姨子。大姑子。嫂子。「兄が出張中、姉は実家に帰った」△㊤妹・兄

あ5-5

あの① 《連体》①話す人からも聞く人からも離れていて、両方から見える物・こと・人をさすことば。㊤那。那个。「あの山が富士山です」②目の前のことではないが、話す人も聞く人も知っている物・こと・人・時をさすことば。㊤那。「あの話は、どうなりましたか」△→付録「指示語のまとめ」

あ5-6

あの(う)① 《感》言いだしにくいときや遠慮しているときに、言うことば。㊤请问。那个…。嗯…。「あの(う)、ちょっとお尋ねしたいんですが」
話類その(う)

あ5-7

あのてこのて③・③ 【あの手この手】《連語》いろいろな方法・手段。㊤

各种办法。「店員はあの手この手を使って、買わせようとした」

あ5-8

あのよ③④ 【あの世】《名》死んでから行く世界。㊤黄泉。另一个世界。「祖

母は3月にあの世へ旅立った」 対この世 類来世. 冥土. 黄泉の国

あ5-9

アパート② 《名》「apartment house (アパートメントハウス)」の略。1つ

の建物の内部を仕切って、いくつかの独立した住宅にしたもの。㊤公寓。

あ5-10

アバウト② 《形動》(about)おおざっぱで、いいかげんなようす。㊤大致。
大大咧咧。俗

あ5-11

あばく② 【暴く】《他動五》(あばいて)他人の秘密や悪事をさぐり出し

て公表する。㊤揭露。揭发。「新聞は、病院が隠していた医療事故をあば

いた」 類暴露する. ばらす

あ5-12

あば・れる① 【暴れる】《自動一》ひどく乱暴^{らんぼう こうどう}な行動をする。㊥胡闹。乱闹。

「酔^よって車^{しゃ}内^{ない}で暴^{あば}れている男^{おとこ}を、乗^{じようきやく}客^とが取り押^おさえた」

あ 5-13

アパレル①① 《名》(apparel)服装^{ふくそう}。衣料^{いりよう}。㊥纺织服装。

あ 5-14

あばれんぼう① 【暴れん坊】《名》よく乱暴^{らんぼう こうどう}な行動をする人。㊥爱打架的人。
粗暴的人。

あ 5-15

アピール② 《名・自他動～する》(appeal) ①人々^{ひとびと}や世論^{よろん}に訴^{うった}えること。

また、その訴^{うった}え。㊥呼吁。「デモで、原発^{げんぱつ}反対^{はんたい}をアピールする」②人々^{ひとびと}をひ

きつけること。㊥吸引。打动。「大衆^{たいしゆう}にアピールする歌^{うた}//セックスアピール」

③スポーツで、審判^{しんぱん}に抗議^{こうぎ}すること。㊥抗议。「走者^{そうしゃ}の方が早^{はや}かったと、監督^{かんとく}はアピールした」 △アップピール

あ 5-16

あび・せる① 【浴びせる】《他動一》①水^{みず}などの液体^{えきたい}を、相手^{あいて}に上^{うえ}から勢^{いきお}い

よくかける。㊥浇。泼。「冷水^{れいすい}を浴^あびせる」②相手^{あいて}に対して、集^{たい}中^{しゆうちゆう}的^{うてき}に非難^{ひなん}・

しょうさん しつもん はっ
賞賛・質問などを発する。㊥連続不断地责难、赞扬或发问。「講演者に質問を

あ ひなん あ
浴びせる//非難を浴びせる」

あ 5-17

あ・びる㊤ 【浴びる】《他動一》①みず えきたい じぶん からだ たいりょう う
水などの液体を、自分の体に大量に受け

る。㊥淋。浇。「シャワーを浴びる」②ひかり からだぜんたい う
光・ほこりなどを体全体に受ける。

㊥（被光）照、晒。（被灰尘）覆盖。「ライトを浴びて登場する」③あいて
相手から

ひなん しょうさん しつもん う
非難・賞賛・質問などを受ける。㊥獲得（赞扬）。遭到（指责）。受到（提问）。

まんじょう はくしゅ あ
「満場の拍手を浴びる」

あ 5-18

アフターケア㊤ 《名》(aftercare) びょうき かいふくき ひと たい おこな けんこう
病気の回復期の人に対して行う、健康

かんり しゃかいふつき しどう
管理や社会復帰のための指導。㊥愈后护理。

あ 5-19

アフターサービス㊤ 《名》(和製英語after+service) しょうひん う あと
商品を売った後も、

う て しょうひん しゅうり てい めんどう
売り手が、その商品の修理や手入れなどの面倒をみること。㊥售后服务。

保修。

あ 5-20

あぶな・い①③ 【危ない】《形》①事故や災難などがありそうで、安心できない。④危险的。不安全的。「暗い山道を歩くのはあぶない」②悪い結果が予想されるようす。④有危险的。悬。「あすの天気はあぶない」名危なさ

あ 5-21

あぶなげな・い⑤ 【危なげない】《形》确实で安心できそうだ。④稳当而安全。十拿九稳的。「30年も運転していて、あぶなげない運転だ」

あ 5-22

あぶなっかし・い⑥ 【危なっかしい】《形》いかにもあぶなく感じられる。④令人担心的。「幼児があぶなっかしい手つきで紙を切る」

あ 5-23

あぶ-はち-とら-ず 【蛇'蜂取らず】《連語》2つのものを手に入れようとして、かえって両方とも手に入れられなくなること。④鸡飞蛋打。务广而荒。「中国語とタイ語の2つの外国語を習得しようとして、結局あぶはち取らずに終わった」

あ 5-24

あぶら④ 【油】《名》① 鉱物や植物の種からとった、燃えやすくて水に溶け

にくい物質。食用・燃料などに使う。㊤油。「肉と野菜を油でいためる//機

械に油をさす」② 活力の元。㊤能量。劲儿。「油が切れて、もう動けない」

【油を売る】むだな長話をして、時間をつぶしたり、仕事を怠けたりする。

㊤闲聊来打发时间。偷懒儿。「コピーを取りに行ったまま、どこで油を売っているのか、なかなかもどってこない」

【油をしぼられる】まちがいや失敗を厳しく責められる。㊤被谴责。被申斥。

「だいたいな会議に遅刻して、上司からさんざん油をしぼられた」

あ 5-27

あぶら④ 【脂】《名》動物の脂肪。㊤脂肪。「この肉は脂が多い」

【脂が乗る】①ある季節に、魚や鳥などの脂肪が増えて、味がよくなる。

㊤上膘。「冬のブリは、脂がのっていておいしい」②仕事や勉強などの調

子が出て、はかどる。㊤劲头十足。「仕事に慣れて、脂がのってきた」

あ 5-29

あぶらあせ④③ 【脂汗】《名》苦しいとき・緊張しているときなどに出る汗。

㊤粘汗。急汗。「あまりの痛さに脂汗が出る」

あ 5-30

あぶらえ③ 【油絵】《名》油^{あぶら}でねった絵^えの具^ぐで描^かいた絵^え。㊦油画。㊧水彩画^{すいさいが}

あ 5-31

あぶらぎ・る④ 【脂ぎる】《自動五》(あぶらぎって) ①脂^{あぶら}が表面^{ひょうめん}に浮^うき出^でて、ぎらぎらしている。㊦油光发亮^{じゅうろうどう}。「重労働^{じゅうろうどう}で脂^{あぶら}ぎった顔^{かお}の男^{おとこ}たち」②精

力的^{りよくてき}でどぎつく、体^{からだ}に脂肪^{しぼう}が多い感^{おほ}じだ。㊦肥胖^{あぶら}。「脂^{あぶら}ぎった中年^{ちゅうねん}の男^{おとこ}が、
外車^{がいしゃ}から降^おりてきた」

あ 5-32

あぶらっこ・い⑤ 【脂っこい・油っこい】《形》あぶら気^けが多い。㊦油腻^{おほ}。

「脂^{あぶら}っこい食^たべ物^{もの}は、健康^{けんこう}上^{じょう}避^さけている」 ㊧脂^{あぶら}っこさ、油^{あぶら}っこさ ㊨

あ-

アフリカ⑥ 《名》(Africa) 六大州^{ろくだいしゅう}の1つ。地^ち中海^{ちゅうかい}をはさんで、ヨーロッ

パの南^{みなみ}に位置^いする大陸^{たいりく}とその周^{しゅう}辺^{へん}の島^{しま}々^{じま}からなる。第^{だい}二^に次^じ世界^せ大^{たい}戦^{せん}前^{まえ}は大

部分^{ぶぶん}がヨーロッパ^{れつきょうこく}列^{しよくみん}強^ち国^ちの植^{せい}民^き地^{なか}であつたが、20世紀^{いこう}半^たば以^{すう}降^{どくりつ}、多^た数^{すう}の独^ど立^{りつ}

国^{こく}が生^うまれた。㊦非洲。

あ 5-33

あぶ・る② 《他動五》(あぶって) ①火で軽く焼く。㊤**烤。烘。焙。**「魚の干物をあぶる」②火に当てて、乾かしたり、温めたりする。㊤**烤干。烘热。**
「たき火で手をあぶる」

あ5-34

あふ・れる③ 《自動一》①水などがいっぱいになって、こぼれる。㊤**溢出。**
漾出。「大雨で川があふれた//涙があふれる」②人や物が、入りきらないほどいっぱいになる。㊤**挤满。放满。**「売り場に品物があふれている」③才気・気力・感情などが満ちている。㊤**充满。洋溢。**「喜びにあふれる//あふれる魅力」

あ5-35

あぶ・れる③ 《自動一》決まった人数からはみだしてしまって、仕事や席をとることができない。㊤**得不到。找不到。**「会場に入りきれなくて、あふれてしまった」俗

あ5-36

アプローチ③ 《名・自動～する》(approach) ①仕事や研究などの対象となる人やものごとに接近すること。また、その方法。㊤**接近。靠近。**②門から建物の入り口への通路。㊤**大门前。**

あ 5-37

あべこべ① 《名・形動》^{じゅんじょ ほうこう かんけい}順序・方向・関係などが^{ぎやく}逆なこと。㊥反。相反。

颠倒。「^{ようじ くつ さゆう}幼児が靴を左右あべこべにはいている」^{はんたい ぎやく さか}類反对. 逆. 逆さ

あ 5-38

アポイントメント② 《名》(appointment)^{めんかい よやく}面会の予約。アポ。㊥预约(见面)。

あ 5-39

あま・い① 【甘い】《形》①^{さとう あじ}砂糖のような味だ。㊥甜的。「^{あま もの た}甘い物を食べた

^{つか}ら疲れがとれた」②^{しおけ すく}塩気が少ない。㊥口淡的。不咸的。「^{りょうり}料理がすこし^{あま}甘い

ので、^{しお た}塩を足す」^{しおから}対塩辛い ③^{ひと きも}人をいい気持ちにさせるようだ。㊥甜蜜的。

「^{あま}甘いことばで^{ひと さそ}人を誘う//^{あま かお}甘い香り」④^{きび}厳しくない。㊥宽(松)的。「^{がくせい}学生に

^{あま せんせい}甘い先生」^{きび}対厳しい. 辛い ⑤^{かんが かた}考え方などがしっかりしていない。㊥小看。

掉以轻心。「^{しけん あま}試験を甘くみていた」^{あま}△名甘さ. 甘み

【^{あま しる す}甘い汁を吸う】^{ひと}人をうまく^{りょう}利用して、^{りえき え}利益を得る。㊥捞一把。占便宜。「^{ちい}地位

^{りょう}を利用して^{わいろ と}賄賂を取り、^{あま しる す}甘い汁を吸う」

あ 5-41

あま・える① 【甘える】《自動一》①かわいがってもらおうとして、なれなれしくする。㊦撒娇。「子どもが親に甘えて、おもちゃをねだっている」②相手の好意によりかかる。㊦承蒙（好意）。「おことばに甘えて、1晩泊めていただきます//親切に甘える」 △名甘え 類甘ったれる

あ 5-42

あまえんぼう① 【甘えん坊】《名》よく甘える子ども。また、甘える気持ちの強い人。㊦撒娇的孩子。爱撒娇的人。「甘えん坊だから、10歳になっても母と寝ている」 話

あ 5-43

あまぐ② 【雨具】《名》雨のときに身につける、雨を防ぐもの。傘・レインコート・雨靴など。㊦雨具。「登山に雨具は必需品だ」

あ 5-44

あまくだり① 【天下り】《名・自動～する》高級官僚が退職後、関連のある団体や会社の高い地位につくこと。㊦政府高级官员退休后，利用特权去民营企业当领导。官僚“天降制度”。「財団の理事長は、官庁からの天下りだ」

あ 5-45

あまくち① 【甘口】《名》^{いんしょくぶつ}飲食物で、^{から}辛さが^{すく}少ないもの。また、みそやしょうゆで^{えんぶん}塩分が^{すく}少ないもの。Ⓜ^{さけ}带甜味儿的。「この^{あまくち}酒は甘口だ」対^{からくち}辛口

あ 5-46

あまざらし③ 【雨ざらし】《名》^{あめ}雨にぬれるままにしておくこと。Ⓜ^{あめ}任雨淋。
扔在雨中不管。「^{じてんしゃ}自転車が^{あま}雨ざらしになっている」

あ 5-47

あま・す② 【余す】《他動五》(あまして) ①^{よぶん}余分なものとして^{のこ}残す。Ⓜ^{のこ}剩
下。「^{しょくよく}食欲がなくて、^{べんとう}弁当を^{あま}あました」 ②^{げんど}限度までの^{よち}余地を^{のこ}残している。Ⓜ
留下。只有。「^{そつぎょう}卒業まであと^{みつ か}3日を^{あま}あますだけだ」

【^{あま}余すところ】^{のこ}残りの部分。Ⓜ^{のこ}只剩下。「今年も^{ことし}あますところ^{いつ か}5日だ」

あ 5-49

あまずっぱ・い⑤ 【甘酸っぱい】《形》 ①^{あま}甘くて、^す酸っぱい。Ⓜ^{あま}酸甜的。「ア
ンズの花の^{はな}甘酸^{あま}っぱい^{かお}香りがする」 ②^{あま}せつなくて、^{きも}甘い^{あま}気持ちだ。Ⓜ^{あま}有苦有
甜的。甜蜜而又青涩的。「^{はつこい}初恋の人を、^{ひと}甘酸^{あま}っぱい^{きも}気持ちで^{おも}思いたす」

あ 5-50

アマチュア① 《名》(amateur) 芸術げいじゆつやスポーツなどを、職業しよくぎようとしてではなく趣味しゆみでする人。アマ。㊥**业余爱好者**。㊦プロフェッショナル

あ 5-51

あまったる・い⑤① 【甘ったるい】《形》とても甘あまくて、いやになるほどだ。

㊥**过于甜的。过分甜蜜的**。「甘あまったるい声こえを出だして、小遣こづかいをねだる」

あ 5-52

あまったら① 【甘ったら】《名・形動》よく甘あまえること。また、その人ひとやよ
うす。㊥**爱撒娇的。被娇惯的人**。「社会しゃかいに出でても、甘あまったらで自立じりつできていな
い」 ㊦自動甘あまられる ㊧俗

あ 5-53

あまど② 【雨戸】《名》風雨ふううや盗難とうなんを防ふせぐために、障子しょうじやガラス戸どの外側そとがわに
取とりつける戸と。㊥**防雨窗。木板套窗**。「大雨おおあめで、昼間ひるまから雨戸あまどを閉しめている」

あ 5-54

あまねく③ 《副》広ひろい範囲はんいに届とどいているようす。広ひろく一般いっぱんてき的に。㊥**到处**。

普遍。「マザーテレサの愛あいは、あまねく世よに知しれわたっている」 ㊦書

あ 5-55

あまのじゃく③ 《名》人の言うことやすることに、わざとさからったり、
じゃまをしたりする人。あまんじゃく。㊤脾气别扭的人。性情乖僻的人。「洋
子^こはあまのじゃくだから、行くなと言え^いば行^いくだらう」 類^まつむじ曲がり。へ
そ曲がり

あ 5-56

あまもり② 【雨漏り】《名・自動～する》屋根^{やね}や天井^{てんじょう}から雨^{あめ}がもること。
㊤漏雨。「家^{いえ}が古^{ふる}くて、雨漏り^{あまも}りがする」

あ 5-57

あまやか・す④④ 【甘やかす】《他動五》(あまやかして)子^こどもなどを、厳^{きび}
しくしつけないで、わがま^{こうどう}な行^{ゆる}動を許す。㊤娇惯。溺爱。「甘やかして育^{あま}
てたので、がま^{そだ}んのできない子^こになってしまった」

あ 5-58

あまやどり③ 【雨宿り】《名・自動～する》急^{きゅう}に雨^{あめ}が降^ふってきたとき、木^きの
下^{した}や家^{いえ}の軒^{のきした}下^{あめ}などで、雨^{あめ}がやむのを待^まつこと。㊤避雨。「雨^{あめ}に降^ふられて、ビル
の入り口^いで雨宿り^{ぐち}した」

あ 5-59

あまり I 【余り】③《名》①あまること。^{のこ}残った物。^{もの}㊦**剰余**。**剰下**。「生活費せいかつひのあまりを貯金ちよきんする」②数学で、割わり算さんをしたときの残のこった数かず。㊦**余数**。「20を3で割わったあまりは2」△**自動**余る **類**残り II 【-余り】《接尾》^{かず}（数を表すことばのあと後について）それよりすこしおお多いこと。㊦**余**。**多**。「1000人にんあまりの聴衆ちようしゆう」

比較 あまり・^{のこ}残り

2語とも全体から必要な部分を除いた後の部分のことだが、あまりが多すぎて残った部分をいうのに対して、残りは使ったものを取り去って残った部分をいう。

- ◆材料のあまりはまだたくさんある/あまりが出ないように買い物する
- ◆料理の残りを食べてしまおう/仕事の残りをかたづける

あ 5-60

あまり I ①②《名》^{ていど}程度がひどく、その結果。^{けっか}㊦**过于**。**过分**。「うれしさのあまり、涙なみだが出た」II ①《副・形動》^{ていど}①程度がひどいようす。^{ひじょう}非常に。あんまり。㊦**太**。**过度**。「あまり働はたらきすぎると、体からだをこわす//土日も働はたらけどは、あまりな待遇たいぐうだ」②（後に否定の語がきて）それほど。たいして。あんまり。㊦**不太**…。**不怎么**…。「あのラーメン屋やは、あまりおいしくない」

あ 5-61

あまりに①③ 《副》^{ひじょう ていど つよ}非常に程度が強いようす。たいへん。㊥太…。^い过于…。

「あまりに^{さむ}寒くてふるえた」^{つよ}㊦強めて「あまりにも」とも言う。

あ 5-62

あま・る② 【余る】《自動五》(あま^てって) ①^{おお}多すぎて^{のこ}残る。㊥^{あま}剰余。富余。

「^{りょうり}料理の^{ざいりょう}材料を^か買すぎて、あまった」②^わ割り^{ざん}算で、^わ割り^き切れないで^{のこ}残りが^で出る。㊥^{あま}余。「10を3で割ると、1余る」③^{げん}限度・^{ていど}程度をこえている。㊥(超

^{しごと}出一定^て限度) ^{すうりょう}过…。「この仕事は^{むずか}むずかしくて、わたしの^て手にあまる」④^{すうりょう}数量

などが、それ^{いじょう}以上である。㊥^{きょうぎじょう}超过。以上。「^{まんにん}競技場には、5万人にあまる^{かんきやく}観客がつめかけた」

あ 5-63

あまん・じる④④ 【甘んじる】《自動一》^{あた}与えられたもので、^{まんぞく}満足する。ま

た、^{ふまん}不満でも、それで^{おも}いいと思^{あま}ってがまんする。甘んずる。㊥^{あま}甘于。満足。

^{へいぼん}安于。「^{せいかつ}平凡な^{あま}生活に甘んじる」

あ 5-64

あみ② 【網】《名》①^{さかな}魚・^{とり}鳥などをとったり、^た食べ物^{もの}を^や焼いたりするため

に、^{いと}糸や^{はりかね}針金などを^あ編んで^{どうぐ}つくった道具。㊥(漁)網。鉄丝网。「^つ釣った^{さかな}魚を

^{あみ}網ですく^あい上げる//^{あみ}網に^の載せて^{もち}餅を^や焼く」②^{ひと}人を^と捕らえたり、^と取り^し締まった

りするために、張りめぐらしたもの。㊦**罗网。法网。**「法律の網をくぐって脱税
する//捜査の網にかかる」

あ 5-65

あみだな ㊦ 【網棚】《名》電車やバスなどの、荷物を載せるための棚。㊦**网
架。**「電車の網棚に書類を忘れてきた」

あ 5-66

あみもの ㊦㊧ 【編み物】《名》毛糸やレース糸などを編んで、セーターや
装飾品などをつくること。また、編んでつくったもの。㊦**编织。编织品。**「編
み物が好きで、家族のセーターは全部編む」

あ 5-67

あ・む ㊦ 【編む】《他動五》(あんで) ①糸・竹・髪の毛・針金などを、結び
合わせたり、からみ合わせたりして、形をつくる。㊦**编。织。**「マフラーを編
む//長い髪を編んで出かける」②多くの文章を集めて、本をつくる。編集す
る。㊦**编辑。**「留学生の作文集を編む」

あ 5-68

あめ① 【雨】《名》①大気中の水蒸気が高い所で冷えて、水滴となって落ちてくるもの。㊤雨。「雨が降る//雨がやむ」②雨の降る日。雨天。㊤雨天。

「このところ、雨が続いて憂鬱だ」③「①」のように、続けざまに落ちてくるもの。㊤如雨点般落下。「涙の雨//弾丸の雨」㊤他のことばにつくと、

「雨水」「雨具」のように「あま」と読み方が変わることが多い。

【雨降って地固まる】もめごとなど悪いことがあった後は、かえって前より

いい状態になる。㊤不打不成交。「大げんかの後、雨降って地かたまるで、

チームの結束が強くなった」

あ 5-70

あめ② 【飴】《名》なめたりしゃぶったりする菓子。餅米・イモ・砂糖などでつくる。㊤糖。飴糖。

【飴と鞭】支配や指導などの方法として、一方では甘くして、一方では厳し

くすること。㊤糖果与鞭子双管齐下。奖惩并行。「あめとむちをうまく使い

わけて、選手を育てる」

あ 5-72

あめあがり③ 【雨上がり】《名》雨がやんだすぐ後。あまあがり。㊤雨后。

雨停之后。「雨上がりに虹が出た」

あ5-73

アメダス① 【AMeDAS】《名》「Automated Meteorological Data Acquisition System (地域気象観測システム)」の略。日本各地の約1300か所の気象状況を1時間ごとに集計する。㊥自动气象数据观测系统。

あ5-74

あめつゆを-しのぐ 【雨露をしのぐ】雨や露を防ぐだけの粗末な住まいで、生きるための最低の生活を送る。㊥遮蔽雨露。勉強度日的生活。「雨露をしのぐだけの粗末な家で、細々と生きる」

あ5-75

あめもよう③ 【雨模様】《名》雨が降ってきそうな空の状態。また、小雨が降ったりやんだりする天気。あまもよう。㊥要下雨的样子。「雨模様だが、運動会は予定どおり行う」

あ5-76

アメリカ④ 《名》「United States of America (アメリカ合衆国)」の略。米国。㊥美国。

あ5-77

あやう・い①③ 【危うい】《形》「あぶない」のすこし古い言い方。㊥危険。

「船が沈んで、あやういところを助けられた」 ㊦危うさ

あ 5-78

あやうく① 【危うく】《副》もうすこしで悪いことが起こりそうだったよう

す。㊥险些。差一点儿。「スマホを見ながら歩いていて、あやうく車にぶつかりそうになった」

あ 5-79

あやか・る③ 《自動五》(あやかって) いい状態の人の影響を受けて、同じ

ようないい状態になる。㊥效仿。希望象…一样。「親友のしあわせに、わたしもあやかりたい」 ㊦あやかり

あ 5-80

あやし・い①③ 【怪しい】《形》①ようすが変だ。㊥奇怪的。可疑的。「あ

やしい男が家の中をのぞいている」②疑わしくて信用できない。㊥难以相

信的。不可靠的。「その話は条件がよすぎて、あやしい」③男女の間で秘密

の関係がありそうだ。㊥(男女之间)关系暧昧的。关系可疑的。「あの2人は

あやしい」 ㊦話 △㊦怪しさ

あ 5-81

あやし・む③ 【怪しむ】《他動五》(あやしんで) 変だへんと思うおも。疑うたがわしいと
思おもう。㊥怀疑。觉得可疑。「バラが美うつくしいので、庭にわをのぞいていたら、あや
しまれた」 類うたが疑う

あ 5-82

あやつりにんぎょう⑤ 【操り人形】《名》①糸いとや手てで動うごかして、いろいろな
動どう作さができるようにしてある人形にんぎょう。また、その人形にんぎょうを使つかってする芝居しばい。㊥
木偶。木偶戏。 類うたがマリオネット ②自じ分ぶんの意い志しを持もたず、たただ他た人にんの言いうと
おりに動うごく人ひと。㊥被人操纵的木偶。傀儡。「力ちからのない社しゃ長ちょうは、会かい長ちょうの操あやつり
人形にんぎょうだ」 類かいらい傀儡

あ 5-83

あやつ・る③ 【操る】《他動五》(あやつって) ①物ものを動うごかして使つかう。㊥操
作。操纵。「糸いとをうまく操あやつって、たこそらたかを空そら高たかくああげあげる//人形にんぎょうを操あやつる」②自じ分ぶん
の思おもいどおりに使つかいここななす。㊥驾驭。「パブロは5か国語こくごを操あやつって営えい業ぎょうする」
③自じ分ぶんは陰かげにいて、人ひとや物もののごとを思おもいどおりに動うごかす。㊥幕后操纵。「マス
コミを操あやつって、世論よろんを動うごかす」 △名あやつ操り 類そうさ操作する

あ 5-84

あやぶ・む③ 【危ぶむ】《他動五》(あやぶんで) 悪い結果になるのではな

いかと心配する。㊥担心。担忧。「話し合いが決裂しそうで、交渉の成立を

あやぶむ」 類懸念する. 危惧する

あ 5-85

あやふや① 《形動》はっきりしていなくて、確かでないようす。㊥含糊。

模稜两可。「あやふやな説明では納得できない」 話 類あいまい. いい加減

あ 5-86

あやまち③① 【過ち】《名》①やりそこなうこと。失敗。㊥错误。失败。「ま

だ若いのだから、過ちを恐れずに挑戦しなさい」②意図的ではなく、犯し

てしまった罪。㊥罪过。过失。「一生をかけて、過ちを償う//過ちを犯す」

類過失③男女関係での過失。㊥(男女关系方面的)过错。过失。「若いときの

あやま 過ちが、人生を狂わせた」△ 他動 過つ 類まちがい

あ 5-87

あやま・る③ 【誤る】《他動五》(あやまって) 不適切な判断をする。まち

がえる。㊥失误。弄错。「運転を誤って、崖から落ちた//職業の選択を誤

った」 名 誤り

あ 5-88

あやま・る③ 【謝る】《他動五》(あやま^て) 自分^{じぶん}が悪^{わる}かったことを認め
て、その気^き持^もちを相^あ手^てにこ^みとばや身^みぶ^りで伝^{つた}える。㊥賠^{あやま}礼^り。道^{あやま}歉^ま。「約^{やく}束^{そく}の時^じ
間^{かん}に遅^{おく}れて、『ごめ^{あやま}んなさい』と謝^{あやま}った」 名^{あやま}謝^り 類^{あやま}わ^びる。謝^{あやま}罪^{ざい}する

あ 5-89

あゆみ③ 【歩み】《名》①歩^{ある}くこと。㊥脚^{あゆ}歩^と。歩^{あゆ}行^と。「歩^{あゆ}み^とを止^とめる」②も
の^{しんこう}ご^あとの進^あ行^{まな}。㊥進^{あゆ}程^{まな}。進^{あゆ}展^{まな}状^{まな}況^{まな}。「ア^{あゆ}ジ^{まな}ア^{まな}諸^{まな}国^{まな}の近^{あゆ}代^{まな}の歩^{あゆ}み^{まな}を学^{まな}ぶ」 △自^{あゆ}動^{まな}

あゆ
歩む

あ 5-90

あゆみよ・る④④ 【歩み寄る】《自動五》(あゆみよ^{って}) ①歩^{ある}いて近^あ寄^{ちかよ}る。
㊥走^あ近^{ちかよ}。「相^あ手^{ちかよ}に歩^あみ^{ちかよ}寄^{ちかよ}って、小^こ声^{ごえ}で話^{はな}した」②意^い見^{けん}や主^{しゅ}張^{ちやう}をゆ^あず^あり合^あって、
もの^{かいけつ}ごと^{つと}が解^あ決^あするよ^あうに努^あめ^ある。㊥互^あ相^あ让^あ歩^あ。妥^あ協^あ。「労^あ使^あが歩^あみ^あ寄^あって、
賃^{ちん}上^あげの額^{がく}が決^きまった」 △名^{あゆ}歩^よみ寄^り

あ 5-91

あゆ・む② 【歩む】《自動五》(あゆんで) ①「歩く」の文学的な言い方。

㊥行走。「溪谷にそって歩む」②月日を送る。㊥度過。「母は、苦難に満ちた人生

を歩んだ」 △名歩み 書

あ 5-92

あら①② 《感》驚いたり、感動したりしたときに言うことば。㊥唉呀。哎

呦。「あら、久しぶりね//あら、虹が出てる」

あ 5-93

アラーム② 《名》(alarm) ①警報。警報装置。㊥警報。警報装置。②目覚ま

し時計。㊥闹钟。

あ 5-94

あらあらし・い⑤ 【荒荒しい・荒々しい】《形》動作やことばが乱暴で、激し

い。㊥粗暴的。粗野的。「警官は、『じゃまだ、どけ、どけ』と荒々しく叫ん

だ」 名荒々しさ

あ 5-95

あら・い①② 【荒い】《形》① 勢いきおいが強つよく、激はげしい。㊦ 剧烈的。凶猛的。「波なみが荒あらくて泳およげない」② 行こうどう動や性せいかく格が激はげしい。㊦ (行こうどう为、性せいかく格等) 粗暴的。「金かねづかいが荒あらい//気きが荒あらい」 名あら荒さ

あ 5-96

あら・い① 【粗い】《形》① 網あみ・布ぬのなどのすきまや粒つぶが大おおきい。㊦ 粗的。大いた的。「目めの粗あらい網あみ」 対こま細ひょうめんかい ② 表ひょうめん面がざらざらしている。㊦ 粗糙的。「板いたの表ひょうめん面が粗あらいので、やすりでよくみかく」③ 大おおざっぱで、細こまかいところまで配はいりよ慮いしていない。㊦ 粗枝大叶的。粗略的。「費ひよう用を粗あらく見み積つもる」 △名あら粗さ

あ 5-97

あら・う① 【洗う】《他動五》(あらって) ① 水みずなどで、汚よごれを落おとす。㊦ 洗。「食しょくじ事の前まえに手てを洗あらう//髪かみを洗あらう」② 波なみが打うち寄よせて、物ものにかかる。㊦ 冲たいふう洗。冲刷。「台たいふう風の大おおなみ波きしが岸あらを洗あらう」③ 事じじつ実を明あきらかにするたしらめに調しらべる。㊦ 调查。查明。「身みもと元あらを洗あらう」 △名あら洗い

あ 5-98

あらかじめ① 《副》ものごとの始はじまる前まえに。㊦ 预先。事前。「あらかじめ電でんわ話わしてから、訪ほうもん問する」 類まえ前もって

あ 5-99

あらかせぎ③④ 【荒稼ぎ】《名・自動～する》手段を選ばないで、一度にたくさんかせぐこと。㊥发横財。投机倒把。「開発地の売買で荒稼ぎする」

あ 5-100

あらかた① 《副》全部ではないが、大部分に達しているようす。㊥大部分。

几乎全部。「今年度の予算はあらかた使った」 類ほとんど. だいたい. おおかた. ほぼ

あ 6-1

あらかずり①③ 【荒削り・粗削り】 I 《名・他動～する》ざっとけずっただけで、十分に仕上げをしていないこと。㊥粗削。「荒けずりの板で犬小屋をつくる」 II 《名・形動》十分でき上がっていないこと。また、そのようす。

㊥粗材。不成熟。「まだ荒けずりだが、将来は一流選手になるだろう」

あ 6-2

あらかがし③ 【粗探し】《名・自動～する》人や作品の欠点をさがしだすこと。また、それを言うこと。㊥挑毛病。吹毛求疵。「人のあらかがしをするより、自分の言動に気をつけよう」

あ 6-3

あらし① 【嵐】《名》①激しく吹く風。雨や雪をともなう場合にも言う。㊥

暴风雨。「あらし ふね けっこう」 ㊥風雨. 暴风雨. 台風 ②激しいものごと。

㊥暴风雨般（比喻大的事件、纠纷）。「えんそう お はくしゅ あらし お」

【あらし まえ しず】 大きな騒ぎが起こる前の、すこしの間の不気味な静け

さ。㊥暴风雨前的平静。「うま ちてん せい しゅんかん けいばじょう

あらし まえ しず つつ
は嵐の前の静けさに包まれた」

あ 6-5

あら・す② 【荒らす】《他動五》（あらしで）①乱暴して、物を傷つけたり、

こわ 壊したりする。㊥破壊。毀坏。糟踏。「いぬ かなん あ」 ㊥破壊する. 破損

する ②他人の建物や領域などに入って、金や品物を持ち去ったり、秩序を

みだ 乱したりする。㊥搶劫。骚扰。「どろぼう る すたく あ なわば あ」 △

㊥あ
名荒らし

あ 6-6

あらすじ② 【粗筋】《名》小説・劇・映画などのだいたいの内容。㊥概要。

梗概。「あらすじ よ えいが み がいよう」 ㊥概要. あらまし

あ 6-7

あらしあらしい②③ 【争い】《名》争あらしうこと。㊦争。競争。不和。「源げん氏が平へい氏と
の争あらしいに勝かった//首位しゅい争あらしい」 ㊦自他動争あらしう

あ6-8

あらしあらし・う③ 【争う】《自他動五》(あらしあらしって) ①相あいて手に勝かって、何なにかを得え
ようとする。㊦争。争奪。「成せい績せきの首しゅい位いを争あらしう」②けんかをする。敵てきたい対たいする。

㊦争。斗争。「親おやの遺い産さんをめぐって、兄きょうだい弟だいが争あらしう」③自じ分ぶんの正ただしさを主しゅちよう張ちようす
る。㊦争辯。争論。「土とち地しよの所しよ有う権けんを裁さい判ばんで争あらしう」④遅おくれないよういそに急いそぐ。

㊦争分夺秒。「土ど砂しゃに埋うまひつた人ひとの救きゆう出しゆつ作さ業ぎようは、一いっ刻こくを争あらしう」⑤(「争あらしえ
ない」の形かたちで)ある事じ実じつが現あらわれていて、否ひてい定ていできない。㊦不容争辯。「どん
なげんに元き気いと言いつても、年としは争あらしえない」 △名争あらしい

あ6-9

あらた① 【新た】《形動》新あたしいようす。新あたしくするようす。㊦新。重新。
「気き分ぶんを新あらたにする」

あ6-10

あらだあらだ・てる④ 【荒立てる】《他動一》①荒あら々あらしくさせる。㊦加劇。提高。
「声こえを荒あら立だてて口くちげんかをする」②ものごとを混こん乱らんさせて、いっめんそうどう面倒めんどうな

ことにする。㊥使…更复杂。使…更麻烦。「子どものけんかに親^{おや}が^で出て、ことを荒^{あら}立ててしまった」

あ 6-11

あらたま・る ㊦ 【改まる】《自動五》(あらたま^て) ①古^{ふる}いものが新^{あた}しいものにかわる。㊥更新。「あと 30分^{ぶん}で年^{とし}が改^{あら}まる」 ②悪^{わる}い点^{てん}・不備^{ふび}な点^{てん}がよくなる。㊥改^よ進^{きゆう}。改^け善^{っか}。「要^{よう}求^{きゆう}の結果^{けつ}、待^{たい}遇^{ぐう}が改^{あら}まった」 ③ふだんとは違^{ちが}う緊張^{きんちよう}した態^{たい}度^どになる。㊥郑^{じよう}重^し。一^{いっ}本^{ぽん}正^{せい}经^{けい}。「上^{じよう}司^しに對^{たい}しては、改^{あら}まったことばで話^はす」 △他^た動^{どう}改^{あら}め^る

あ 6-12

あらためて ㊧ 【改めて】《副》 ①別^{べつ}の機^き会^{かい}にやり直^{なお}すようす。㊥重^{じゆう}新^{しん}。再^{さい}。「論^{ろん}文^{ぶん}を書^かき直^{なお}して、改^{あら}め^て提^{てい}出^{しゆつ}した」 ②前^{まえ}に感^{かん}じたり考^{かん}え^たことを、もう一^{いち}度^ど強^{きやう}く感^{かん}じたり考^{かん}え^{たり}するようす。㊥再^{さい}次^じ。再^{さい}度^ど。「黄^{かう}河^がの雄^{ゆう}大^{だい}さに改^{あら}め^て感^{かん}動^{どう}した」

あ 6-13

あらた・める ㊨ 【改める】《他動一》 ①古^{ふる}いものを新^{あた}しいものと入^いれ替^かえ^る。㊥更^き改^{そく}。改^い変^{へん}。「規^き則^{そく}を一^{いち}部^ぶ改^{あら}め^る」 ②悪^{わる}い点^{てん}・不備^{ふび}な点^{てん}をよ^よくする。

㊦改。改正。^{はんせい}「反省して、^{おやふこう げんどう}親不孝な言動を^{あらた}改めた」③ふだんと違う、きちんとした態度をとる。㊦正式。庄重。^{ふくそう あらた}「服装を改めて、^{しきてん さんか}式典に参加する」④正しいかどうか、また、^{ほんもの しら}本物かどうか調べる。㊦検査。査驗。^{しよるい}「書類にまちがいが
ないか、^{あらた}改める」△^{あらた}名改め ^{あらた}自動改まる

あ 6-14

あらっぽ・い④⑤ 【荒っぽい】《形》^{あらあら}荒々しい。^{らんぼう}乱暴だ。㊦粗暴。粗野。「^{りょう}漁師たちは^{あら}荒っぽい^{どうさ ふね あやつ}動作で船を操っている」話

あ 6-15

アラビヤすうじ⑤ 【アラビヤ数字】《名》5、6^{せい き}世紀のころ、インドで^{はつめい}発明された^{すうじ}数字。その後、アラビヤに^{つた}伝わって^{せ かい ひろ}世界に広まった。0 から 9 までの 10 の^{すうじ}数字。算用数字。アラビア数字。㊦阿拉伯数字。「^{せいねんがつ び}生年月日は、^{よこが}横書きでアラビヤ^{すうじ か}数字で書くこと」関連^{かんすうじ}漢数字. ^{すうじ}ローマ数字. 一

あ 6-16

あらまし⑥ I 《名》^{じ けん}事件やことがらの^{だいたいのこと}だいたいのこと。㊦梗概。大略。「^{じ けん}事件のあらましについて^き聞く」類^{あらすじ がいりやく がいよう}類粗筋. 概略. 概要 II 《副》おおよそ。だいたい。㊦大致。大体。「^{ろんぶん}論文はあらまし^{か あ}書き上げた」

あ 6-17

あらゆる③ 《連体》ある限りのもの全部。㊥所有。一切。「世界中の、あらゆる人々が平和を望んでいる」 類すべての

あ 6-18

あられ④ 【霰】《名》①空から降ってくる氷の小さい粒。㊥冰雹。霰。「あられが屋根に当たってパラパラ音がしている」②餅を小さく切って、いったり油で揚げたりして味をつけたもの。㊥切成小块儿的年糕。「3時のおやつは、あられとお茶だ//ひなあられ」

あ 6-19

あらわ①① 【あらわ〔露〕わ】《形動》隠していたものが、はっきり見えるようす。㊥暴露。公然。「怒りをあらわにする」 類あからさま.むきだし

あ 6-20

あらわ・す③ 【表す】《他動五》(あらわして) 考え・感情などを、ことば・絵・音・表情・身ぶりなどで示す。㊥表达。表現。「喜びの気持ちを表す//この思いは、ことばでは表せない」 自動表れる 類表現する

あ 6-21

あらわ・す③ 【現す】《他動五》(あらわして) 今^{いま}まで隠^{かく}れていたものを、外^{そと}に見^みえるようにする。㊥**显现**。出現。「雲^{くも}の間^{あいだ}から月^{つき}が姿^{すがた}を現^{あらわ}した//本性^{ほんしょう}を現^{あらわ}す」 自動^{あらわ}現^{あらわ}れる 対^{かく}隠^{かく}す

あ 6-22

あらわ・す③ 【著す】《他動五》(あらわして) 書物^{しょもつ}を書^かいて出版^{しゅつぱん}する。㊥**著**。著書。「老作家^{ろうさつか}が自伝^{じでん}小説^{しょうせつ}を著^{あらわ}した」 類^{ちよじゆつ}著^{ちよさく}述^{じゆつ}する。著作^{ちよさく}する

あ6-23

あらわ・れる④ 【表れる】《自動一》^{かんが}考え・^{かんじょう}感情などが、ことば・^え絵・^{おと}音・
^{ひょうじょう}表情・^み身ぶりなどで^{しめ}示される。㊦^{ひょうじょう}显出。表露。「^{ごうかく}合格の^{よろこ}喜びが^{かお}顔に^{あらわ}表れて

いる」^{あらわ}名表れ ^{あらわ}他動表す

あ6-24

あらわ・れる④ 【現れる】《自動一》①^{いま}今まで^{かく}隠れていたもの・^ななかったもの
が、^で出てくる。㊦^{ゆき}露出。出現。「^{ゆき}雪がとけて、^{くろ}黒い^{じめん}地面が^{あらわ}現れた」^{かく}対隠れ
る ②^ばその^で場に出てくる。㊦^{あらわ}出現。「この^{へん}辺には^あときどき^{あらわ}クマが現れる」^類類

^{しゅつげん}出現する △^{あらわ}名現れ ^{あらわ}他動現す

あ6-25

ありあまる④① 【有り余る】《自動五》(ありあまって) あまるほどたくさ
んある。㊦^{のうりよく}有余。有^{しやかい}很多。「ありあまる^{やくだ}能力を、^あ社会に^あ役立てる」

あ6-26

ありありと③ 《副》①^{じっさい}実際には^み見えないが、^{ほんとう}本当に^み見えるように^{かん}感じられ
るようす。㊦^{こきょう}逼真地。^{おも}清清楚楚。「^は故郷を^{すがた}思うとき、^め母の姿が^あありありと^め目

に浮かぶ」**類** 彷彿 ② 気持ちなどが、顔や態度にはっきり表れているよう

す。Ⓜ 如实地。「負けた悔しさが、ありありと表情に出ていた」 △**類** まざまざと

あ6-27

ありあわせ**①** 【有り合わせ】《名》ちょうどその場にあること。また、その物。Ⓜ 现成（的东西）。现有（的东西）。「昼ご飯は、ありあわせの物ですませる」

あ6-28

あり-え-ない 【有り得ない】《連語》あるはずがない。Ⓜ 不可能的。不会有**的**。「正直な弟が、そんなうそをつくことはありえない」 **対** 有り得る

あ6-29

ありがた・い**④** 《形》①うれしくて感謝したい気持ちだ。Ⓜ 感激的。感谢**的**。「月々もらっている奨学金は、本当にありがたい」②自然に敬いたくなる気持ちだ。Ⓜ 难得的。可贵的。「高僧のありがたい話に感動した」 △**名** ありがたさ. ありがたみ

あ6-30

あ 6-35

ありとあらゆる①・③ 《連体》「あらゆる」を強めた言い方。㊥**所有。一切。**

「起こりうる、ありとあらゆる事態を想定して準備する」

あ 6-36

ありのまま⑤ 《名・副》隠すことなく、**実際のとお**りであること。㊥**実**事

求是。据实。「いじめの実情を、ありのままに先生に伝える」

あ 6-37

アリバイ① 《名》(alibi) 犯罪などの事件が発生したとき、その現場以外の

所にいたという証明。現場不在証明。㊥**不在现场的证明。**「アリバイが認

められて、疑いが晴れた」

あ 6-38

ありふ・れる①④ 《自動一》(「ありふれた」「ありふれている」の形で) 平凡

で、どこにでもある。㊥**常見。常有。**「ありふれた表現では、人の心に響かない」

あ 6-39

ある① 《連体》はつきりしないものごと・人^{ひと}をさして言うことば。㊦某。

有。「ある人^{ひと}から聞いた話^{きはなし}」

あ6-40

あ・る① 【有る】《自動五》(あつて)①持^もっている。㊦有。拥有。「財産^{ざいさん}が

ある」②起^おこる。㊦发生。「けさ地震^{じしん}があつた」③行^{おこな}われる。㊦举行。「今度^{こんど}の

日曜日^{にちようび}に運動会^{うんどうかい}がある」④備^{そな}わっている。㊦有。具有。「気品^{きひん}がある//貫禄^{かんろく}が

ある」△ない

あ6-41

あ・る① 【在る】《自動五》(あつて)①物^{もの}が存在^{そんざい}する。㊦有(表存在)。「庭^{にわ}に

木^きがたくさんある」②そこ^{そこ}に存在^{そんざい}する。㊦在。位于。「母^{はは}の家^{いえ}は東京^{とうきょう}にある」

△ない

あ6-42

あるいは② I 《接続》同^{おな}じ種^{しゅるい}類^なの中^{なか}の、どれか^{ひと}1つであることを表^{あらわ}す。㊦

或。或者。「あすは、雨^{あめ}あるいは雪^{ゆき}になるでしょう//出席^{しゅつせき}するか、あるいは、

欠席^{けつせき}するか、早^{はや}く決^きめてほしい」類^{るい}または、それとも II 《副》確^{たし}かではな

いがそうかもしれない。もしかすると。㊦**或许。也许。**「疑問も残るが、ある
いは、**事実**かもしれない」 △**書**

あ6-43

アルカリ**㊦** 《名》(㊦alkali) 水にとける**塩基**の**総称**。赤いリトマス**試験紙**
を青く**変える**。㊦**碱。強碱。**「アルカリ性/**碱性**//アルカリ反応」 **対酸**

あ6-44

ある・**く****㊦** 【**歩く**】《自動五》(あるいて) ①**足を動かして、前に進む**。㊦
走。歩行。「**駅まで歩いて20分かかる**」 **類**歩行する、歩む ②**徒歩や乗り物で、**
あちこち移動する。㊦**到处走(歩行或乗車)**。**周游。**「**旅行が好きで、世界中を**
歩いている」③**長い年月を過ごす**。㊦**走过漫长的岁月。**「**ずっと会社の営業部**
門を歩いてきた」 △**名**歩き

あ6-45

アルコール**㊦** 《名》(㊦alcohol) ①**燃料や薬品となる無色の液体**。㊦**酒**
精。乙醇。「**エチルアルコール**」②**酒類**。㊦**酒。酒类。**「**アルコール中毒**」 **俗**

あ6-46

アルコールいぞんしょう⑦ 【アルコール依存症】《名》^{さけるい ちょうきかん たりょう}酒類を長期間、多量に^{の つづ}飲み続けているうちに、やめようとしてもやめられなくなる^{じょうたい}状態。Ⓜ酒精依赖。饮酒成瘾。

あ6-47

アルツハイマーびょう⑩ 【アルツハイマー病】《名》^{のうさいぼう いしゆく}脳細胞の萎縮によって^{お きおくりよく おとろ びょうき じん}起こる、記憶力が衰える病気。ドイツ人アルツハイマーが^{ねん はじ}1907年に初めて^{ほうこく にん ち しょう いっしゅ}報告した。認知症の一種。Ⓜ阿耳茨海默病。老年痴呆症。

あ6-48

アルバイト③ 《名・自動～する》(ⓂArbeit) ^{ほんぎょう がっこう べんきょう い がい}本業や学校の勉強以外に、^{しゅうにゅう え しごと}収入を得るために仕事をする事。バイト。Ⓜ兼职。临时工。

あ6-49

アルバム⑩ 《名》(album) ①^{しゃしん ほぞん ちょうめん しゃしんちょう}写真などをはって保存する帳面。写真帳。
Ⓜ相册。纪念册。②^{きょく あつ}いくつかの曲を集めてつくったレコードやCDなど。Ⓜ演唱专辑。

あ6-50

アルファベット④ 《名》(alphabet)ABCなど一定の順序に並べた、西洋の言語で使われる文字。ふつうはローマ字のAからZまでの26文字。㊦拉丁字母。

あ6-51

アルミ① 《名》「アルミニウム」の略。㊦铝。「アルミホイル」

あ6-52

アルミニウム④ 《名》(aluminium)金属元素の1つ。銀白色で柔らかくて軽い。アルミニウム。アルミ。元素記号は「Al」。㊦铝。

あ6-53

あれ① 《代名》①話す人からも聞く人からも離れていて、両方から見える物・こと・人をさすことば。㊦那。那个。「あれがスカイツリーです/那座塔是东京天空树」②目の前のことではないが、話す人も聞く人も知っている物・こと・人・時をさすことば。㊦那。「あれは、もう片づきました//あれから、どうなった？」△→付録「指示語のまとめ」③はっきり言いたくないことや、うまく言えないこと。㊦那个。「メールで書くのもあれですので、後で電話します」 話

あ 6-54

あれ①① 《感》^{おどろ}驚いたときや^{ふしん おも}不審に思ったときに言うことば。㊦哎呀。哎

㊦呀。「あれ、^{あめ ふ}雨が降ってきた//あれ、まあ」

あ 6-55

あれこれ② 《代名・副》あれやこれや。いろいろ。㊦这样那样。种种事情。

「ゆうべはあれこれ^{かんが}考^{ねむ}えて眠れなかった」

あ 6-56

あれつきり①⑤ 《副》あのときを^{さいご}最後として。あれきり。㊦从那以后。只

是那些。「3年前に^{ねんまえ}電話^{でんわ}があって、あれつきり^{れんらく}連絡がない」話

あ 6-57

あれは・てる④ 【荒れ果てる】《自動一》すっかり^あ荒れてしまう。㊦荒落。

荒涼。「故郷^{こきょう}の家^{いえ}は、住む人^{すひと}もなく荒れ果てた」

あ 6-58

あれもよう③ 【荒れ模様】《名・形動》①^{てんこう}天候^あが荒れそうなようす。㊦要闹

天气的样子。「台風^{たいふう}が近づいて、海^{うみ}は^あ荒れ^{もよう}模様だ」②ものごとの^{じょうきょう}状^{かいじょう}況・会場

の雰^{ふん}囲^い気^き・人^{ひと}の機^き嫌^{げん}などが、荒^あれ^れそ^うな^なよ^うす。㊥不^ふ平^{へい}静^{じやう}的^{てき}の^の样^{やう}子^し。生^{せい}气^き的^{てき}的^{てき}的^{てき}样^{やう}子^し。「国^{こく}会^{かい}は^は厄^{やく}介^{かい}な^な議^ぎ案^{あん}が^が多^{おほ}く^くて、荒^あれ^れ模^も様^{よう}だ」

あ 6-59

あ・れる ㊦ 【荒れる】《自動一》①天^{てん}気^きが^が悪^{わる}く^くな^なっ^て、雨^{あめ}風^{かぜ}や^や波^{なみ}が^が激^{はげ}しく^くな^なる。㊥变^{へん}天^{てん}。狂^{きやう}風^{ふう}暴^{ぼう}雨^う。起^{おこ}風^{ふう}浪^{なみ}。「台^{たい}風^{ふう}で^で海^{うみ}が^が荒^あれ^れて^てい^いる」②気^き持^もち^ちや^や生^{せい}活^{かつ}な^など^どが、穩^{おだ}や^やか^かで^でな^なく^くな^なる。㊥頹^{たい}廢^{はい}。荒^あ唐^{たう}。「希^き望^{ぼう}を^をな^なく^くし^して、酒^{さけ}に^に頼^{たよ}る^る荒^あれ^れた^た生^{せい}活^{かつ}だ」③土^と地^ちや^や建^た物^{ぶつ}な^など^どが、手^て入^いれ^れさ^され^れな^ない^いた^ため^め、乱^{みだ}れ^れた^た状^{じやう}態^{たい}に^にな^なる。㊥

荒^あ芫^{わん}。荒^あ落^{らく}。「し^しば^ばら^らく^く留^る守^すに^にし^した^たら、庭^{にわ}が^が荒^あれ^れて^てし^しま^まった」④皮^ひ膚^ふの^のあ^あぶ^ぶら^ら気^けが^がな^なく^くな^なっ^て、か^かさ^さか^かさ^さに^にな^なる。㊥粗^そ糙^{そう}。鞞^{はだ}裂^あ。「冬^{ふゆ}は^は肌^{はだ}が^が荒^あれ^れる」⑤も^もめ^めた^たり、予^よ想^{そう}外^{がい}の^の展^{てん}開^{かい}が^があ^あつ^つた^たり^りし^して、も^もの^のご^ごと^とが^がふ^ふつ^つう^うに^に進^{しん}行^{こう}し^しな^なく^くな^なる。

㊥紛^い乱^{けん}。「意^い見^{けん}の^の対^{たい}立^{りつ}が^が激^{はげ}しく、会^{かい}議^ぎは^は荒^あれ^れた」⑥相^{そう}場^ばが^が激^{はげ}しく^く動^{うご}く。㊥波^は動^{どう}劇^{げき}烈^{りやう}。「相^{そう}場^ばが^が荒^あれ^れて、株^{かぶ}で^で大^{おほ}損^{そん}した」 △名^あ荒^あれ

あ 6-60

ア^あレ^れル^るギ^ぎー ㊦㊧ 《名》(ⓉAllergie) ①医^い学^{がく}で、生^{せい}態^{たい}が^が特^{とく}定^{てい}の^の物^{ぶつ}質^{しつ}に^に過^か敏^{びん}に^に反^{はん}応^{のう}す^すこ^こと。鼻^び炎^{えん}・ぜ^ぜん^{ぜん}そ^そく^く・じ^じん^{じん}ま^{まし}ん^んな^など^どを^を引^ひき^おこ^こす。㊥过^か敏^{びん}症^{しやう}。「ア

レルギー^{たいしつ}体質//アレルギー^{はんのう}反応」②あるものごとに過敏^{かびん}に拒否^{きよひ}反応^{はんのう}を示すこと。㊦**過敏反応**。「パソコンアレルギー」俗

あ6-61

アレンジ^② 《名・他動～する》(arrange) ①計画^{けいかく}や予定^{よてい}などの、調整^{ちようせい}や手配^てをすること。また、配置^{はいち}をすること。㊦**安排**。**布置**。**調整**。②編曲^{へんきょく}や脚色^{きゃくしよく}をすること。㊦**編曲**。**编排**。

あ6-62

あわ^② 【泡】《名》①液体^{えきたい}が空気^{くうき}やガスなどを包^{つつ}んでできた玉^{たま}。㊦**泡**。**泡沫**。

「せっけんの泡^{あわ}を立てて手^てを洗^{あら}う」類あぶく ②口^{くち}のはしなどに出^でる、つばの小さな玉。㊦**口沫**。「泡^{あわ}を飛^とばして言^いい争^あう」

【泡^{あわ}を食^くう】^{おどろ}驚きあわてる。㊦**惊慌**。**慌张**。「留守^{るす}だと思^{おも}って入^{はい}った家^{いえ}に人^{ひと}がいたので、泥棒^{どろぼう}は泡^{あわ}を食^くって逃^にげた」

あ6-64

あわ・い^② 【淡い】《形》①色^{いろ}・光^{ひかり}・味^{あじ}などが薄^{うす}い。㊦**浅的**。**淡的**。「淡^{あわ}い

色^{いろ}の服^{ふく}//ほおに淡^{あわ}く紅^{べに}をさす」対濃^こい ②かすかなようす。ほのかなようす。

㊦**些微的**。**朦胧的**。「淡^{あわ}く消^きえた恋^{こい}//淡^{あわ}い思^{おも}い」

あ6-65

あわせて② 【併せて】《副》^{まえ}前のもの・ことにつけ^{くわ}加えて。㊥并。同时。「社^{しゃ}の

^{はんえい}繁栄を祝^{しゅく}し、あわせて、^{じゅうぎょういん}従業員^{へいあん}の平安^{いの}を祈る」 書

あ6-66

あわ・せる③ 【合わせる】《他動一》①^{ふた}2つ以上^{いじょう}のものをまとめて、^{ひと}1つ

にする。㊥合。合起。「手^てを^あ合わせて^{ほとけ}仏^{おが}を^{ちから}拝む//力^あを^{ただ}合わせる」②正しい基^き

^{じゅん}準^{いち}に一致させる。㊥調。对。「時計^{とけい}をテレビ^{じほう}の時報^あに合わせる」③調和・適合^{ちやうわ}

させる。㊥配合。调和。「伴奏^{ばんそう}に^あ合わせて^{うた}歌う」④加える。㊥加在一起。合计^{くわ}。

「3日間の参加者を合わせると、58人だ」 △合^あわす 名^あ合^あわせ 自^あ動^あ合^あう

【合^あわせる顔^{かお}がない】申^{もう}し訳^{わけ}なくて、その人^{ひと}に会^あえない。その人^{ひと}の前^{まえ}に出^でら

れない。㊥无^だ顔^い以^し对^{ばい}。没^{じやう}脸^し见^あ人^{かお}。「大^{だい}失^し敗^{ぱい}をして、上^{じやう}司^しに合^あわせる顔^{かお}がな

い」

あ6-68

あわただし・い⑤ 【慌^いただしい】《形》①忙^いしく、落^おちつかない。㊥慌^お忙^お

的。忙^り乱^り的。旅行^{りょこう}の前^{ぜん}日は、準^{じゅん}備^びであわただし^おかった」②変^{へん}化^かが急^{きゆう}で落^おち

つかない。㊥匆忙的。不穩的。「あわただしい政局」△名慌ただしさ 類せわしい

あ6-69

あわてふため・く㊦ 【慌てふためく】《自動五》(あわてふためいて) 思いがけないことに出あって、あわてて騒ぐ。㊥惊慌失措。手忙脚乱。「大きな揺れを感じて、あわてふためいて机の下にもぐった」 類うろたえる。狼狽する

あ6-70

あわ・てる㊧ 【慌てる】《自動一》①突然のことにあわて、落ちつきを失う。㊥惊慌。「レジで、財布がないのに気づいてあわてた」 類うろたえる。動じる。狼狽する ②ひどく急いで、何かをする。㊥急忙。赶紧。「母が危篤と聞いて、あわてて病院へ駆けつけた」

あ6-71

あわや㊨ 《副》もうすこしのところでたいへんなことが起こりそうだったが、そうならずにすんだようす。㊥眼看就要。险些。差点儿。「ハンドルを切りそこねて、あわや崖から落ちるところだった」 類危なく

あ6-72

あわれ① 【哀れ】 I 《名・形動》かわいそうだと思^{おも}うこと。また、そのよ

うす。㊥**可怜**。「おなかをすかした赤^{あか}ん坊^{ぼう}が、哀^{あわ}れな声^{こえ}で泣^ないている//哀^{あわ}れを

誘^{さそ}う」 類^{あいかん}哀^ひ感^{あい}. 悲^ひ哀^{あい}. 同^{どう}情^{じょう} II 《名》心^{こころ}にしみる 趣^{おもむき}や味^{あじ}わい。㊥**情趣**。情

感。「笛^{ふえ}の音^ねを聞^きくと、哀^{あわ}れを感^{かん}じる」 類^{じょうしゆ}情^{じょう}趣^{しゆ}

あ6-73

あわれっぽ・い⑤ 【哀れっぽい】《形》かわいそうだと思^{おも}わせるようすだ。

㊥**让人可怜的。可怜相的**。「雨^{あめ}にぬれた野^の良^ら猫^{ねこ}が、哀^{あわ}れっぽい声^{こえ}で鳴^ないている」

あ6-74

あわれ・む③ 【哀れむ】《他動五》(あわれんで) かわいそうに思^{おも}う。㊥**同**

情。怜悯。「両^{りょう}親^{しん}をなくした幼^{おさな}い子^こどもを哀^{あわ}れむ//同^{どう}病^{びよう}相^{あい}哀^{あわ}れむ」 名^{あわ}哀^{あわ}れ

み 類^{どうじょう}同^{どう}情^{じょう}する

あ6-75

あん① 【案】《名》① ^{かんが}考 え。 ^{おも}思いつき。㊥ ^{あん}想 法。 ^{しやう}主 意。「いい案が浮かぶ」

② ^{けいかく}計 画。㊥ ^{りやこう}計 划。 ^{あん}方 案。「旅行の案を立てる」③ ^{ぶんしょ}文 書 の ^{した}下 書 き。㊥ ^{たんとう}草 案。「担当

^{しゃ}者 が ^{さくせい}作 成 し た ^{あん}案 を、 ^{ぜんいん}全 員 で ^{けんとう}検 討 す る」

あ 6-76

あんい①② 【安易】《形動》^{かんたん}簡 単 に ^{かんが}考 え、いいかげんにするようす。㊥ ^{あんい}軽

^{えい}易。 ^{しんしん}不 經 心。「バブルに浮かれて、安易に事業を広げすぎた」 名 ^{あんい}安 易 さ

あ 6-77

あんうん① 【暗雲】《名》① ^{いま}今 に も ^{あめ}雨 が ^ふ降 り そ う な ^{けはい}気 配 の あ る ^{くろ}黒 い ^{くも}雲。㊥ ^う烏

^{うん}云。 ^{くろ}黒 云。「暗雲がたれ込めた不気味な空模様」② ^{せんそう}戦 争 な ど、何 か ^{おそ}恐 ろ し い こ

と が ^お起 こ り そ う な ^{けはい}気 配。㊥ ^{たいりつ}風 起 云 涌。 ^{げきか}形 勢 緊 迫。「対立が激化して、両民族の

^{あいだ}間 に は、 ^{あんうん}暗 雲 が ^た立 ち ^こ込 め て い る」 類 ^{あんえい}暗 影 △ 書

あ 6-78

あんがい①② 【案外】《副・形動》^よ予 想 や ^{きたい}期 待 し て い た こ と と ^{げんじつ}現 実 と が、だ

^{ちが}い ぶ 違 っ て い る よ う す。㊥ ^{ひょうばん}意 想 不 到。 ^{しばい}出 乎 意 料。「評判の芝居だったが、案外

^{つまらな}つま ら な か っ た」 類 ^い意 外 に。 ^{ぞんがい}存 外

あ 6-79

あんかん ㊦ 【安閑】《～たる連体・～と副》のんびりとしているようす。㊦

悠閑。安閑。「^{ちか}近い^{しょうらい}将来、^{おおじしん}大地震の^{かのうせい}可能性があると聞くと、^{あんかん}安閑としていら

れない」 類安穩

あ 6-80

あんき ㊦ 【暗記】《名・他動～する》^か書いた^{もの}物を見なくとも^い言えるように、

^{おぼ}覚えること。㊦背誦。熟記。「^す好きな^し詩を^{あんき}暗記する」 類暗唱

比較 ^{あんき}暗記・^{あんしょう}暗唱

2語とも覚えること。暗記は何も見ないで、言ったり、書いたりできるように覚えること。暗唱は覚えた文章などを何も見ないで言うこと。

◆物理の公式を暗記する/丸暗記

◆散歩しながら、漢詩を暗唱する

あ 6-81

あんぐり ㊦ 《～（と）副・自動～する》^{おどろ}驚いたり、あきれたりして、^{くち}口を

^{おお}大きく^あ開けているようす。㊦目瞪口呆。张大嘴巴。「^{ぶたい}舞台のマジックを、^こ子ど

もたちはあんぐりと^{くち}口を^あ開けて^み見ている」

あ6-82

アンケート①③ 《名・自動～する》(○enquête) おお ひと おな しつもん
て、^{こた}答えや^{いけん}意見を^{あつ}集める^{ちょう}調査^{さほう}方法。㊥^{ようし}问卷调查。「アンケート用紙」

あ6-83

あんごう① 【暗号】《名》^{なかま}仲間^{いみ}だけで^{ひみつ}意味^{あい}がわかるようにしてある^{ひみつ}秘密^{あい}の合
^ず図^{きごう}や^{きごう}記号。㊥^{あんごう}暗号^{かいせんじこく}。^し密碼。「^{あんごう}暗号^{かいどく}で開戦時刻を知らせる//暗号を解読する」

あ6-84

アンコール③ 《名・自他動～する》(○encore) ^{おんがっかい}音楽会^{よてい}で^{えんそう}予定^おの^お演奏^おが^お終わ
^{とき}った^{はくしゅ}時^よ、^よ拍手^よや^{ごえ}呼び声^{いちど}でも^{えんそう}う^{えんそう}一度^{えんそう}演奏^{えんそう}して^{えんそう}ほしい^{えんそう}と^{えんそう}希望^{えんそう}すること。また、そ
^{えんそう}れに^{えんそう}こたえて^{えんそう}演奏^{えんそう}すること。㊥(要求)重演。再演奏(唱)一次。

あ6-85

あんこく① 【暗黒】《名・形動》①^ま真^{くら}つ^{くら}暗^{くら}な^{くら}こと。また、そのようす。㊥^{くら}黒
^{くら}暗^{くら}。暗^{くら}。「^{ふか}深い^{うみ}海^{そこ}の^{あんこく}底^{せかい}は^{あんこく}暗黒^{せかい}の^{ふあん}世界^{ぼうりよく}だ」②^{ふあん}不安^{ぼうりよく}や^{ぼうりよく}暴力^{ぼうりよく}が^{ひろ}ひろ^{ひろ}が^{ひろ}って^{きぼう}希望^{きぼう}が^も持^もて
^{じょうたい}ない^{じょうたい}状^{じょうたい}態^{じょうたい}。また、そのようす。㊥^{くら}黒暗^{たこく}。不法^{せんりょう}横行^{せんりょう}。「^{たこく}他国^{せんりょう}に^{せんりょう}占領^{せんりょう}されて、^{あんこく}暗黒
^よの^{なか}世^{なか}の中^{なか}だ」

あ 6-86

あんさつ① 【暗殺】《名・他動～する》^{たいりつ}対立する^{たちば}立場や^{かんが}考^{ひと}えの^{ひと}人を、^{すき}すきをねら^{ころ}って殺^{ころ}すこと。㊦暗杀。「大統^{だいてうりょう}領^{ぼうと}が暴^{ぼうと}徒^{あんさつ}に暗殺された」

あ 6-87

あんざん① 【暗算】《名・他動～する》^{かみ}紙や^{けいさんどうぐ}計算^{つか}道具^{あたま}を使^{なか}わずに、^{あたま}頭^{なか}の中^{なか}で^{けいさん}計算^{えん}すること。㊦心算。「245^{えん}円^{まいぶん}の^{あんざん}タ^{えんはら}オル^{えんはら}3枚^{えんはら}分^{えんはら}を暗算して、735^{えんはら}円^{えんはら}払^{えんはら}った」

対^{ひっさん}筆算

あ 6-88

あんじ① 【暗示】《名・他動～する》①それとなくわかるように、^し知らせ^したり、^{かん}感^{かん}じ^{かん}させたりすること。また、そのことばや^{たいど}態^{たいど}度^{たいど}。㊦暗示。示意。「2^わ羽^わの^わカ^わラス^わの^わ絵^わが、^え不^え吉^えな^え運^え命^えを^え暗^え示^えして^えいた」 対^{めいじ}明^{めいじ}示^{めいじ} 類^{しき}示^{しき}唆^{しき}. ヒント ②知^しら^しず^し知^しら^しず^しの^しう^しち^しに^し人^しの^し心^しの^し中^しに、^{ひと}あ^{ひと}る^{ひと}気^{ひと}持^{ひと}ち^{ひと}を^{ひと}持^{ひと}た^{ひと}せ^{ひと}る^{ひと}こ^{ひと}と。㊦暗示。「『絶^{ぜっ}対^{ぜっ}勝^{ぜっ}つ』と、^{じぶん}自^{じぶん}分^{じぶん}に^{じぶん}暗^{じぶん}示^{じぶん}を^{じぶん}か^{じぶん}け^{じぶん}て、^{しあい}試^{しあい}合^{しあい}に^{しあい}臨^{しあい}む」

あ 6-89

あんじゅう① 【安住】《名・自動～する》①安心して住むこと。㊤安居。「定

ねんご あんじゅう ち 年後の安住の地をさがす」 ㊤永住 ②ある状態に満足して、変化やそれ以

じょう こうじょう のぞ 上の向上を望まないこと。㊤安于現状。「現状に安住して、上を望まない」

あ-6-90

あんしょう① 【暗唱】《名・他動～する》文章や詩などを覚え、何も見な

くても正確に言えるようにすること。㊤背诵。「百人一首を全部暗唱する」

㊤暗記⇒比較欄

あ6-91

あんしょうばんごう⑤ 【暗証番号】《名》前もって届けてある、本人だけが

知っている秘密の番号。預金の引き出しなどに使う。㊤密碼。「カードの暗証

ばんごう わす 番号を忘れて、現金が引きだせなかった」

あ6-92

あん・じる①③ 【案じる】《他動一》①あれこれ考えだす。工夫して考え

る。㊤琢磨出。动脑筋想出。「寄付金を集めるために、一計を案じる」②気に

かけて心配する。㊤担心。挂念。「老いた父の身を案じる」 △案ずる ㊤

あ 6-93

あんしん① 【安心】《名・自動～する・形動》心配がなく心が落ちついて
いること。㊤安心。放心。「飛行機が無事に着陸して安心した」
対心配. 不安

類安堵

比較 安心・安堵

2語とも心が落ちつくこと。安心は心配なことがない状態もいう。

安堵は不安の原因が解決してほっとすること。

◆このマンションはセキュリティがしっかりしているので安心だ/安心感

◆役目を果たし、安堵した/近所の強盗事件の犯人が捕まり、安堵した

あ 6-94

あんせい① 【安静】《名・形動》病人などが体を動かさないうで、静かに寝て
いること。また、そのようす。㊤静養。安静。「めまいが治まるまで安静にす

る//絶対安静

あ 6-95

あんぜん① 【安全】《名・形動》危険がなく、安心できること。また、その
ようす。㊤安全。「左右の安全を確認して発進する」
対危険 類無事. 安泰

あ6-96

あんぜんほしょう⑤ 【安全保障】《名》^{がいこく}外国から^{ぐんたい}軍隊が^せ攻めてきたときに、
^{じこく}自国の^{あんぜん}安全を守る^{まも}こと。㊥**安全保障**。「^{あんぜん ほしょうじょうやく}安全保障条約」

あ6-97

アンダーライン⑤ 《名》(underline) ^{よこが}横書きの^{ぶんしょう}文章で、^{ぶん}文や^{ごく}語句の^{した}下に引
^{せん}く線。下線。㊥**下划线**。㊦^{いっぽん}1本 ㊧^{ぼうせん}類傍線. サイドライン

あ6-98

あんたい⑥ 【安泰】《名・形動》^{こっか}国家・^{しゃかい}社会・^{ひと}人の^み身の上などが、^{ぶじ}無事であ
^{せんきよ}ること。㊥**安泰**。安寧。「^{せんきよ}選挙に^か勝って、^{しゅしょう}首相の^{ちい}地位は^{あんたい}安泰だ」 ㊦^{あんねい}類安寧. ^{あんぜん}安全

あ6-99

あんたん⑥ 【暗澹[’]】《～たる連体・～と副》^{みとお}見通しが^た立たなくて、^{ふあん}不安な
^{しつぎょう}ようす。㊥**暗淡**。「^{しつぎょう}失業と^{びょうき}病気が^{かさ}重なって、^{あんたん}暗澹たる^{ひび}日々だ」 ㊦^{さきま}類お先真っ暗

あ6-100

アンチ 【アンチ -】《接頭》(anti)「反」「非」「対」などの意味を表す。

㊥反…。反対。非…。「アンチ首相派//アンチ軍国主義」

あ 7-1

あんちゅうもさく ㊥㊦ 【暗中摸索】《名・自動～する》解決の手がかりがな

い状態で、いろいろのことを、試しにやってみること。㊥暗中摸索。海里撈

針。「次の新製品の開発を命じられているが、まだ暗中摸索だ」

あ 7-2

あんてい ㊥ 【安定】《名・自動～する》①ものごとが穏やかで、落ちついた

状態であること。㊥安定。稳定。「定職を得て、やっと生活が安定した」 ㊦

変動 ②物を置いたときに、すわり具合がいいこと。㊥穏。安穩。「底が広く

て安定した花瓶//安定が悪い椅子」 ㊦不安定

あ 7-3

アンテナ ㊥ 【名】(antenna) ①電波を空中に出したり受けたりするための、

金属製の装置。㊥天线。「パラボラアンテナ」②情報を得るための、手がかり

りとなるもの。㊥(探聴情報的) 天线。「アンテナショップ」

あ7-4

あんど① 【安堵^{しんぱい}】《名・自動～する》心配がなくなってほっとすること。

㊤放心。「母の病気は思ったより軽くて安堵した」 書 類安心⇒比較欄

あ7-5

あんな② 《形動》「あのよう^いな」のくだけた言^{かた}い方。㊤那么的。那样的。「あ

んなこわい映画はもういやだ」 話 →付録「指示語のまとめ」

あ7-6

あんない③ 【案内】《名・他動～する》①道^{みち}を教^{おし}えたり、知^しらない場^ば所^{しょ}を見^みせ

て歩^{ある}いたりすること。㊤向导。引导。「友^{とも}達^{だち}を案^{あん}内^{ない}して、東^{とう}京^{きやう}見^{けん}物^{ぶつ}をす^する」 類

ガイド ②内^{ない}容^{よう}やよ^よう^うす^すを^を知^しら^らせ^せる^るこ^こと。ま^また、そ^その^の通^{つう}知^ち。㊤通知。指南。

「結^け婚^{こん}式^{しき}の案^{あん}内^{ない}を^を送^{おく}る//入^に学^{がく}案^{あん}内^{ない}」 類手^て引^びき.し^しお^おり ③事^じ情^{じやう}を^を知^しっ^てい

る^るこ^こと。承^{しょう}知^ちし^して^てい^いる^るこ^こと。㊤所^し知^ち。知^ち道^{だう}。「す^すで^でに^にご^ご案^{あん}内^{ない}の^のと^とお^おり、弊^{へい}社^{しゃ}は

お^おお^おさ^さか ^いて^ん 大^だ阪^{はん}に^に移^い転^{てん}い^いた^たし^しま^ました^た//不^ふ案^{あん}内^{ない}」

あ7-7

あんに① 【暗に】《副》^{こころ おも}心に思っていることを、はっきり^{しめ}示すことなく、相^{あい}手に^て気づ^きかせるようす。それとなく。㊥暗中。悄悄。「暗に好きだとほのめかしたメールを送る」

あ 7-8

あんのじょう③ 【案の定】《副》^{よそう}予想していたとおりの^{けっか}結果になるようす。㊥不出所料。果然。「万博会場は、案の定、超満員だった」類果たして

あ 7-9

アンバランス③④ 《名・形動》(unbalance) つりあいが^と取れていないこと。㊥不平衡。不均衡。対バランス

あ 7-10

あんぴ① 【安否】《名》^{ぶじ}無事であるかどうか。㊥平安与否。「消息を絶った登山者の安否を気づかう」

あ 7-11

あんぽじょうやく④ 【安保条約】《名》^{にちべいあんぜん ほしやうじやうやく}「日米安全保障条約」の略。㊥日美安全保障条約。「日本とアメリカは安保条約を結んでいる」

あ 7-12

あんまり ④① 《形動・副》「あまり」を強めた言い方。㊥**过分**。「二度と来る

などはあんまりだ」 ㊦アクセントは形容動詞は④、副詞は①。

あ 7-13

あんみん ① 【安眠】《名・自動～する》安心して気持ちよく眠ること。㊥**睡**

熟。**安睡**。「道路工事の騒音で安眠できない//安眠妨害」 ㊦**不眠** ㊧**熟睡**

あ 7-14

あんもく ① 【暗黙】《名》黙っていて、何も言わないこと。㊥**沉默**。**黙不作**

声。「暗黙の了解」 ㊦**沈黙**、**無言**

あ 7-15

あんやく ① 【暗躍】《名・自動～する》まわりに知られないように、秘密に

活動すること。㊥**秘密活動**。**暗中活跃**。「情報を求めて、産業スパイが暗躍する」

あ 7-16

あんらく ㊦㊧ 【安楽】《名・形動》^{こころ からだ くつう}心も体も苦痛がなく、^{おだ}ゆったりと穏やかなこと。㊦安楽。舒适。^{げきどう ぜんはんせい}「激動の前半生をへて、^{いま あんらく ばんねん あんらくい す}今は安楽な晩年だ//安楽椅子」

類^{あんのん}安穩

あ7-17

あんらくし ㊨㊩ 【安楽死】《名》^{たす か のうせい びょうにん ほんにん ねが}助かる可能性のない病人を、本人の願いにもとづいて、^{くる いた すく ほうほう し}苦しみや痛みが少ない方法で死なせること。㊨安楽死亡。

^{びょうにん あんらくし きぼう}「病人が安楽死を希望するので、^{えんめい ちりょう}延命治療はしない」 類^{そんげん し}尊厳死